

< 自主研究 >

三宅島帰島住民アンケート調査 調査報告書

平成 17 年 5 月

 **株式会社 サーベイリサーチ センター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

< 自主研究 >

三宅島帰島住民アンケート調査 調査報告書

平成 17 年 5 月

 株式会社 **サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

目 次

調査概要

- | | |
|------------------|---|
| 1 調査実施の概要 | 1 |
| 2 調査回答者の属性 | 3 |

調査結果のまとめ

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 調査結果のまとめ (東洋大学社会学部教授 田中 淳) | 5 |
|------------------------------------|---|

調査結果

- | | |
|--------------------|----|
| 1 自宅の被害状況 | 6 |
| 2 帰島 | 9 |
| 3 世帯の家計 | 28 |
| 4 自宅の再建 | 36 |
| 5 復興 | 39 |
| 6 噴火前との意識の変化 | 64 |

付 1 調査票 (単純集計結果)

付 2 サーベイリサーチセンターの業務案内

調 査 概 要

調査概要

1 調査実施の概要

(1) 調査の目的

噴火と避難、そして帰島前後の住民の意識や生活面の問題点を把握することで、今後の三宅村復興の基礎資料として提供するとともに、世論に対して現状を伝達することを目的とする。

(2) 調査の内容

自宅の被害状況
帰島
世帯の家計
自宅の再建
復興
自然災害への意識

(3) 調査の設計

調査地域
島内全域

立入禁止区域と危険区域、高濃度地区は除外したが、これらの地域には居住者は皆無である。

調査対象

平成17年 4月24・25日時点で、帰島している世帯の全て

復旧関連事業に従事する本土からの来島者は除外した。

調査対象となる台帳（住民基本台帳とか帰島者名簿）が村役場に存在せず、母集団が確定しないため、全数（悉皆）調査とした。

対象者

20歳以上の世帯主またはこれに準ずる者

調査方法

面接法（回答カードを使用）

調査期間

平成17年 4月22日（金）～ 25日（月）

調査実施

株式会社 サーベイリサーチセンター

(4) 回収結果

有効回収数 : 364件

4月25日現在の推定帰島世帯数は本社調べで503世帯。これによる回収率は72.4%となる。

503世帯の根拠は、有効回収364、拒否93、多忙による郵送依頼46の合計である。調査員は存在する全住宅を訪問して確認を行ない、完璧を期した。但し、見落としを20%計上すると約600世帯となるが、ここまでの帰島はないものと思われる。

因みに、東京電力の通電世帯数は4月23日現在で1,063となっている。この数字はあくまでも「通電」世帯で、一時帰島も含まれていると思われる。

また、村が発行する「帰島確認書」は4月20日現在で512世帯となっている。但し、この確認書は支援制度に該当しない公務員等は除かれている。

(5) 調査協力

この調査は、次の2氏との共同研究として実施した。

東洋大学社会学部 教授 田中淳

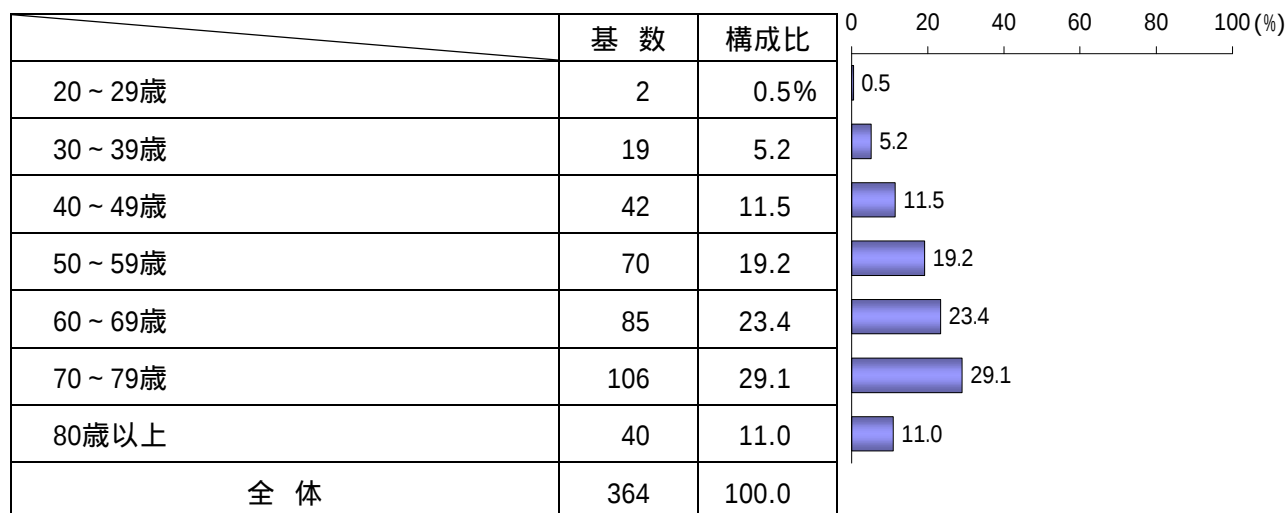
東京大学大学院情報学環 特任助手 関谷直也

2 調査回答者の属性

F1 性別



F2 年齢



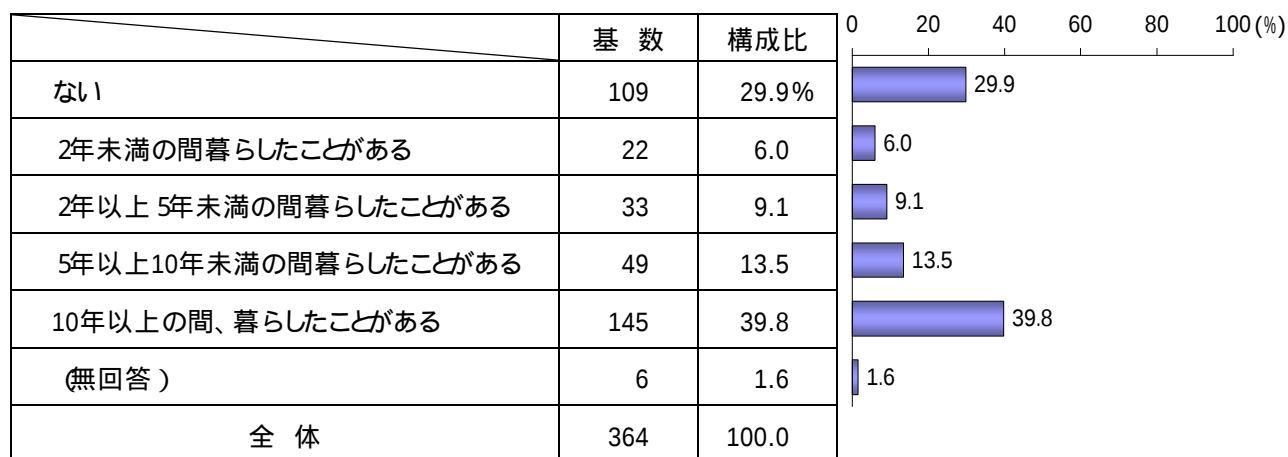
F3 出身



F4 噴火前の住まい



F5 島外での生活経験



調査回答者の住まい



帰島前後の居住地区の変遷 (噴火前の居住地区別)

		帰島後 (現在)					
		全体 (件数)	神着	伊豆	伊ヶ谷	阿古	坪田
帰島前 (噴火前)	全体 (件数)	364	35	47	20	150	112
	神着	39	89.7	-	-	5.1	5.1
	伊豆	45	-	100.0	-	-	-
	伊ヶ谷	20	-	-	100.0	-	-
	阿古	145	-	-	-	99.3	0.7
	坪田	115	-	1.7	-	3.5	94.8

調査結果のまとめ

調査結果のまとめ

東洋大学社会学部教授 田中 淳

2000 年 7 月 8 日夕方、三宅島は山頂から噴火した。17 年ぶりの噴火は、その後も断続的に山頂から噴火し、8 月 18 日 17 時 30 分頃には最大規模の噴火が、同月 29 日には低温で勢いのない火砕流が発生するに至った。これが 9 月 1 日の島外避難指示、それを受けての 2 日から 4 日にかけての島外避難へ、さらに火山ガスの放出による 4 年を超す長期の避難生活へとつながっていったのである。

それだけに三宅島住民にとって、帰島の開始は待ちに待った朗報だったことだろう。しかし、同時に多くの住民は生活再建に一抹の不安も感じていることでもあろう。雲仙普賢岳噴火災害や阪神・淡路大震災が教えたことは、復興の道は決して平坦なものではないということだったからである。ともすれば災害直後の被害に目を奪われがちだが、災害の復興の過程でも、個々の状況に起因する種々の生活問題を発生させ、復興格差を生み出しかねないのである。今回の調査は、この復興過程における島民の方々の声を集め、そこで生じる生活問題や復興格差の実態を明らかにすることを目的としている。

今回の調査は帰島している全世帯を対象とし、72%に当たる364 票の回答を得た。それらの回答から帰島者の実態と課題を見ると、第 1 に、どれだけ若い世代を呼び戻せるかである。帰島者についてみると、単身世帯が「噴火時」の 20%に対して「帰島後」は 29%と増えているのに対して、「3 世代世帯」は 31%から 24%へと減少している。また、3 割近くの世帯でまだ帰島していない家族がいるとしており、しかも「息子・娘」との回答が 64%と最も多い。物の復興だけではなく、学校であり、仕事であり、島での将来に期待できる生活再建が望まれている。

第 2 に健康的な生活の確保である。帰りたいが帰れない高齢者もいる。火山ガスが収まり、生活環境が整うことが大前提であるが、十分な医療・福祉サービスが必要と考えている人が 23%に達している。島外避難から 4 年を経て、身体的な不安を抱えるようになった人も多いのである。

第 3 に、経済的な復興である。噴火前の経済状況を 100%として、帰島後の現在の経済状況を評価すると、平均は 60%程度と低下している。今後の生計の見通しについては、「噴火の前より、少し苦しくなりそう」との回答が 42%を占め最も多く、「噴火の前より、相当苦しくなりそう」の 28%を合計すると「苦しくなる」は 7 割に達している。だからこそ、51%が政府の積極的な支援を求めている。

第 4 に、具体的に支援への要望をみると、火山噴火対策は 82%と高い。住宅の補修や再建補助の要望も 80%に達している。しかし、それ以上に、港湾・空港の整備を 93%が求めている。万が一の場合の避難や観光産業の復興に欠かせないまさにライフラインだからであろう。公民館・病院等の公共施設整備の 88%や福祉サービスの 79%も高い。前述した健康的な生活を支える基盤サービスだからであろう。

第 5 に、地域コミュニティ再生への願いと危惧とが回答から伺える点である。個々の専門サービスの提供には代えられない、まさに三宅島での生活を支えてきた長所だからこそ、願い、不安を感じているのである。復興はまだ端緒についたばかりである。これからの復興の過程で種々の生活問題が発生しかねない。それを丹念に掘り起こし、支援の手を差し伸べるとともに、問題を乗り越えていく上で地域のまとまりはかけがえのない力なのである。三宅島の一刻も早い復興を願い、本調査がその一助となればと祈念する。

調 査 結 果

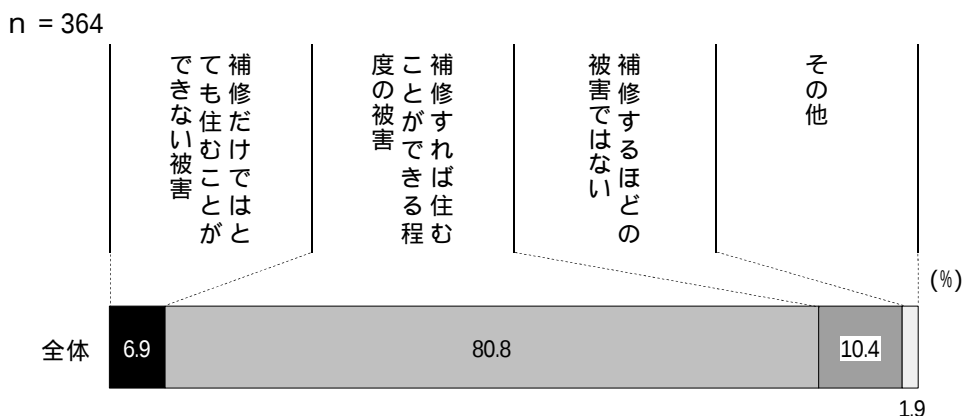
調査結果

1 自宅の被害状況

(1) 被害の程度

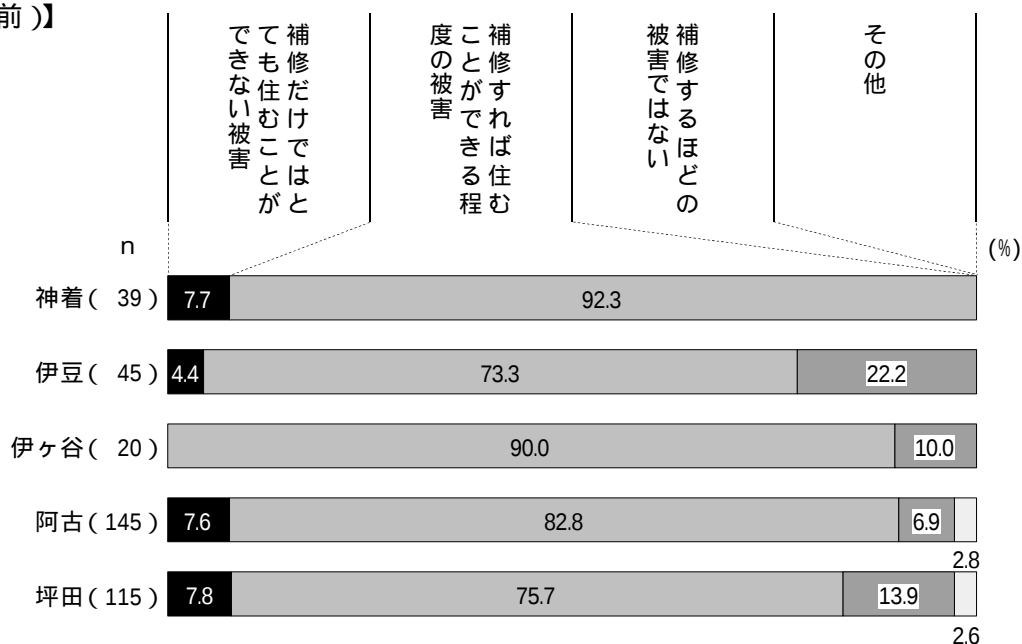
補修すれば住むことができる程度の被害」が8割

問1 帰宅してご自宅をごらんになられて、被害はどの程度でしたか。あてはまるものを1つお選びください。



自宅の被害については、「補修すれば住むことができる程度の被害」との回答が80.8%と最も高く、8割を占めている。次いで「補修するほどの被害ではない」が10.4%、「補修だけではとても住むことはできない被害」が6.9%となっている。

【地区別（噴火前）】



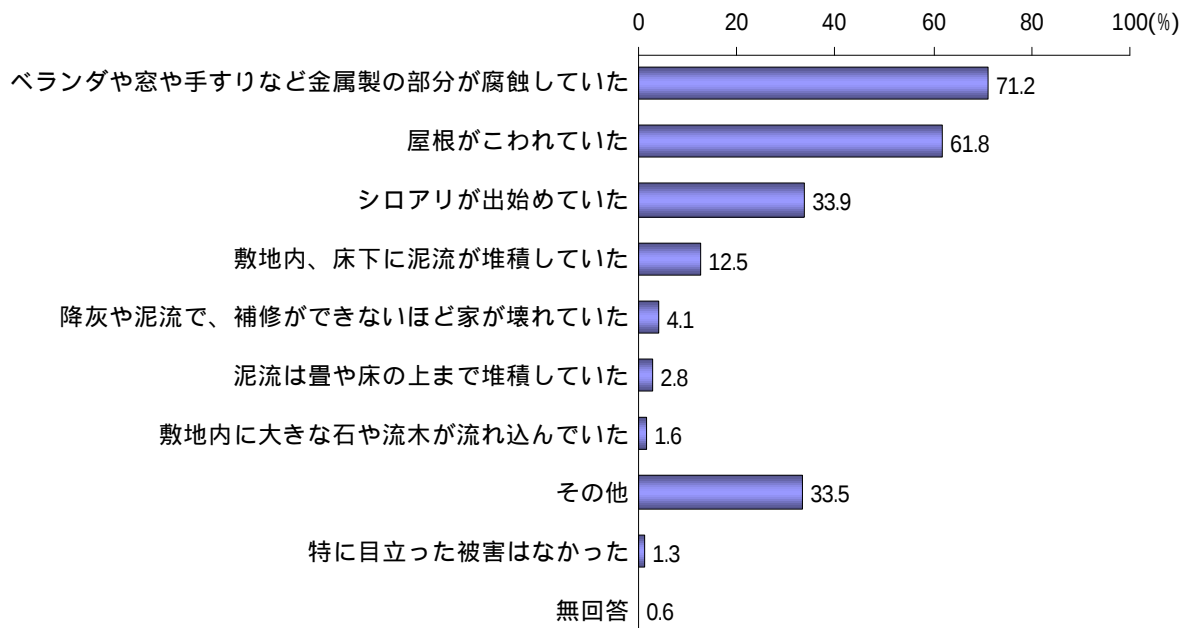
回答者が噴火前に居住していた地区別にみると、「補修すれば住むことができる程度の被害」は神着地区 (92.3%) と伊ヶ谷地区 (90.0%) で9割台に乗り高い。また、「補修するほどの被害ではない」は伊豆地区で22.2%と2割強を超え、比較的高くなっている。

(1 - 1) 被害の状況

金属製の部分が腐蝕」が7割、屋根がこわれた」が6割

問1 - 1 (問1で「1」あるいは「2」とお答えの方にお聞きします)
ご自宅の被害の状況はいかがでしたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 319



具体的な被害の状況については、「ベランダや窓や手すりなど金属製の部分が腐蝕していた」との回答が71.2%と7割を超えて最も高く、次いで「屋根がこわれていた」が61.8%と6割を超えている。また、「シロアリが出始めていた」が33.9%で3軒に1軒となっている。「その他」の具体的な内容としては、「ネズミによる被害」が最も多く、ほかには「畳が腐っていた」「電気製品の故障」などがある。

【地区別（噴火前）】

(n)		降灰や泥流で、補修が できない ほど家が壊れていた	敷地内、床下に泥流が堆積して いた	敷地内に大きな石や流木が流れ 込んでいた	泥流は畳や床の上まで堆積して いた	ベランダや窓や手すりなど金属 製の部分が腐蝕していた	屋根がこわれていた	シロアリが始めていた	その他	特に目立った被害はなかった	無回答
地区別 (噴火前)	神着 (39)	2.6	33.3	-	2.6	56.4	53.8	30.8	23.1	2.6	-
	伊豆 (45)	11.4	14.3	2.9	2.9	65.7	80.0	28.6	22.9	-	-
	伊ヶ谷 (20)	-	27.8	-	5.6	66.7	72.2	50.0	55.6	-	-
	阿古 (145)	3.1	6.1	0.8	1.5	80.9	58.0	29.8	31.3	0.8	0.8
	坪田 (115)	4.2	9.4	3.1	4.2	66.7	61.5	39.6	40.6	2.1	1.0

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

回答者が噴火前に居住していた地区別にみると、「屋根がこわれていた」が伊豆地区で8割(80.0%)、伊ヶ谷地区で7割強(72.2%)を占め、他の地区に比べて高くなっている。また、「ベランダや窓や手すりなど金属製の部分が腐蝕していた」は、阿古地区で8割(80.9%)を占めている。

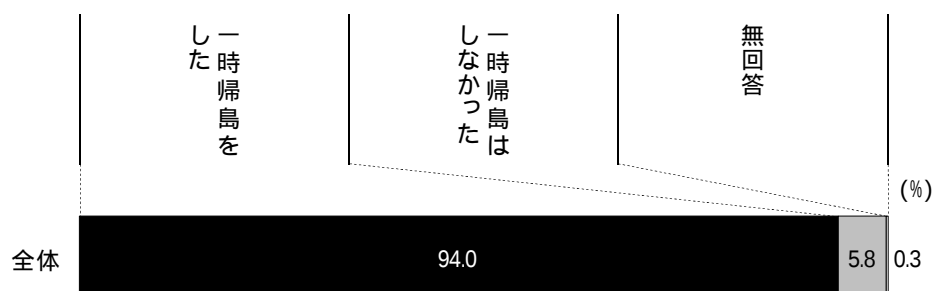
2 帰島

(1) 一時帰島の経験と回数

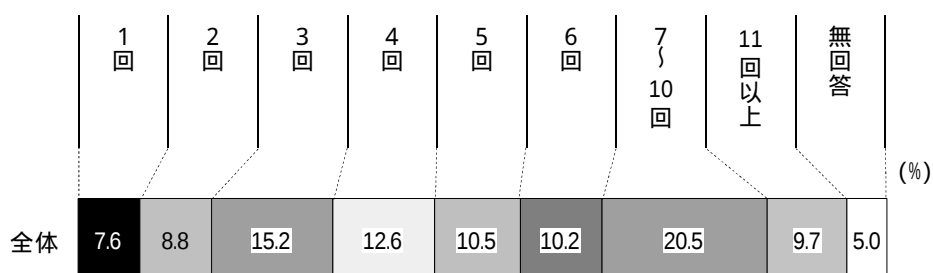
「一時帰島をした」が9割台半ばで、平均回数は6回強

問2 あなたは、避難生活中、一時帰島をされましたか。あてはまるものを1つお選びください。
また、一時帰島をされた方は、その回数を教えてください。

n = 364



< 一時帰島の回数 > n = 342



避難生活中の一時帰島については、「一時帰島した」との回答が94.0%と大多数を占めている。

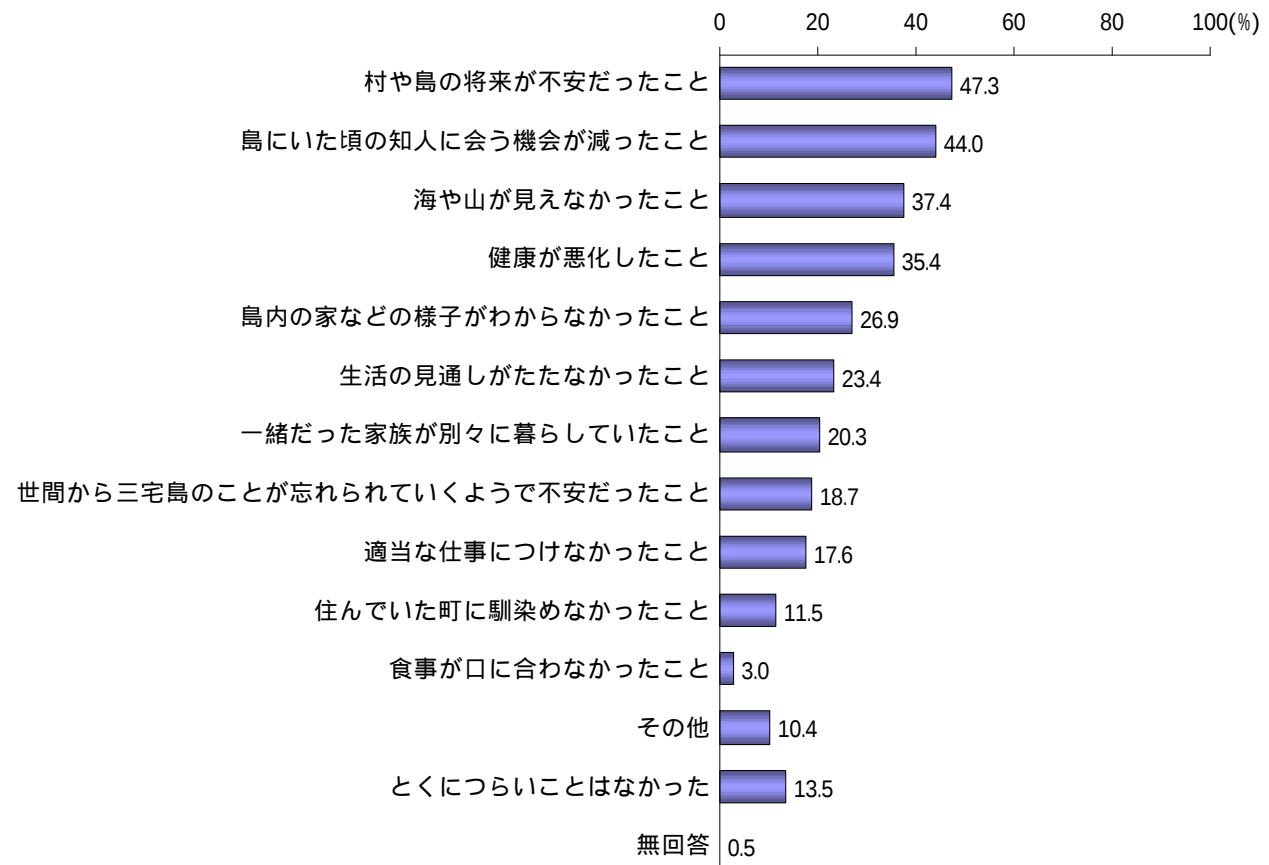
また、一時帰島をした人の回数は、「1～5回」が54.7%、「6～10回」が30.7%、「11回以上」が9.7%で、その平均は6.1回となっている。

(2) 避難生活でのつらい思い

「村や島の将来が不安」が5割弱、知人に会う機会が減った」が4割強

問3 避難生活で、あなたやご家族はつらい思いをされていたことと存じますが、具体的にどのようなことがございましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 364



避難生活中のつらい思いについては、「村や島の将来が不安だったこと」との回答が47.3%と最も高く、半数に近い。以下、「島にいた頃の知人に会う機会が減ったこと」が44.0%、「海や山が見えなかったこと」が37.4%、「健康が悪化したこと」が35.4%などとなっている。また、「とくにつらいことはなかった」が13.5%と1割を超える。

【年齢別】

(n)		島にいた頃の知人に会う機会が減ったこと	一緒に暮らした家族が別々に暮らしていたこと	海や山が見えなかつたこと	住んでいた町に馴染めなかつたこと	健康が悪化したこと	島内の家などの様子がわからなかつたこと	適当な仕事につけなかつたこと	生活の見通しがたたなかつたこと	村や島の将来が不安だったこと	世間から三宅島のことが忘れられていくような不安だったこと
年齢別	20～29歳 (2)	-	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-
	30～39歳 (19)	21.1	52.6	15.8	-	21.1	5.3	-	26.3	36.8	15.8
	40～49歳 (42)	35.7	35.7	35.7	4.8	9.5	33.3	23.8	26.2	50.0	7.1
	50～59歳 (70)	51.4	31.4	42.9	7.1	34.3	28.6	18.6	27.1	61.4	25.7
	60～69歳 (85)	44.7	10.6	34.1	15.3	40.0	25.9	27.1	24.7	48.2	18.8
	70～79歳 (106)	44.3	11.3	41.5	14.2	44.3	30.2	15.1	20.8	43.4	22.6
	80歳以上 (40)	50.0	15.0	35.0	15.0	40.0	22.5	5.0	15.0	35.0	10.0

(n)		か食事が口に合わなかつたこと	その他	はとくにたつたこと	無回答
年齢別	20～29歳 (2)	-	-	-	-
	30～39歳 (19)	-	10.5	10.5	-
	40～49歳 (42)	-	9.5	16.7	-
	50～59歳 (70)	2.9	12.9	10.0	-
	60～69歳 (85)	2.4	8.2	14.1	1.2
	70～79歳 (106)	5.7	11.3	14.2	-
	80歳以上 (40)	2.5	10.0	15.0	2.5

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

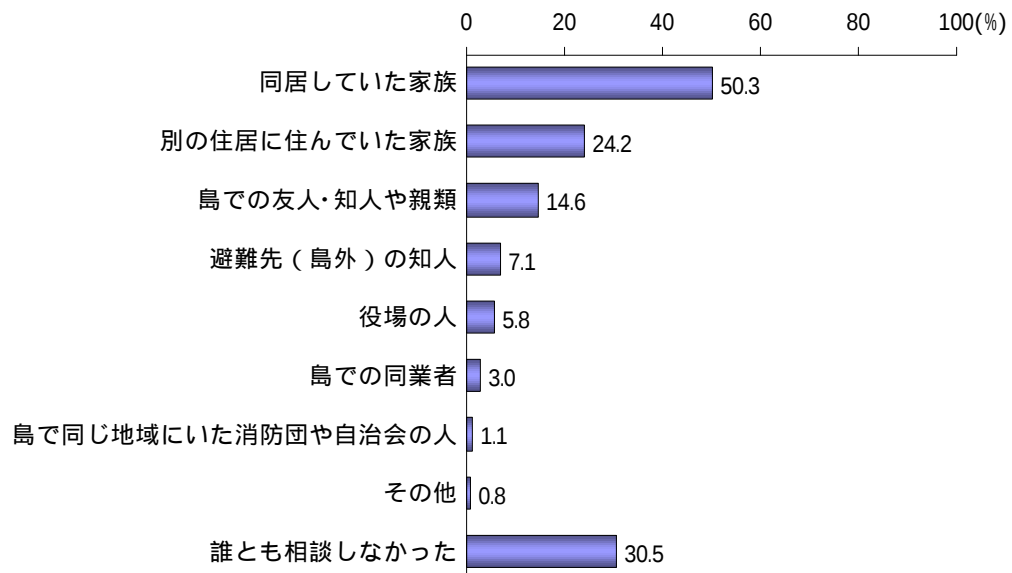
調査回答者の年齢別にみると、「村や島の将来が不安だったこと」が50～59歳で6割以上 (61.4%)、40～49歳で5割 (50.0%)を占め、他の年齢層に比べて高くなっている。「生活の見通しがたたなかつたこと」は年代が高くなるほど低くなっている。また、「一緒に暮らした家族が別々に暮らしていたこと」が30～39歳で5割強 (52.6%)、40～49歳で3割台半ば (35.7%)、50～59歳で3割強 (31.4%)と、全体と比べて10ポイント以上高くなっている。なお、「健康が悪化したこと」が60歳以上の年代で4割を超えている。

(3) 帰島での相談相手

同居していた家族」が半数で、誰とも相談しなかった」が3割

問4 あなたは、帰島に際して、誰かと相談をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 364



帰島する際に誰かと相談したかについては、「同居していた家族」との回答が50.3%と最も高く、過半数となっている。次いで「別の住居に住んでいた家族」が24.2%と4人に1人である。一方、「誰とも相談しなかった」との回答が30.5%と3割を超えている。

【年齢別】

(n)		同居していた家族	別の住居に住んでいた家族	島での友人・知人や親類	役場の人	島で同じ地域にいた消防団や自治会の人	島での同業者	避難先（島外）の知人	その他	誰とも相談しなかった
年齢別	20～29歳 (2)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (19)	73.7	21.1	52.6	-	-	10.5	21.1	-	5.3
	40～49歳 (42)	69.0	14.3	14.3	4.8	2.4	7.1	16.7	-	28.6
	50～59歳 (70)	48.6	21.4	12.9	4.3	1.4	2.9	5.7	2.9	40.0
	60～69歳 (85)	54.1	21.2	7.1	3.5	-	3.5	-	-	34.1
	70～79歳 (106)	41.5	32.1	17.0	10.4	1.9	0.9	8.5	0.9	27.4
	80歳以上 (40)	35.0	27.5	10.0	5.0	-	-	5.0	-	30.0

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

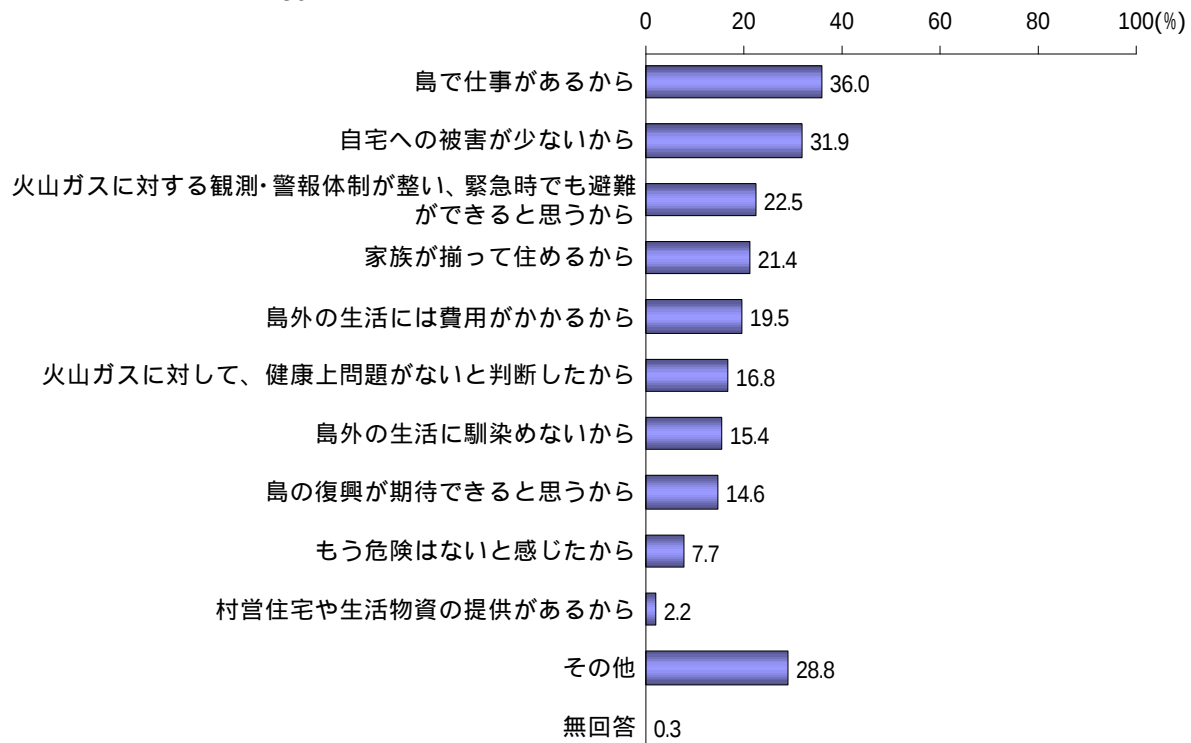
調査回答者の年齢別にみると、「同居していた家族」が若年層で高くなっている一方、80歳以上では35.0%と最も低くなっている。

(4) 帰島を決めた理由

「島で仕事がある」が3割台半ば、「自宅への被害が少ない」が3割強

問5 あなたが帰島しようと思った理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 364



帰島を決めた理由については、「島で仕事があるから」との回答が36.0%と最も高く、次いで「自宅への被害が少ないから」が31.9%となっており、この2つは3割台である。このあとの「火山ガスに対する観測・警報体制が整い、緊急時でも避難ができると思うから」の22.5%と「家族が揃って住めるから」21.4%の2つは2割を超える。なお、「その他」の具体的な内容としては、「家がそこにあるから」「生まれ育った土地だから」「島が好きだから」などである。

【年齢別】

(n)		もう危険はないと感じたから	火山ガスに対して、健康上問題がないと判断したから	火山ガスに対する観測・警報体制が整い緊急時でも避難ができると思うから	火山ガスに對する観測・警報体制が整い緊急時でも避難ができると思うから	自宅への被害が少ないから	島で仕事があるから	島外の生活に馴染めないから	島の復興が期待できると思うから	島外の生活には費用がかかるから	村営住宅や生活物資の提供があるから	家族が揃って住めるから
年齢別	20～29歳 (2)	-	-	-	-	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-
	30～39歳 (19)	-	10.5	-	21.1	52.6	5.3	5.3	42.1	-	42.1	-
	40～49歳 (42)	4.8	7.1	9.5	28.6	61.9	14.3	9.5	28.6	2.4	28.6	-
	50～59歳 (70)	4.3	12.9	22.9	32.9	60.0	5.7	14.3	32.9	2.9	25.7	-
	60～69歳 (85)	5.9	21.2	28.2	32.9	37.6	14.1	17.6	14.1	3.5	18.8	-
	70～79歳 (106)	11.3	23.6	27.4	34.9	16.0	23.6	17.0	12.3	1.9	15.1	-
	80歳以上 (40)	15.0	10.0	22.5	30.0	5.0	20.0	10.0	5.0	-	20.0	-

(n)		その他	無回答
年齢別	20～29歳 (2)	-	-
	30～39歳 (19)	21.1	-
	40～49歳 (42)	26.2	-
	50～59歳 (70)	10.0	-
	60～69歳 (85)	27.1	-
	70～79歳 (106)	40.6	0.9
	80歳以上 (40)	42.5	-

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

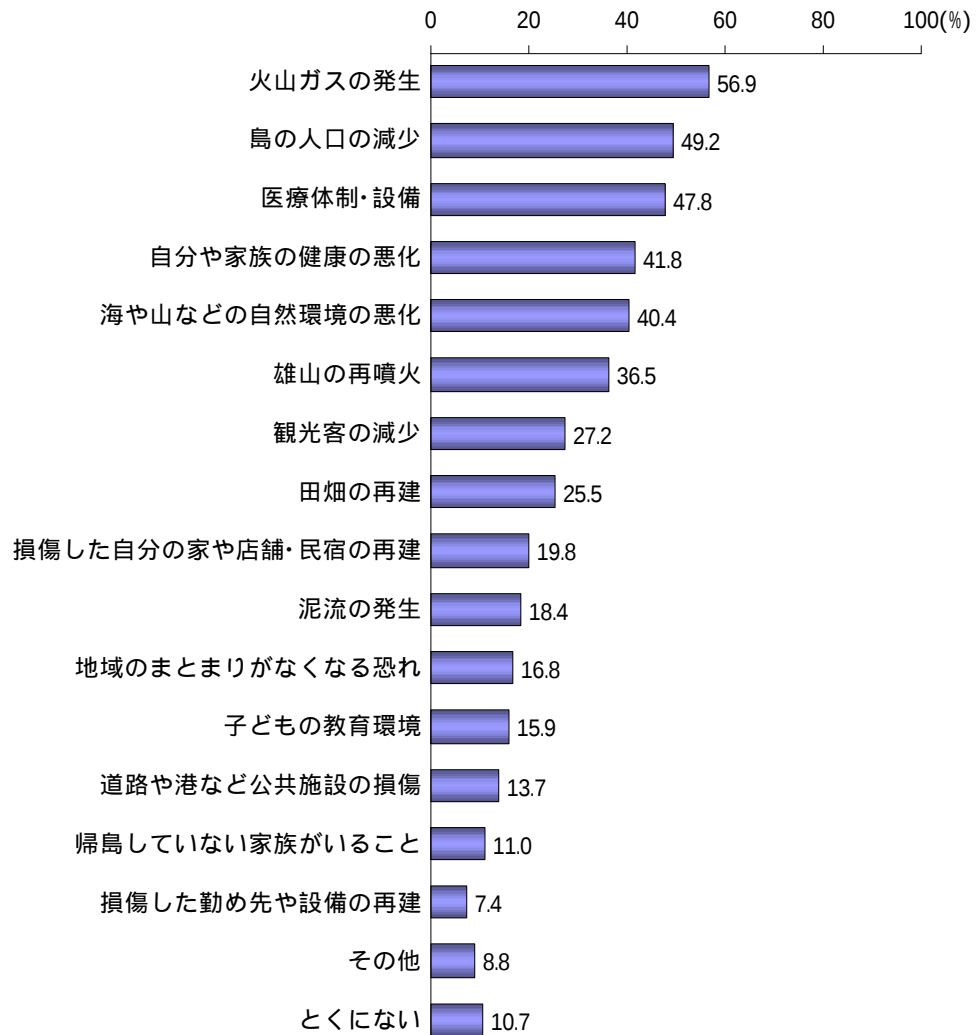
調査回答者の年齢別にみると、「島で仕事があるから」は30～39歳 (52.6%)、40～49歳 (61.9%)、50～59歳 (60.0%)と、若年代層で全体 (36.0%)より高くなっている。同様に「島外の生活には費用がかかるから」も若年代層で高く、30～39歳 (42.1%)、50～59歳 (32.9%)となっている。

(5) 帰島後の不安

火山ガスの発生」が5割台半ばで、島の人口の減少」が5割弱

問6 帰島されてから、あなたは現在、どのようなことに不安を感じますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 364



帰島してから現在不安に感じていることからとしては、「火山ガスの発生」との回答が56.9%と最も高く5割台半ばを超えている。次いで「島の人口の減少」が49.2%でほぼ5割、「医療体制・設備」が47.8%と半数に近い。また「雄山の再噴火」が36.5%で3割台半ばとなっている。なお、「とくにない」は10.7%と1割である。

【年齢別】

(n)		自分や家族の健康の悪化	島の人口の減少	観光客の減少	海や山などの自然環境の悪化	帰島していない家族がいること	建や店舗・民宿の再建	田畑の再建	損傷した自分の家の再建	設備の再建	道路や港など公共施設の損傷	火山ガスの発生
年齢別	20～29歳 (2)	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0
	30～39歳 (19)	47.4	52.6	31.6	21.1	10.5	10.5	5.3	5.3	5.3	5.3	57.9
	40～49歳 (42)	40.5	52.4	33.3	35.7	19.0	14.3	9.5	4.8	7.1	7.1	64.3
	50～59歳 (70)	48.6	65.7	38.6	50.0	15.7	28.6	25.7	14.3	14.3	14.3	62.9
	60～69歳 (85)	32.9	47.1	29.4	50.6	10.6	18.8	28.2	7.1	14.1	14.1	62.4
	70～79歳 (106)	43.4	45.3	19.8	36.8	8.5	19.8	36.8	5.7	17.9	17.9	50.9
	80歳以上 (40)	45.0	32.5	15.0	27.5	2.5	17.5	15.0	5.0	12.5	12.5	42.5

(n)		泥流の発生	雄山の再噴火	地域のみとまりがなくなる恐れ	医療体制・設備	子どもの教育環境	その他	とくにない
年齢別	20～29歳 (2)	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0
	30～39歳 (19)	5.3	26.3	10.5	57.9	31.6	15.8	10.5
	40～49歳 (42)	7.1	35.7	4.8	57.1	33.3	7.1	4.8
	50～59歳 (70)	25.7	52.9	21.4	60.0	24.3	12.9	7.1
	60～69歳 (85)	22.4	35.3	17.6	42.4	9.4	4.7	9.4
	70～79歳 (106)	22.6	34.9	17.0	41.5	10.4	12.3	11.3
	80歳以上 (40)	5.0	20.0	20.0	42.5	5.0	-	22.5

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

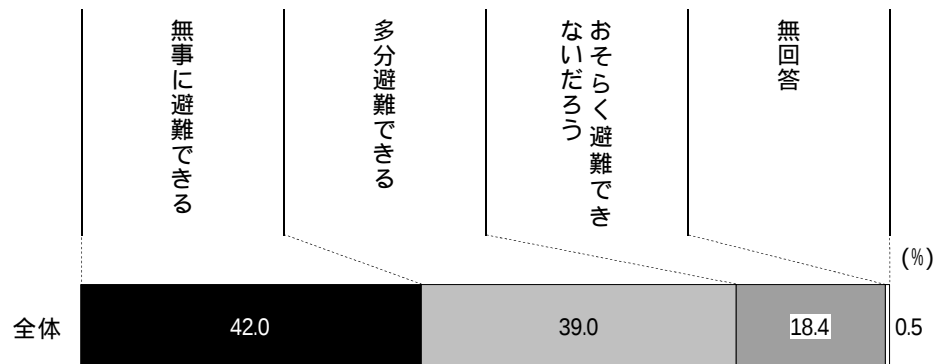
調査回答者の年齢別にみると、50～59歳で「島の人口の減少」が65.7%、「観光客の減少」が38.6%と他の年代層に比べて高くなっている。また、「医療体制・設備」は50～59歳 (60.0%)と40～49歳 (57.1%)、30～39歳 (57.9%)で6割前後を占めている。

(6) 警報発令時の無事な避難の可能性

無事に避難できる」が4割強で、多分避難できる」が4割弱

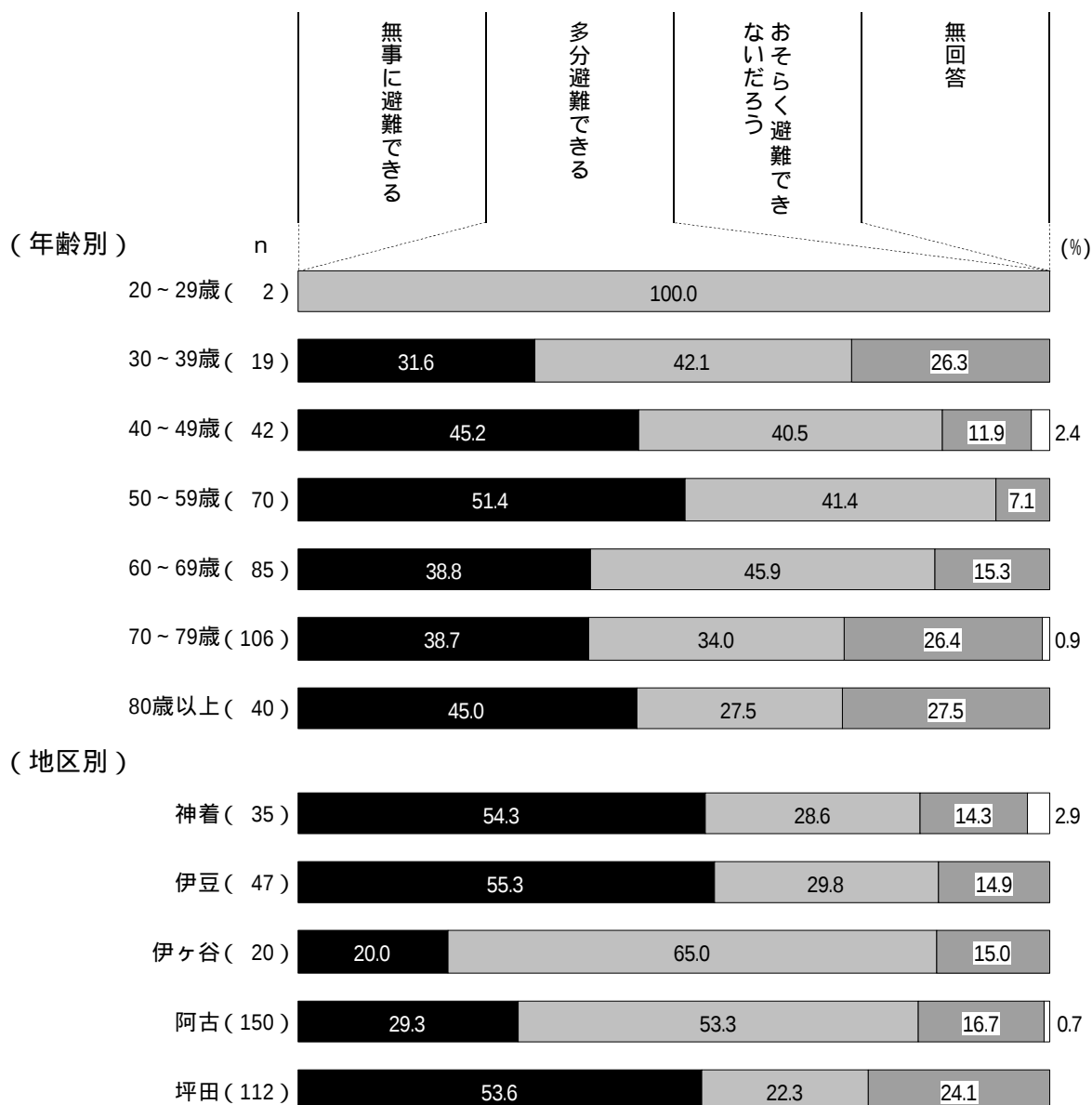
問7 火山ガスが発生し警報が発令された場合、あなたは無事に避難できると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



警報が発令された場合に無事に避難できるかどうかについては、「無事に避難できる」との回答が42.0%と最も高く4割強を占めており、「多分避難できるだろう」の39.0%と合計すると、「避難できる(計)」は8割を超える。一方、「おそらく避難できないだろう」は18.4%と2割近くになっている。

【年齢別 / 地区別 (帰島後)】



調査回答者の年齢別にみると「避難できる(計)」は50～59歳で9割強と最も高く、40～49歳(85.7%)、60～69歳(84.7%)では8割台半ばを占める。一方、「おそらく避難できないだろう」は80歳以上(27.5%)と70～79歳(26.4%)の高年代層、30～39歳(26.3%)で4人に1人と比較的高くなっている。

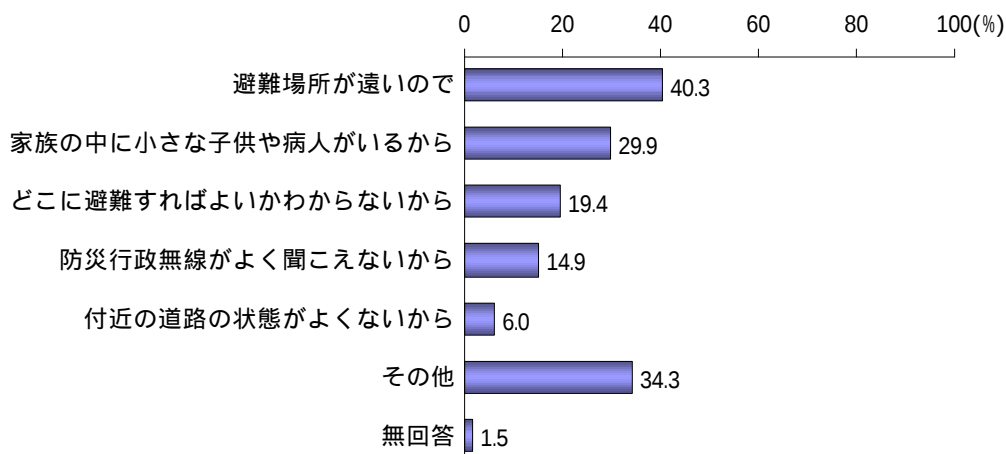
調査回答者の帰島後に居住している地区別にみると「避難できる(計)」は坪田地区(75.9%)以外は8割を超えているが、「無事に避難できる」は、特に伊ヶ谷地区(20.0%)で2割と低い。また、「おそらく避難できないだろう」は坪田地区(24.1%)で4人に1人となっている。

(6 - 1) 避難できない理由

避難場所が遠いので」が4割、小さな子供や病人がいるから」が3割

問7 - 1 (問7で「3 おそらく避難できないだろう」とお答えの方にお聞きします)
避難できないだろうと思う理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 67



警報が発令された場合に無事に避難できないとする理由については、「避難場所が遠いので」との回答が40.3%と4割台に乗り最も高くなっている。現在指定されているのは伊豆避難施設のみで、坪田地区から避難するとなると、車ででも30分を要し、さらに火山ガス高濃度地区を通過しなければならないのが現実である。次いで「家族の中に小さな子供や病人がいるから」が29.9%とほぼ3割、「どこに避難すればよいかわからないから」が19.4%でほぼ2割となっている。また、「その他」の具体的な意見としては、「車（交通手段）がない」や「歩くのがやっとなから」「夜は街灯がないので暗くて無理」「家にいた方が安全」などがある。

【年齢別 / 地区別】 但し、基数 (n)が小さいため参考にとどめる

(n)		や家族の中に小さな子供や病人がいるから	付近の道路の状態がよいから	避難場所が遠いので	どこに避難すればよいかわからないから	防災行政無線がよく聞こえないから	その他	無回答
年齢別	20～29歳 (0)	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (5)	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	60.0	-
	40～49歳 (5)	40.0	-	40.0	40.0	-	40.0	-
	50～59歳 (5)	20.0	-	60.0	40.0	40.0	20.0	-
	60～69歳 (13)	46.2	7.7	15.4	7.7	23.1	30.8	-
	70～79歳 (28)	21.4	3.6	42.9	17.9	10.7	39.3	3.6
	80歳以上 (11)	36.4	9.1	54.5	9.1	9.1	18.2	-
地区別	神着 (5)	80.0	-	20.0	20.0	20.0	40.0	-
	伊豆 (7)	28.6	-	57.1	14.3	-	14.3	-
	伊ヶ谷 (3)	-	-	33.3	-	-	100.0	-
	阿古 (25)	32.0	-	36.0	32.0	28.0	24.0	-
	坪田 (27)	22.2	14.8	44.4	11.1	7.4	40.7	3.7

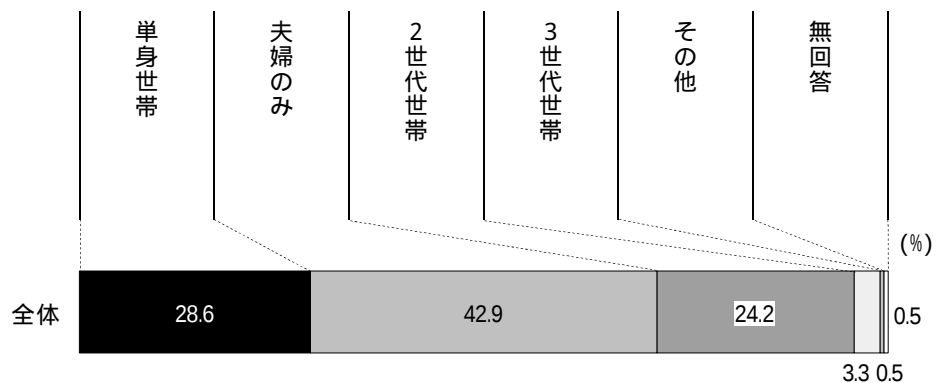
(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

(7) 帰島した家族の構成

「失婦のみ」が4割強、単身世帯が3割弱、「2世代世帯」が2割台半ば

問 8 今回帰島されたご家族の構成は次のどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



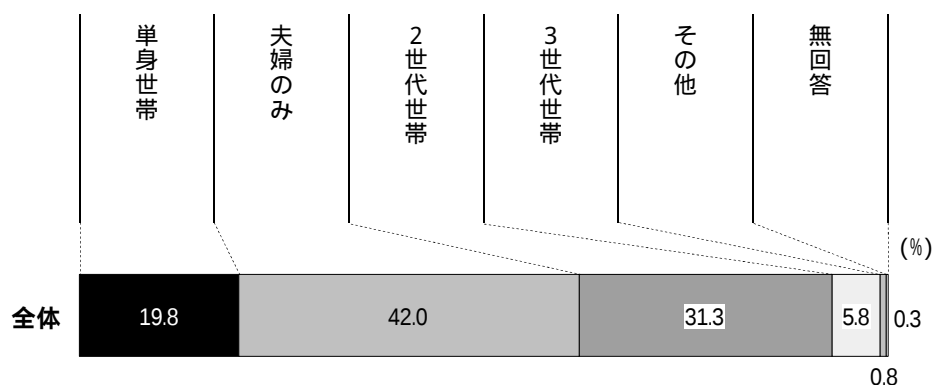
帰島した家族の構成については、「失婦のみ」との回答が42.9%と最も高く4割強を占め、以下、「単身世帯」が28.6%、「2世代世帯」が24.2%となっている。

(8) 噴火時の家族構成

「失婦のみ」が4割強で、「2世代世帯」が3割強、単身世帯が2割

問 9 三宅島噴火時のご家族の構成は次のどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



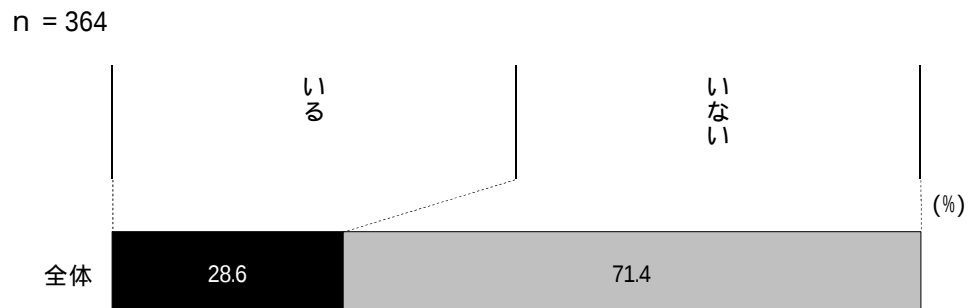
噴火時の家族の構成については、問 8と同様「失婦のみ」との回答が42.0%と最も高く、「2世代世帯」が31.3%、「単身世帯」が19.8%となっている。

「噴火時」と「帰島後」の家族の構成を比較すると、「単身世帯」の開きが大きい。「噴火時」19.8%に対して「帰島後」28.6%と、およそ9ポイント増である。一方、「3世代世帯」では、「噴火時」31.3%に対して「帰島後」24.2%で、およそ7ポイント減となっている。

(9) 末帰島の家族の有無

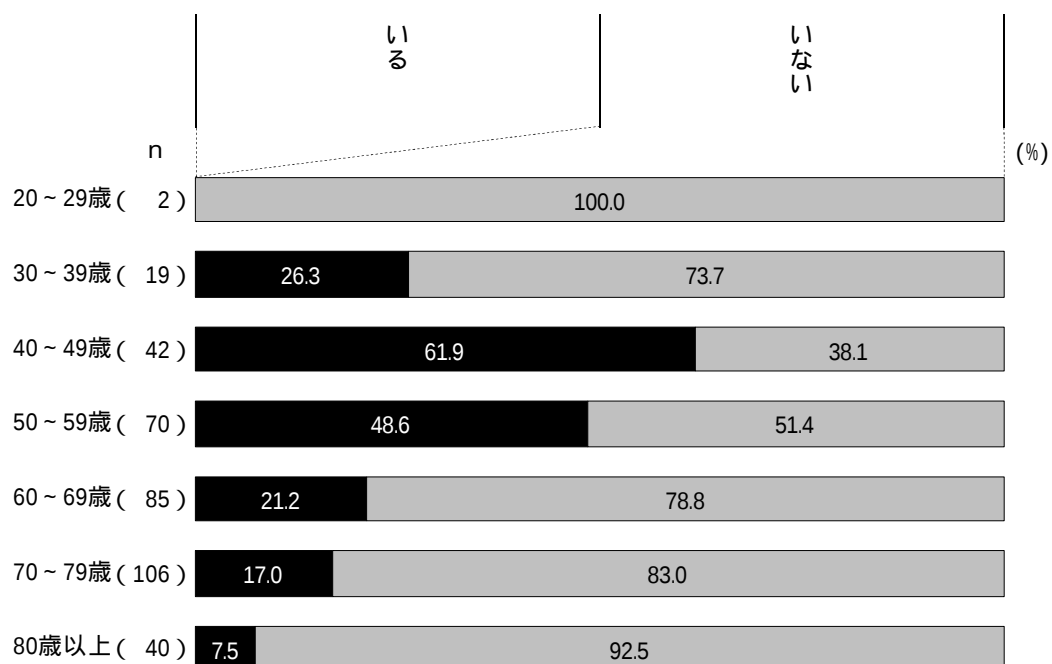
「いる」が3割弱

問10 今回帰島されていないご家族はいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。



今回帰島していない家族の有無については、「いる」との回答が28.6%で3割に近い。

【年齢別】



調査回答者の年齢別にみると、「いる」は40～49歳で61.9%と6割強を占めており、次いで50～59歳で48.6%と5割弱である。

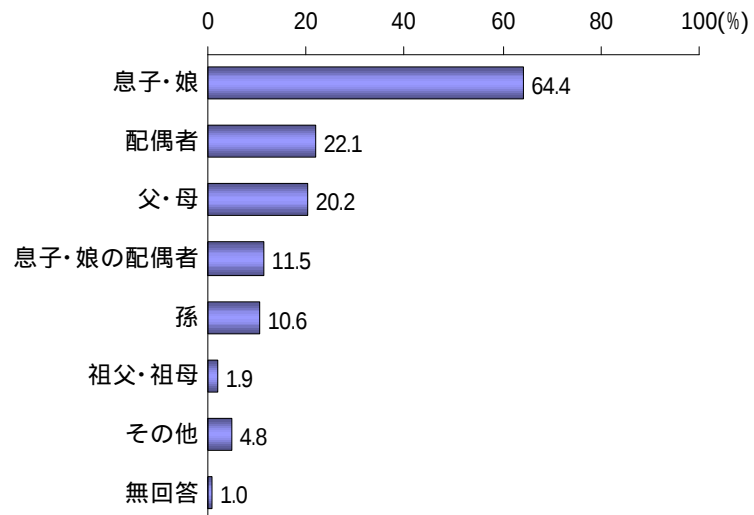
(9 - 1) 未帰島者

息子・娘」が6割台半ばで、配偶者」と父・母」が2割

問10 - 1 (問10で「1 いる」とお答えの方にお聞きします)

今回、帰島していないのはどなたですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 104



今回帰島していない家族については、「息子・娘」との回答が64.4%と最も高く6割台半ばを占めている。次いで「配偶者」が22.1%、「父・母」が20.2%となっている。

【年齢別】 但し、基数 (n) が小さいため参考にとどめる

		配偶者	息子・娘	父・母	息子・娘の配偶者	祖父・祖母	孫	その他	無回答
(n)									
年齢別	20～29歳 (0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (5)	40.0	60.0	60.0	-	-	-	-	-
	40～49歳 (26)	34.6	84.6	11.5	7.7	7.7	3.8	3.8	-
	50～59歳 (34)	23.5	70.6	20.6	5.9	-	8.8	5.9	-
	60～69歳 (18)	16.7	33.3	33.3	5.6	-	11.1	5.6	5.6
	70～79歳 (18)	5.6	50.0	11.1	27.8	-	27.8	5.6	-
	80歳以上 (3)	-	100.0	-	66.7	-	-	-	-

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

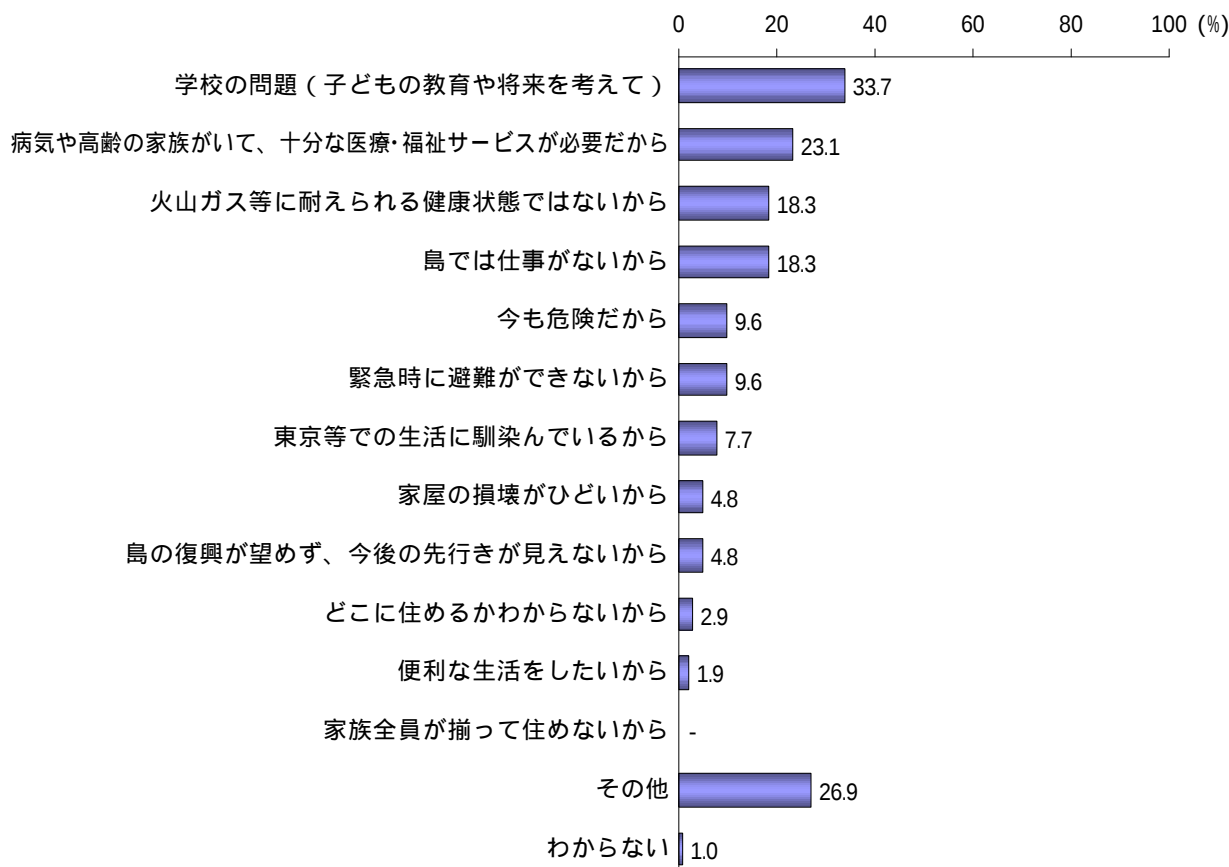
(9 - 2) 未帰島の理由

学校の問題」が3割強、十分な医療・福祉サービスが必要」が2割強

問10 - 2 (問10で「1 いる」とお答えの方にお聞きします)

今回帰島していない家族の方が、帰島しなかった理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 104



今回帰島していない家族の理由については、「学校の問題 (子どもの教育や将来を考えて)」との回答が33.7%と最も高く、3世帯に1世帯の割合となっている。次いで「病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから」が23.1%、「火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから」と「島では仕事がないから」がともに18.3%となっている。なお、「その他」の具体的な内容としては、「仕事の都合」とか「東京で就職した」など仕事に関する理由が多くなっている。

【年齢別】 但し、基数 (n) が小さいため参考にとどめる

		(n)	今も危険だから	火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから	緊急時に避難ができないから	家屋の損壊がひどいから	島では仕事がないから	学校の問題（子どもの教育や将来を考えて）	東京等での生活に馴染んでいるから	島の復興が望めず、今後の先行きが見えないから	病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから	便利な生活をしたいから
年齢別	20～29歳	(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	(5)	-	40.0	20.0	-	-	40.0	-	-	40.0	-
	40～49歳	(26)	11.5	15.4	11.5	11.5	19.2	38.5	15.4	7.7	11.5	7.7
	50～59歳	(34)	14.7	8.8	8.8	5.9	26.5	38.2	8.8	5.9	23.5	-
	60～69歳	(18)	5.6	33.3	11.1	-	11.1	22.2	5.6	5.6	38.9	-
	70～79歳	(18)	5.6	16.7	5.6	-	5.6	33.3	-	-	22.2	-
	80歳以上	(3)	-	33.3	-	-	66.7	-	-	-	-	-

		(n)	どこに住めるかわからないから	家族全員が揃って住めないから	その他	わからない
年齢別	20～29歳	(0)	-	-	-	-
	30～39歳	(5)	40.0	-	20.0	-
	40～49歳	(26)	-	-	26.9	-
	50～59歳	(34)	-	-	26.5	-
	60～69歳	(18)	-	-	11.1	-
	70～79歳	(18)	5.6	-	44.4	5.6
	80歳以上	(3)	-	-	33.3	-

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

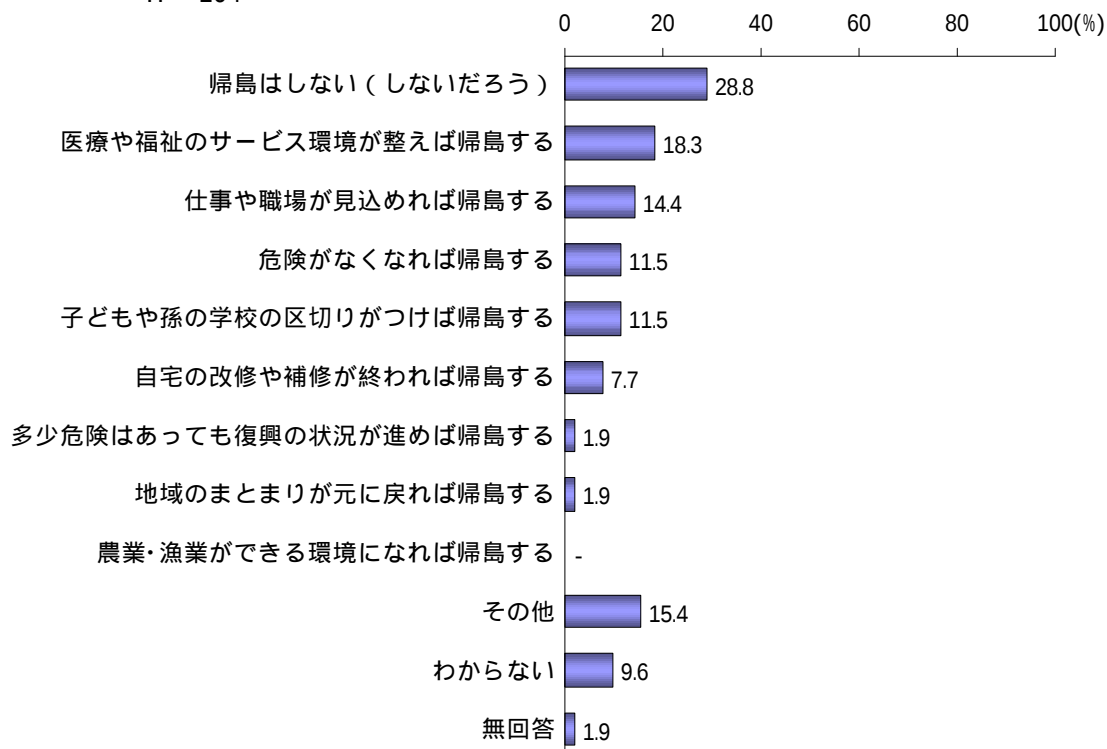
(9 - 2) 未帰島の今後の帰島予定

帰島はしない(だろう)」が3割弱、医療や福祉が整えば」が2割弱

問10 - 3 (問10で「1 いる」とお答えの方にお聞きします)

ご家族で今回帰島しなかった方の今後の帰島のご予定はいかがですか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

n = 104



今回帰島していない家族の帰島予定については、「帰島はしない(しないだろう)」との回答が28.8%と最も高く3割弱を占めている。次いで「医療や福祉のサービス環境が整えば帰島する」が18.3%、「仕事や職場が見込めれば帰島する」が14.4%となっている。

未帰島理由として最も高かったのは「学校の問題」だが(33.7%:25ページ参照)、「子どもや孫の学校の区切りがつけば帰島する」との回答が11.5%であることから、およそ2割程度は学校の区切りがついたとしても帰島はしないものと推測される。

【年齢別】 但し、基数 (n) が小さいため参考にとどめる

(n)		興多 少の 状況 が進 めば 帰島 復す る	危険 がな くな れば 帰島 する	自宅 の改 修や 補修 が終 われば 帰島 する	仕事 や職 場が 見込 めれ ば帰 島す る	農業 ・漁 業が でき る環 境に なれ ば帰 島す る	地域 のま とまり が元 に 戻れ ば帰 島す る	医療 や福 祉の サー ビス 環境 が整 えば 帰島 する	子ど もや 孫の 学校 の区 切り がつけ ば帰 島す る	帰島 はし ない (し ない だ ろう)	その他
年齢別	20～29歳 (0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (5)	-	20.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	20.0	-
	40～49歳 (26)	-	19.2	11.5	19.2	-	3.8	11.5	11.5	30.8	19.2
	50～59歳 (34)	2.9	8.8	5.9	17.6	-	2.9	11.8	8.8	35.3	20.6
	60～69歳 (18)	5.6	-	5.6	5.6	-	-	38.9	5.6	27.8	11.1
	70～79歳 (18)	-	11.1	5.6	11.1	-	-	22.2	22.2	16.7	11.1
	80歳以上 (3)	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	33.3	-

(n)		わからない	無回答
年齢別	20～29歳 (0)	-	-
	30～39歳 (5)	20.0	-
	40～49歳 (26)	7.7	3.8
	50～59歳 (34)	8.8	-
	60～69歳 (18)	-	5.6
	70～79歳 (18)	22.2	-
	80歳以上 (3)	-	-

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

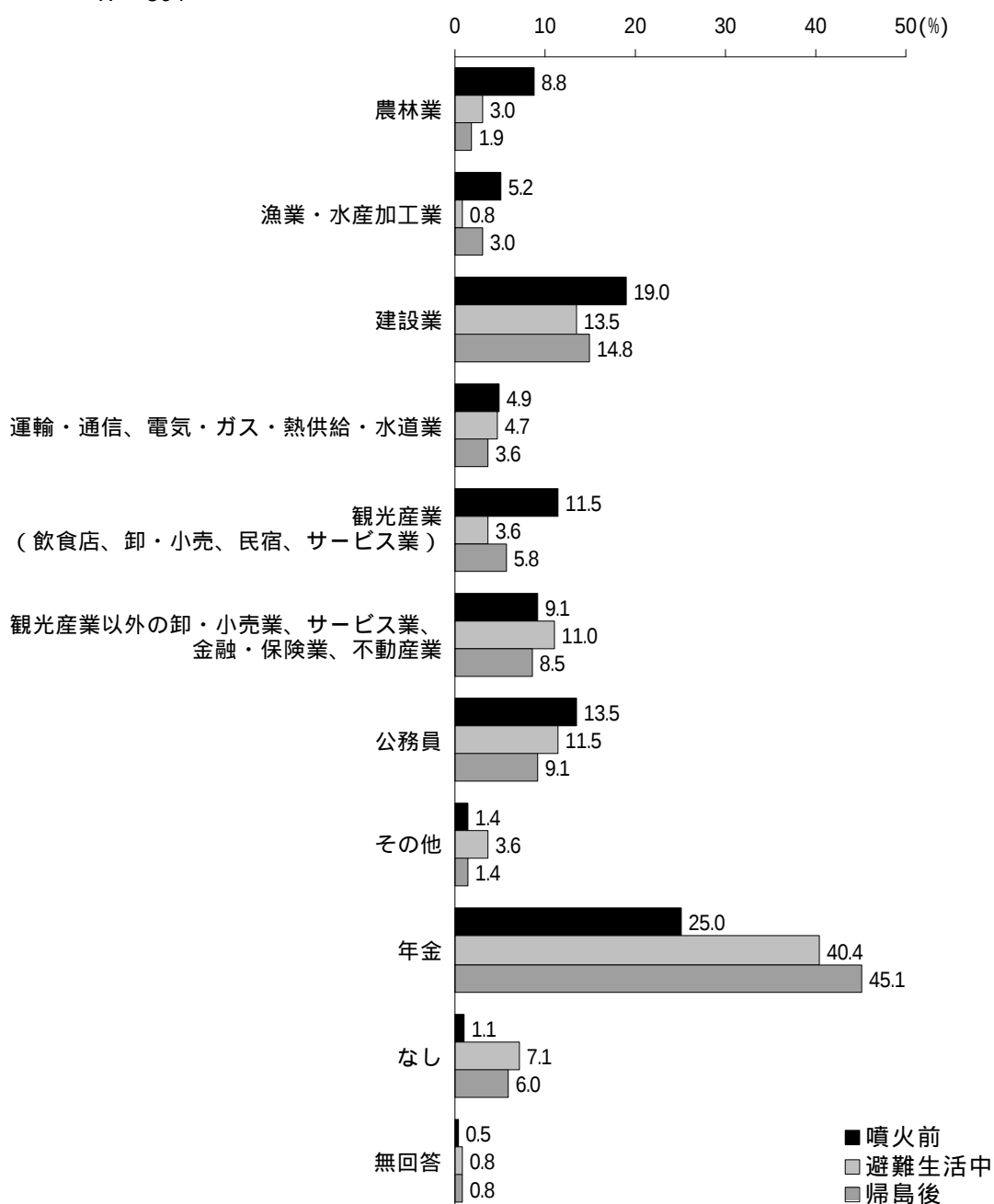
3 世帯の家計

(1) 噴火前 - 避難生活中 - 帰島後の主たる収入源の職業

年金」が2割台半ばから4割台半ばへ上昇

問11～13 噴火前（避難生活中、帰島後）のあなたの世帯の最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



世帯の主な収入源について、「噴火前」、「避難生活中」、「帰島後」の期間別に比較した。

最も変化があったのは「年金」で、「噴火前」25.0%、「避難生活中」40.4% (15ポイント増)、「帰島後」45.1% (さらに5ポイント増)と増え続けている。「噴火前」の時点でも高齢者が多いためか「年金」との回答は

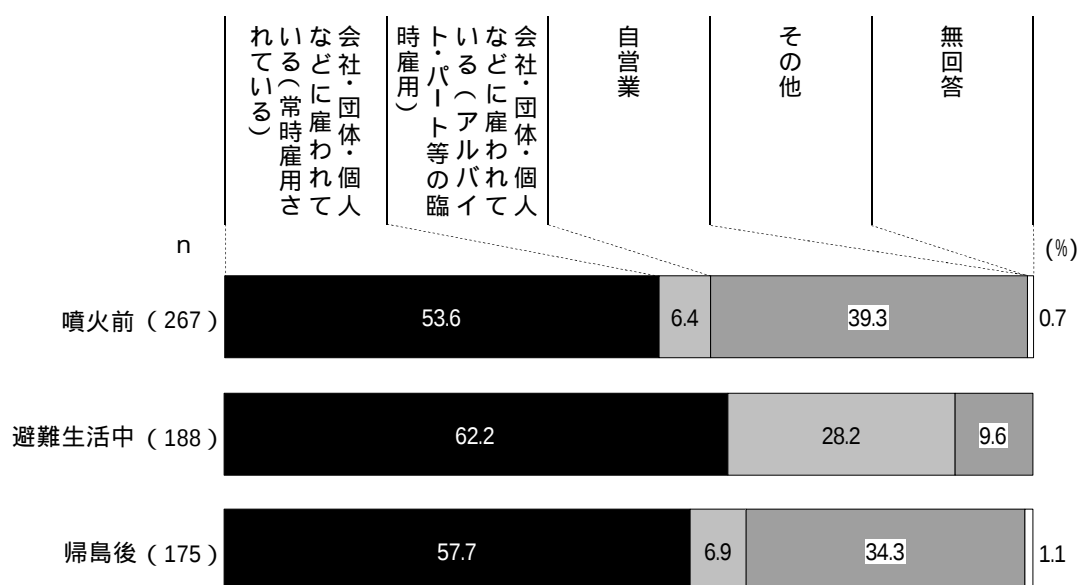
4世帯に1世帯の割合で高かったが、全島避難から4年半が経過したことによる高齢化や帰島後の就労減少などで、さらに上昇したと思われる。

一方、減り続けているのは「農業」である。「噴火前」の8.8%が、「帰島後」は1.9%まで減少している。また、「観光産業」では、「噴火前」が11.5%で、「帰島後」は5.8%と半減している。

(1 - 1) 就業の形態

「臨時雇用」は噴火前の1割弱から避難生活中は3割弱へ上昇

問11～13 - 1 (問11～13で「1」～「8」とお答えの方にお聞きします)
その就業の形態はどのような形態ですか。あてはまるものを1つお選びください。



世帯の主な収入源の就業形態について、「噴火前」、「避難生活中」、「帰島後」の期間別に比較した。

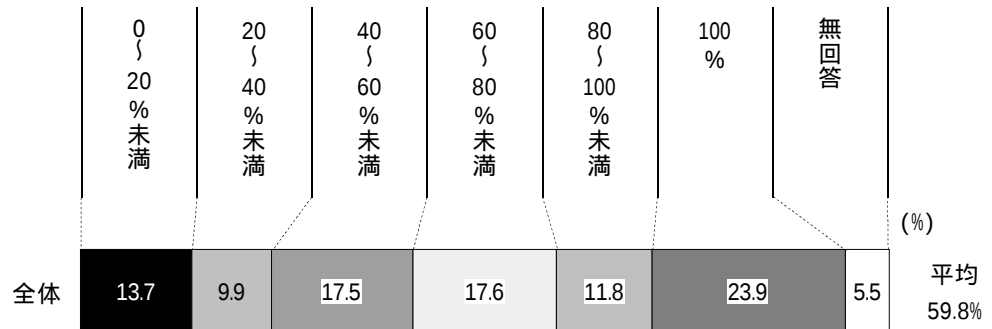
最も変化があったのは「臨時雇用」で、「噴火前」の6.4%から「避難生活中」は28.2%まで増加している。なお、「帰島後」については、ほぼ「噴火前」の状態に戻っている。

(2) 噴火前と比べた経済状況

「100%」は4世帯に1世帯。平均では60%

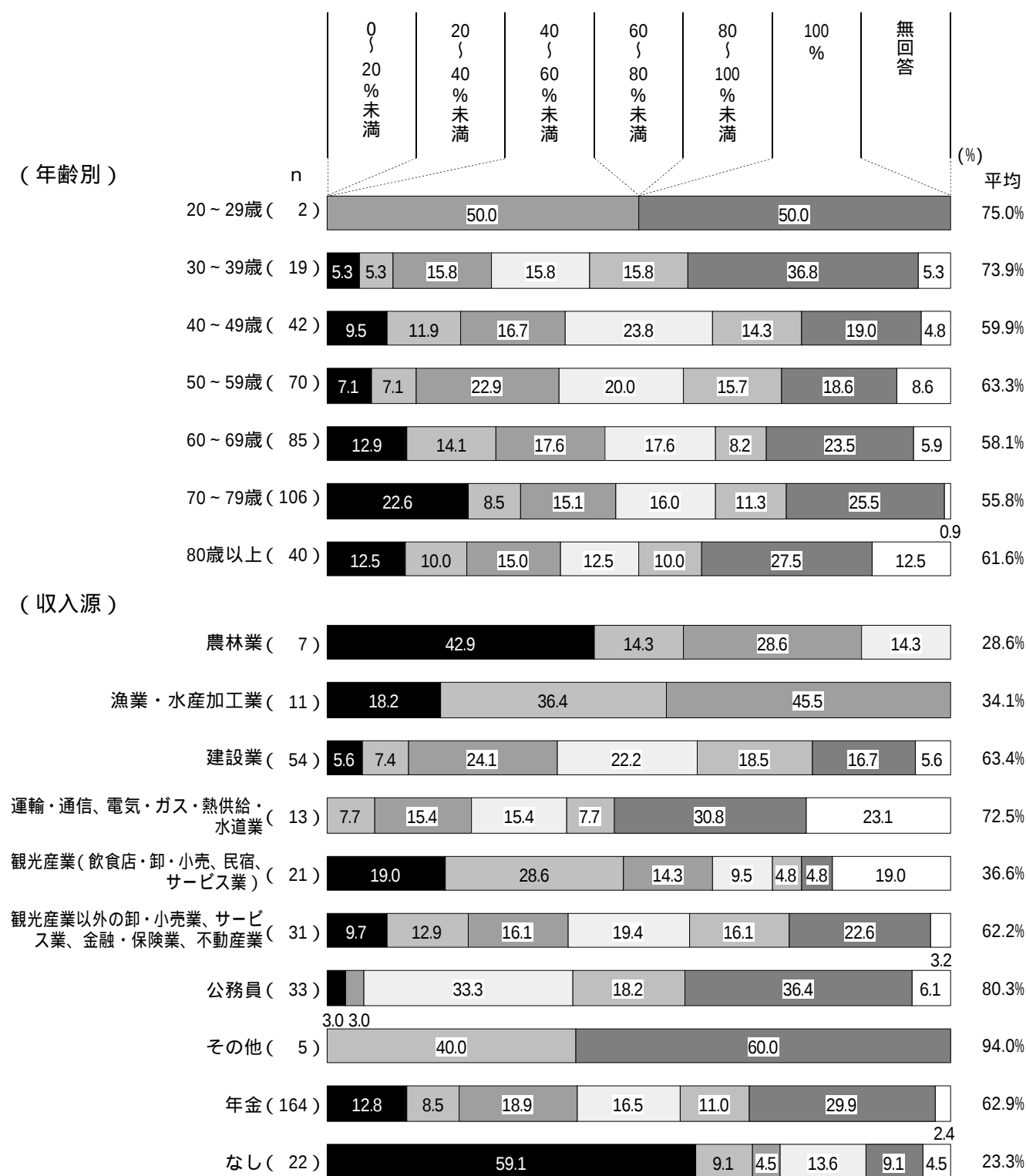
問14 あなたのお宅の経済状況は、噴火前と比べるとどの程度（何%くらい）元に戻ったと思いますか。噴火前を100%としてお答えください。

n = 364



噴火前の経済状況を100%として、帰島後の現在の経済状況を評価すると、「100%」（噴火前と変わらない水準）との回答が23.9%と最も高く、4世帯に1世帯の割合となっている。以下「60～80%未満」が17.6%、「40～60%未満」が17.5%である。また、平均は59.8%でほぼ6割となっている。

【年齢別 / 収入源 (帰島後)】



調査回答者の年齢別にみると、噴火前の水準には戻っていないとする<100%未満>（「0~20%未満」~「80~100%未満」の合計）は、40~49歳で76.2%と最も高く、次いで70~79歳（73.6%）、50~59歳（72.8%）となっている。なお、70~79歳では「0~20%未満」が22.6%と2割強を占め、他の年代層と比べて高くなっている。

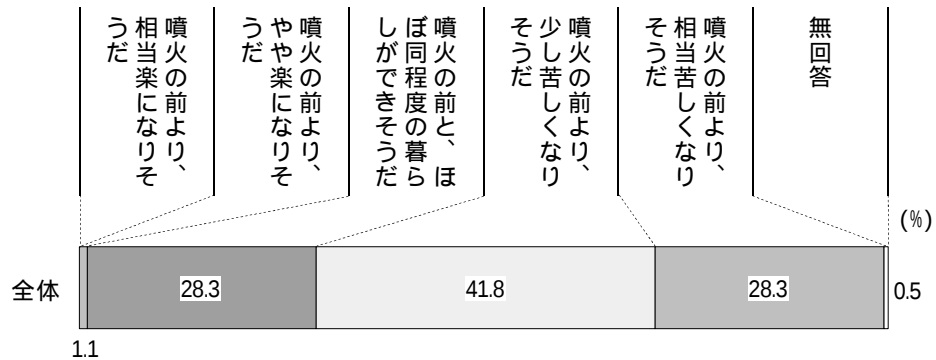
帰島後の世帯の最も大きな収入源別にみると、「0～20%未満」が農林業で42.9%と4割以上を占めており、平均でも「28.6%」となっている。平均でみると、漁業・水産加工業（「34.1%」）、観光産業（「36.6%」）とともに3割台半ばで厳しい評価となっている。

(3) 今後の生計の見通し

噴火前より少し苦しく」が4割強で、相当苦しく」が3割弱

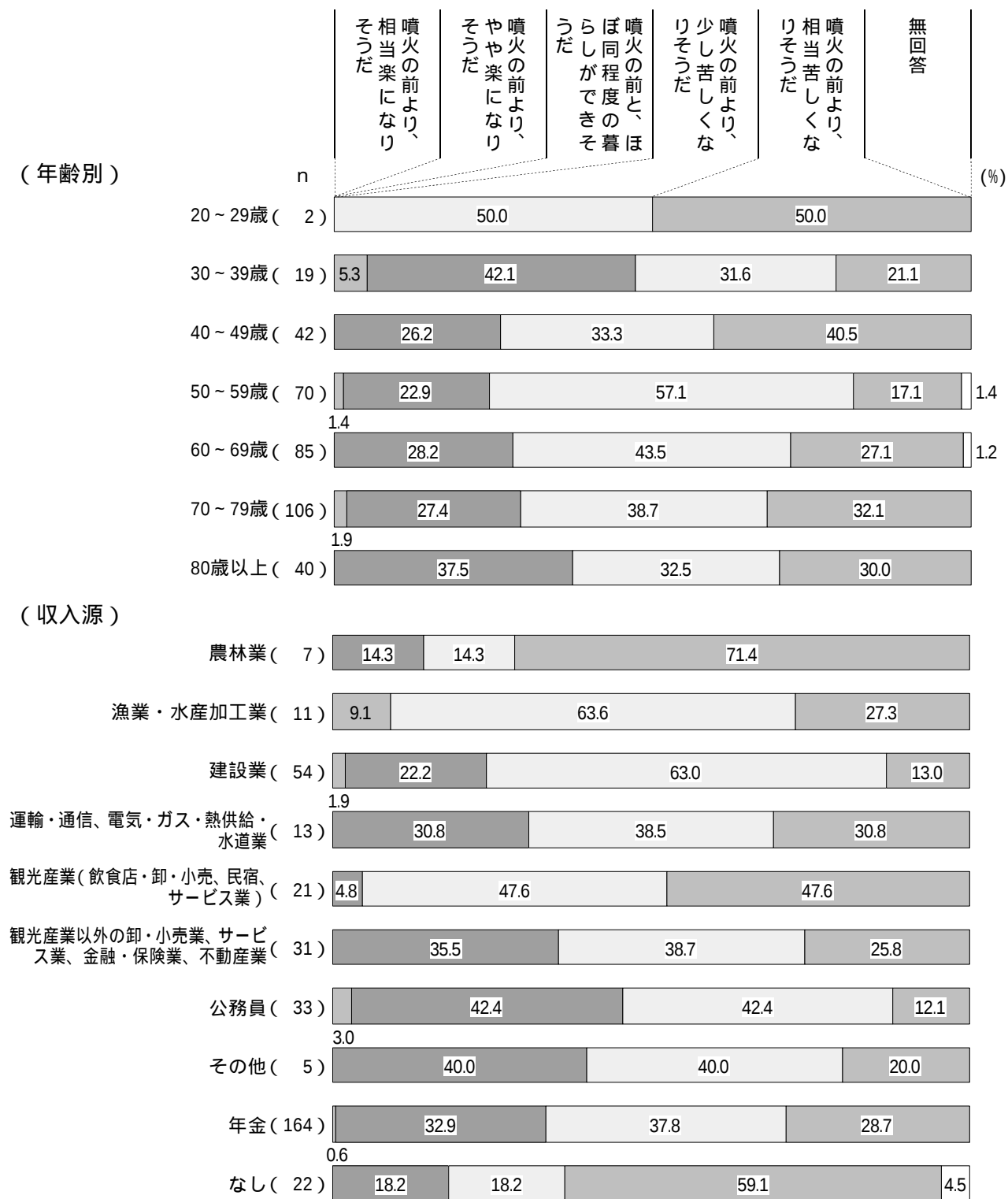
問15 今後の生計の見通しはいかがですか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



今後の生計の見通しについては、「噴火の前より、少し苦しくなりそう」との回答が41.8%を占め最も高く、これに「噴火の前より、相当苦しくなりそう」の28.3%を合計すると、「苦しくなる(計)」は70.1%と7割を占める。一方、「噴火の前と、ほぼ同程度の暮らしができそう」は28.3%と3割弱である。なお、「噴火の前より、相当楽になりそう」は皆無で、「噴火の前より、やや楽になりそう」は1.1%にとどまっている。

【年齢別 / 収入源 (帰島後)】



調査回答者の年齢別にみると、『苦しくなる(計)』は50～59歳で74.2%と4人に3人を占め最も高くなっており、以下40～49歳(73.8%)、70～79歳(70.8%)、60～69歳(70.6%)でも7割を超えている。なお、40～49歳では『噴火の前より相当苦しくなりそうだと』が40.5%と4割を占めている。

帰島後の世帯の最も大きな収入源別にみると、『苦しくなる(計)』は観光産業で95.2%と大半を占め厳しい評価となっている。次いで漁業・水産加工業(90.9%)で9割、農林業85.7%などとなっている。なお、農林業では『噴火の前より相当苦しくなりそうだ』が71.4%と他の収入源に比べて多くなっている。

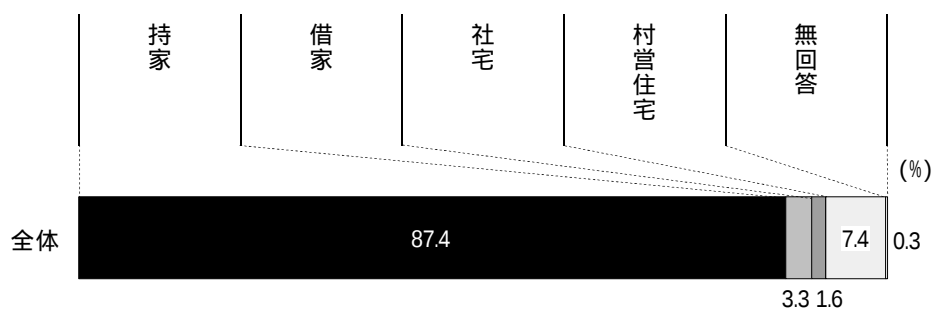
4 自宅の再建

(1) 噴火前の住居形態

「特家」が9割弱

問16 噴火前のあなたのお住まいは、持家でしたか。それとも借家等でしたか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



噴火前の住居形態は、「特家」が87.4%と9割弱を占め、それ以外の「借家系」(「借家」3.3%、「社宅」1.6%、「村営住宅」7.4%)は合わせて12.3%である。

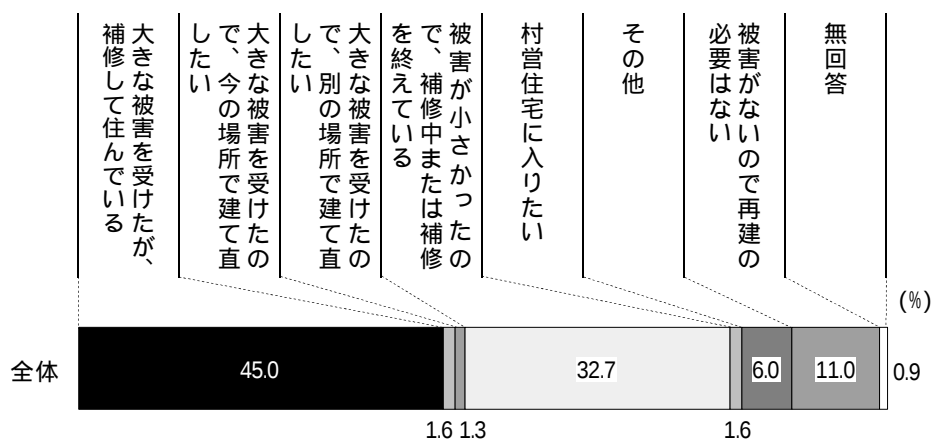
(1 - 1) 自宅の再建状況

「大きな被害を受けたが、補修して住んでいる」が4割台半ば

問16 - 1 (問16で「1 持家」とお答えの方にお聞きします)

ご自宅の再建について、どのように考えていますか。あてはまるものを1つお選びください。

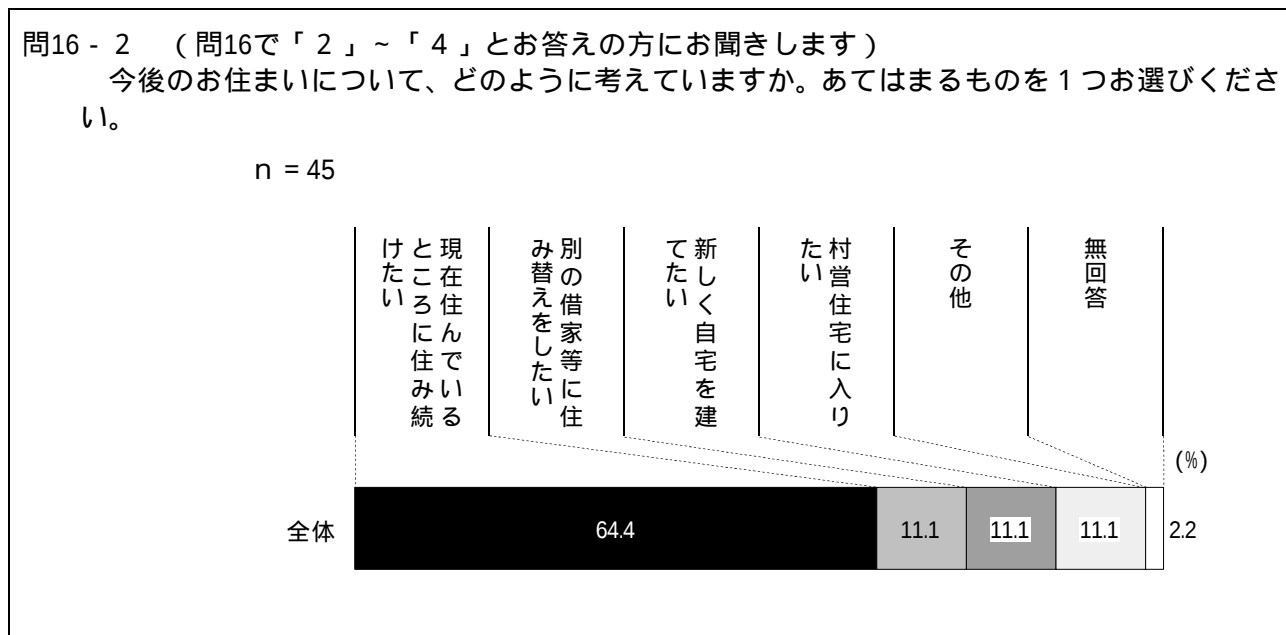
n = 318



噴火前に「特家」に居住していた方の自宅再建の意向については、「大きな被害を受けたが、補修して住んでいる」が45.0%と最も高く、4割台半ばを占めている。次いで「被害が小さかったので、補修中または補修を終えている」が32.7%と3世帯に1世帯である。また、「被害がないので再建の必要はない」が11.0%ありこれら3つを合計すると、9割弱は噴火前の自宅で暮らしていることになる。

(1 - 2) 今後の住まいの予定

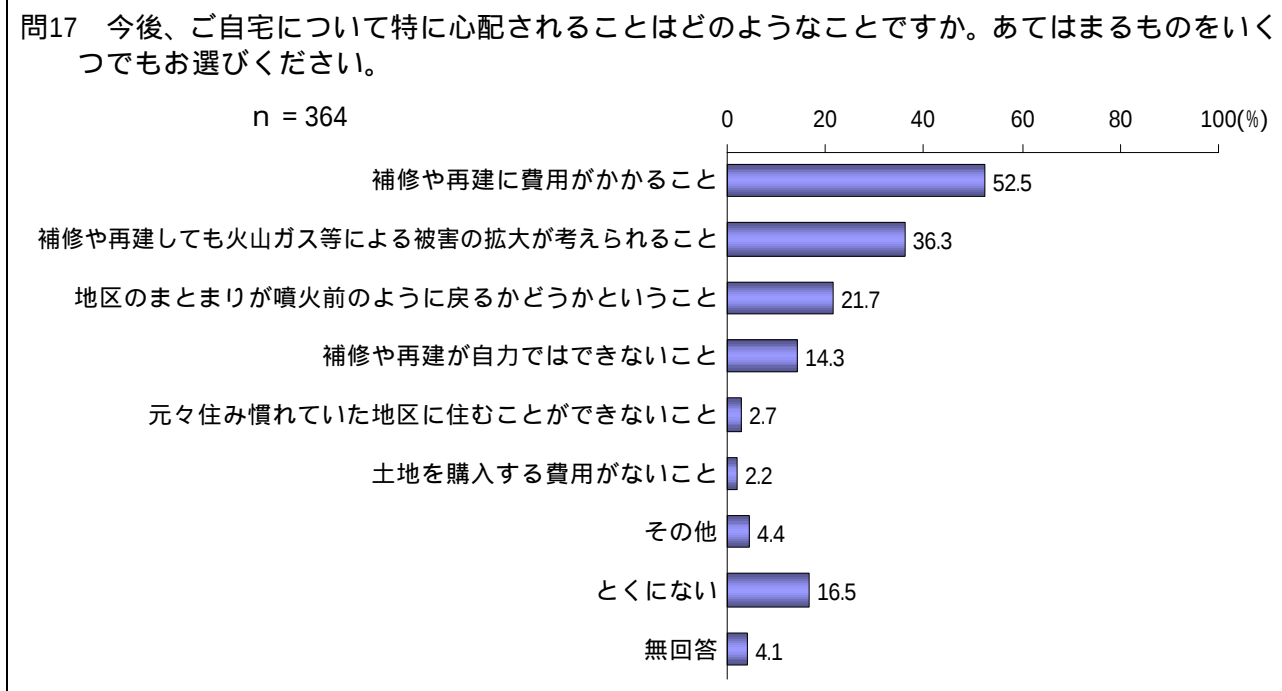
現在住んでいるところに住み続けたい」が3世帯に2世帯



一方、噴火前に借家等に居住していた方の今後の予定は、「現在住んでいるところに住み続けたい」が64.4%と最も高く、6割台半ばとなっている。

(2) 今後の自宅で特に心配なこと

補修や再建に費用がかかること」が過半数



今後の自宅について特に心配な点としては、「補修や再建に費用がかかること」との回答が52.5%と最も高く、過半数を占めている。次いで「補修や再建しても火山ガス等による被害の拡大が考えられること」が36.3%となっている。また、「とくにない」は16.5%である。

【年齢別】

(n)		補修や再建に費用がかかること	補修や再建しても火山ガス等による被害の拡大が考えられること	補修や再建が自力ではできないこと	元々住み慣れていた地区に住むことができないこと	土地を購入する費用がないこと	地区のまとまりが噴火前のように戻るかどうかということ	その他	とくにない	無回答
年齢別	20～29歳 (2)	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	30～39歳 (19)	36.8	31.6	5.3	-	10.5	15.8	5.3	15.8	15.8
	40～49歳 (42)	45.2	28.6	4.8	2.4	-	23.8	9.5	21.4	4.8
	50～59歳 (70)	57.1	32.9	11.4	2.9	4.3	32.9	5.7	12.9	5.7
	60～69歳 (85)	43.5	38.8	8.2	3.5	-	18.8	4.7	14.1	4.7
	70～79歳 (106)	60.4	47.2	21.7	1.9	1.9	18.9	2.8	16.0	-
	80歳以上 (40)	60.0	20.0	27.5	5.0	2.5	17.5	-	22.5	2.5

(全体と比べて10ポイント以上高いものに 網掛け)

調査回答者の年齢別にみると、「補修や再建が自力ではできないこと」が80歳以上で27.5%、70～79歳で21.7%と2割を超え他の年代層より高くなっている。また、「地区のまとまりが噴火前のように戻るかどうか」ということは50～59歳で3人に1人となっている。

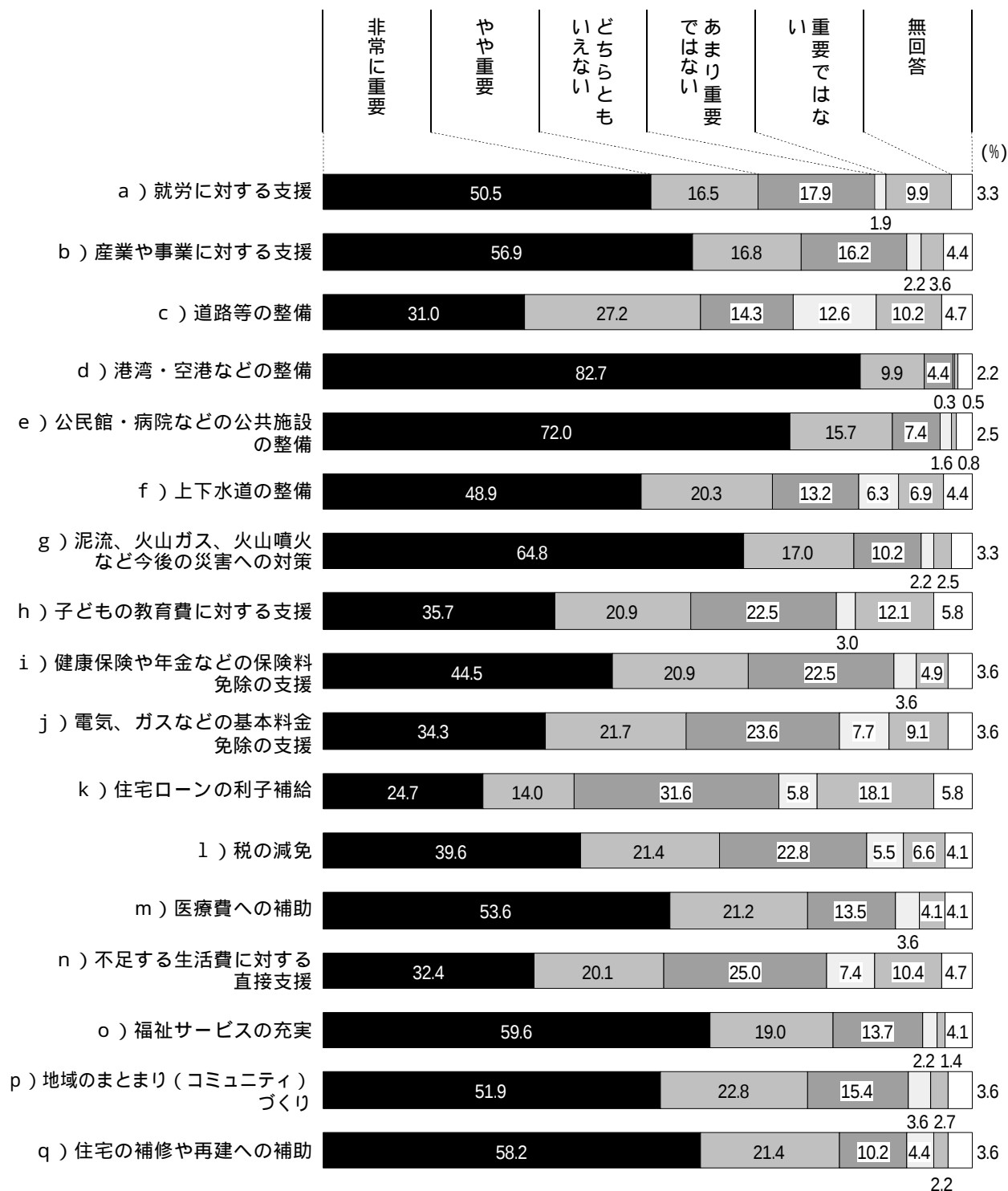
5 復興

(1) 復興施策の重要度

非常に重要」は「港湾・空港などの整備」が8割強で最も高い

問18 現在の復興状況に対して、次のa)～q)の項目について、ご意見をお聞かせください。

n = 364



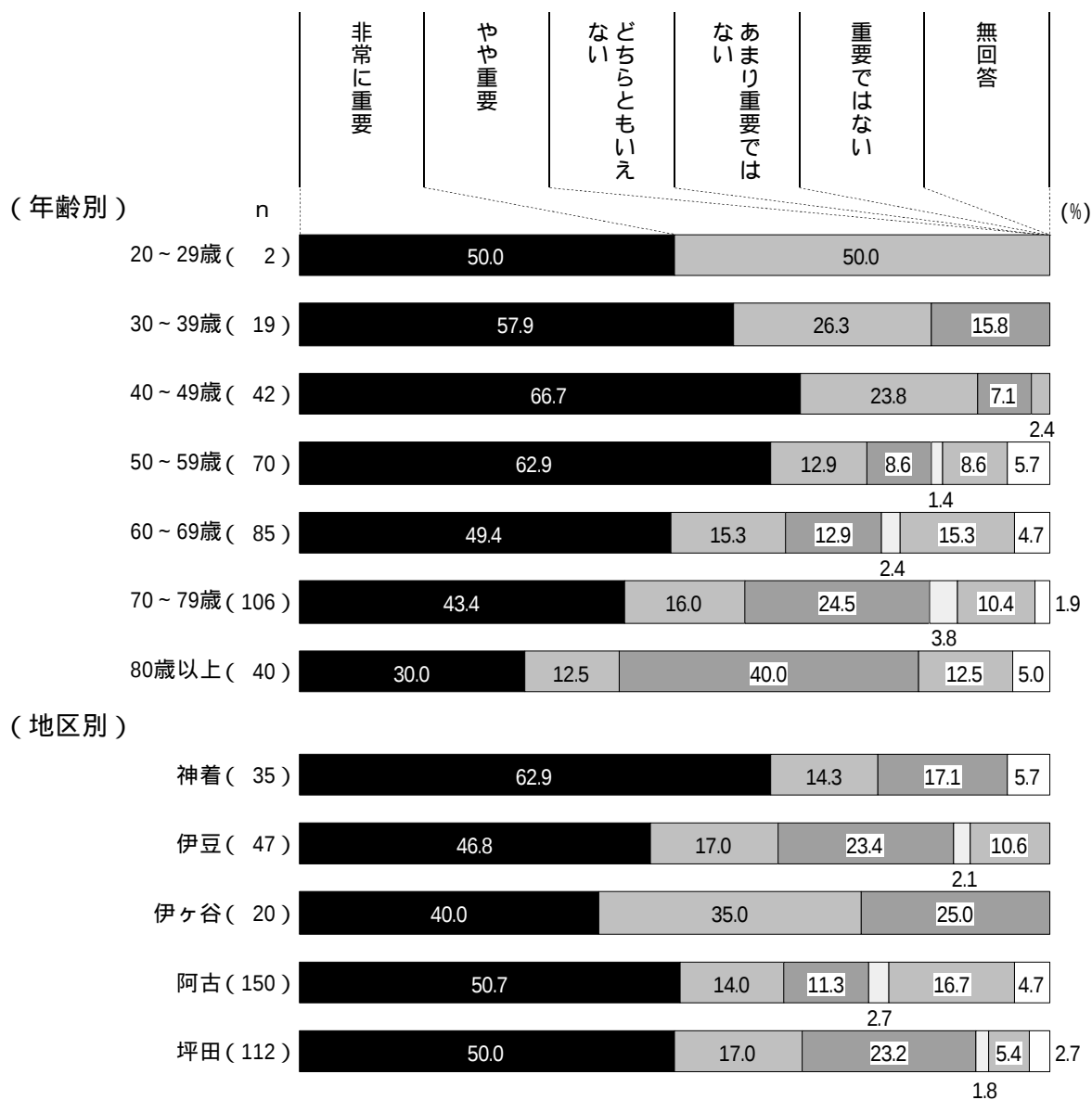
現在の復興施策の重要度については、どの項目も高くなっているが、「非常に重要」との回答が特に顕著な施策として、「港湾・空港などの整備」が82.7%と8割を超え、「公民館・病院などの公共施設の整備」72.0%、「泥流、火山ガス、火山噴火など今後の災害への対策」64.8%、「福祉サービスの充実」59.6%、「住宅の補修や再建への補助」58.2%が上位5項目となっている。

「重要（計）」（「非常に重要」「やや重要」を合計した割合）でみると、「港湾・空港などの整備」が92.6%、「公民館・病院などの公共施設の整備」が87.7%、「泥流、火山ガス、火山噴火など今後の災害への対策」が81.8%、「住宅の補修や再建への補助」が79.6%などとなっている。

一方、「重要でない（計）」（「重要でない」「あまり重要でない」を合計した割合）が比較的高くなっているのは、「住宅ローンの利子補給」の23.9%を筆頭に、「不足する生活費に対する直接支援」が17.8%、「電気、ガスなどの基本料金免除の支援」が16.8%などとなっている。

【年齢別 / 地区別】

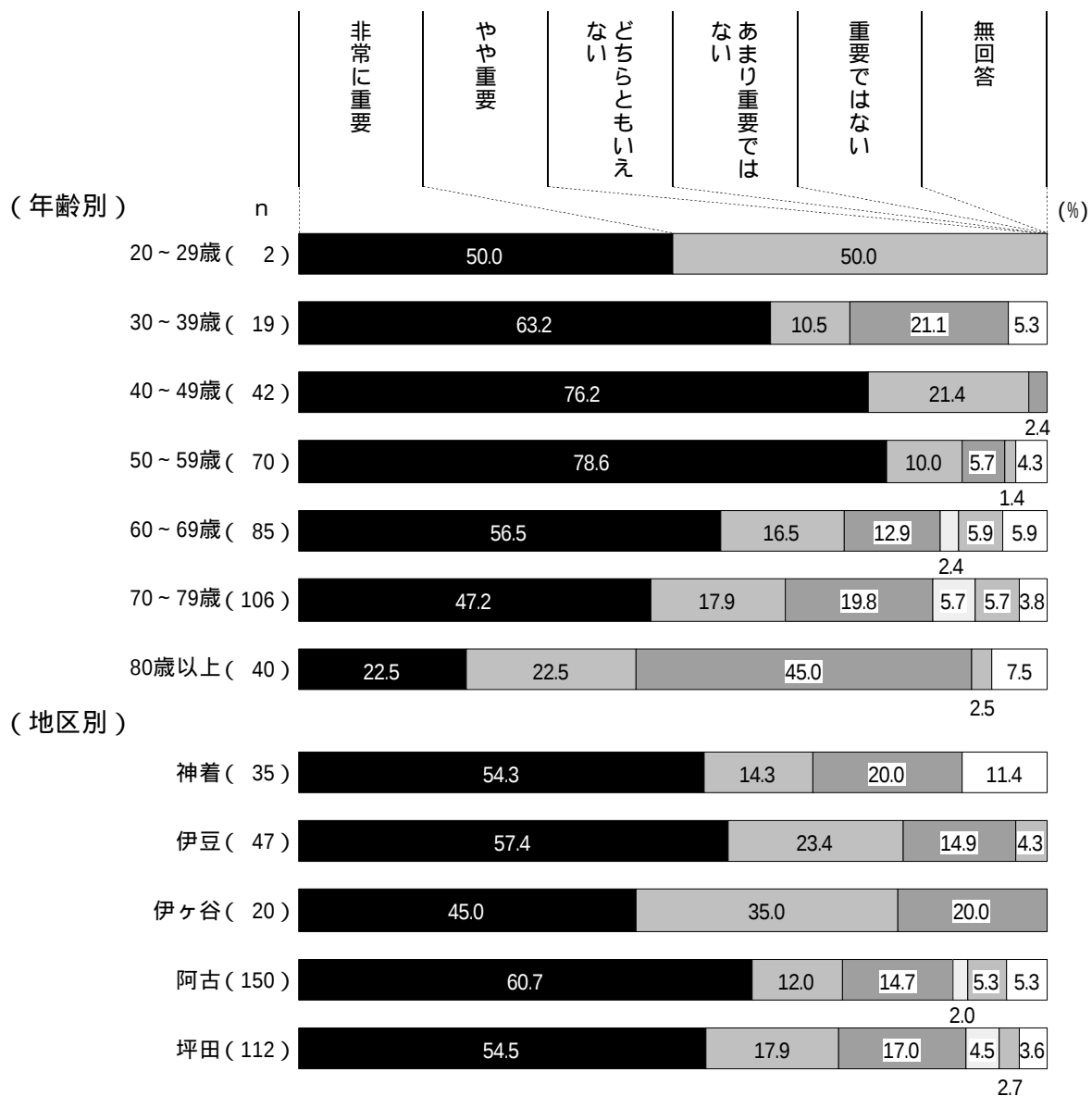
a)就労に対する支援



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は40～49歳で66.7%、50～59歳で62.9%と6割以上となっており、40～49歳の年代層からは高くなるほど重要度は低くなっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は神着地区で62.9%と他の地区に比べて高くなっている。

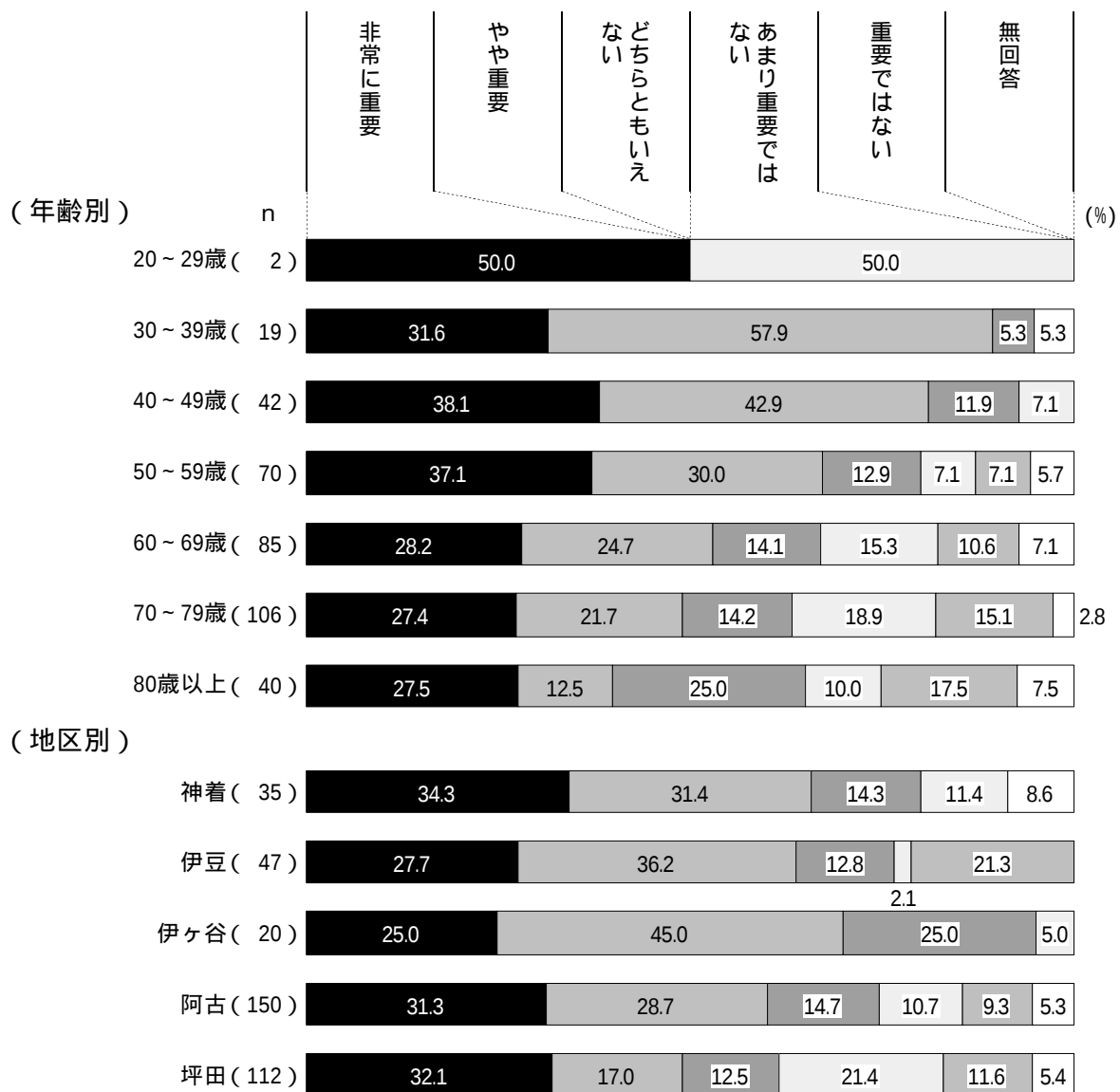
b)産業や事業に対する支援



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は50～59歳で78.6%と8割弱を占め、40～49歳で76.2%と7割台半ばとなっている。なお、40～49歳の「重要(計)」は、97.6%に上っている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は阿古地区で60.7%と最も高く6割を占めている。「重要(計)」は、伊豆地区で80.8%、伊ヶ谷地区で80.0%と8割となっており、阿古地区(72.7%)より先高くなっている。

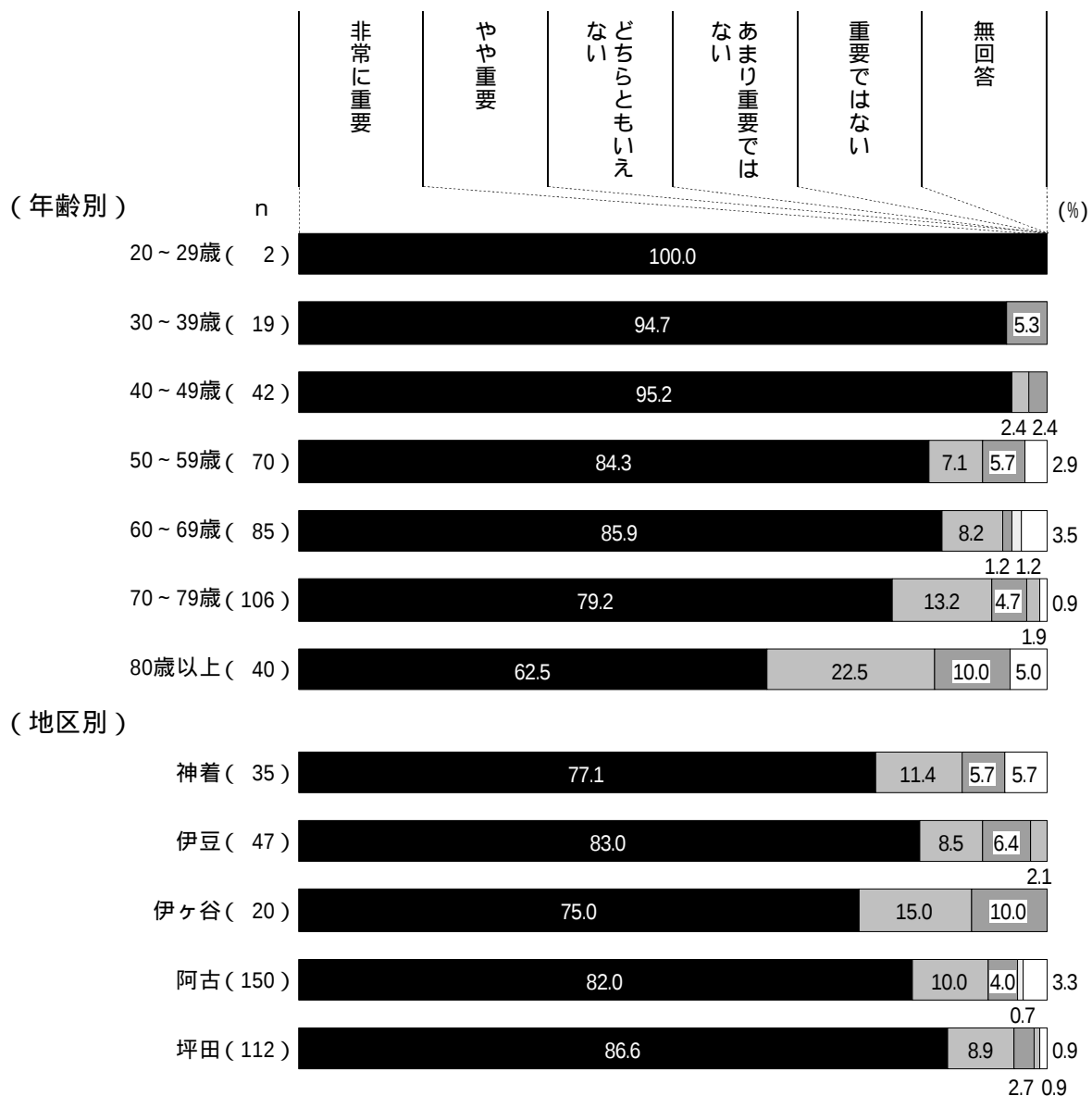
c)道路等の整備



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は40～49歳で38.1%、50～59歳で37.1%と3割台後半を占め、他の年代層に比べてやや高くなっている。なお、「重要(計)」をみると30～39歳で89.5%と最も高く9割弱を占めている。40～49歳では81.0%、50～59歳では67.1%である。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は全ての地区で3割程度となっており、「重要(計)」は伊ヶ谷地区(70.0%)で最も高くなっている。

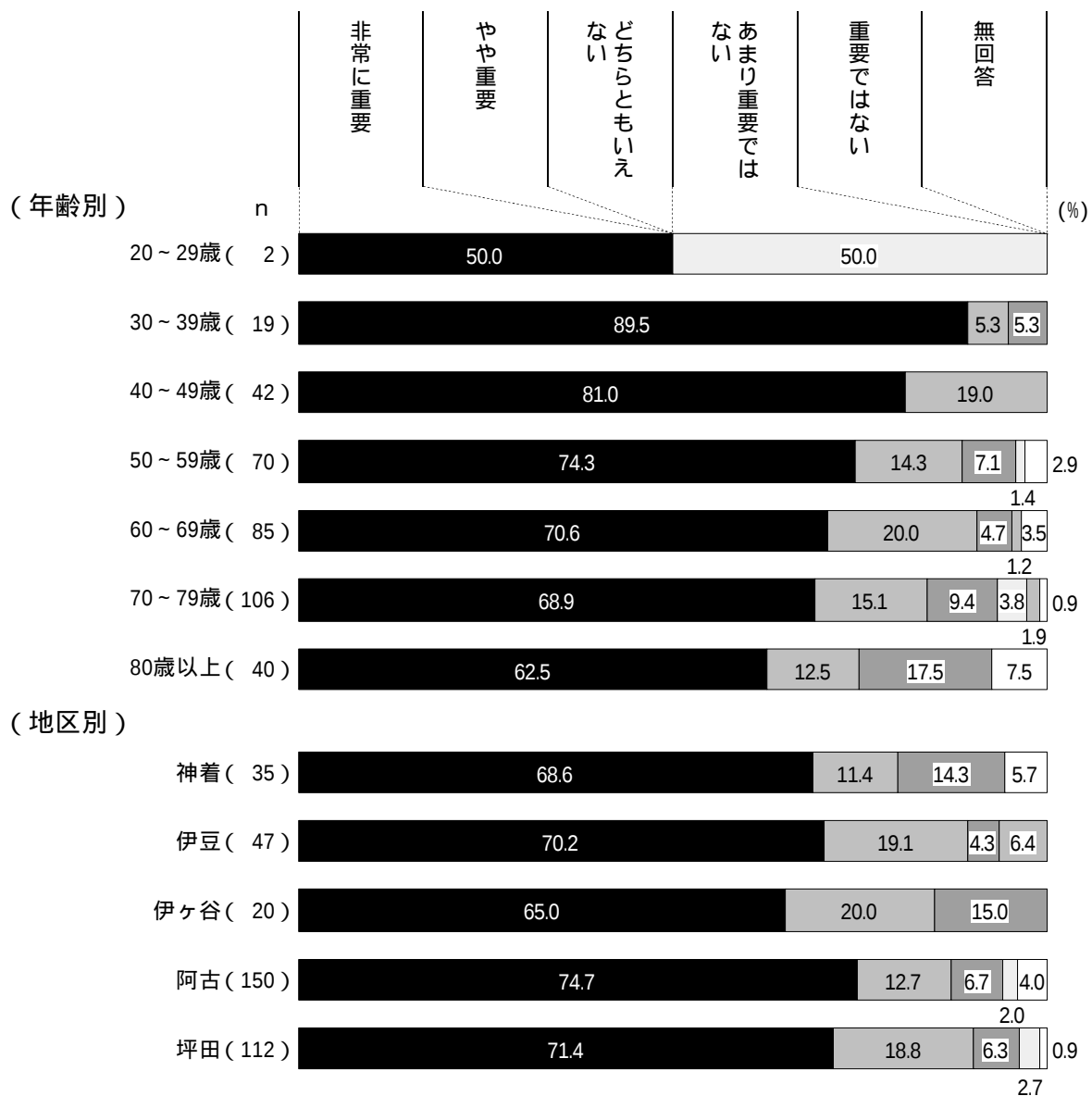
d)港湾 空港などの整備



調査回答者の年齢別にみると、どの年代層でも重要度が高くなっているが、30～39歳と40～49歳では「非常に重要」が9割台半ばを占めている（30～39歳で94.7%、40～49歳で95.2%）。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は全ての地区で8割前後を占めている。なかでも、坪田地区では「非常に重要」が86.6%と最も高く、「重要（計）」では95.5%に上っている。

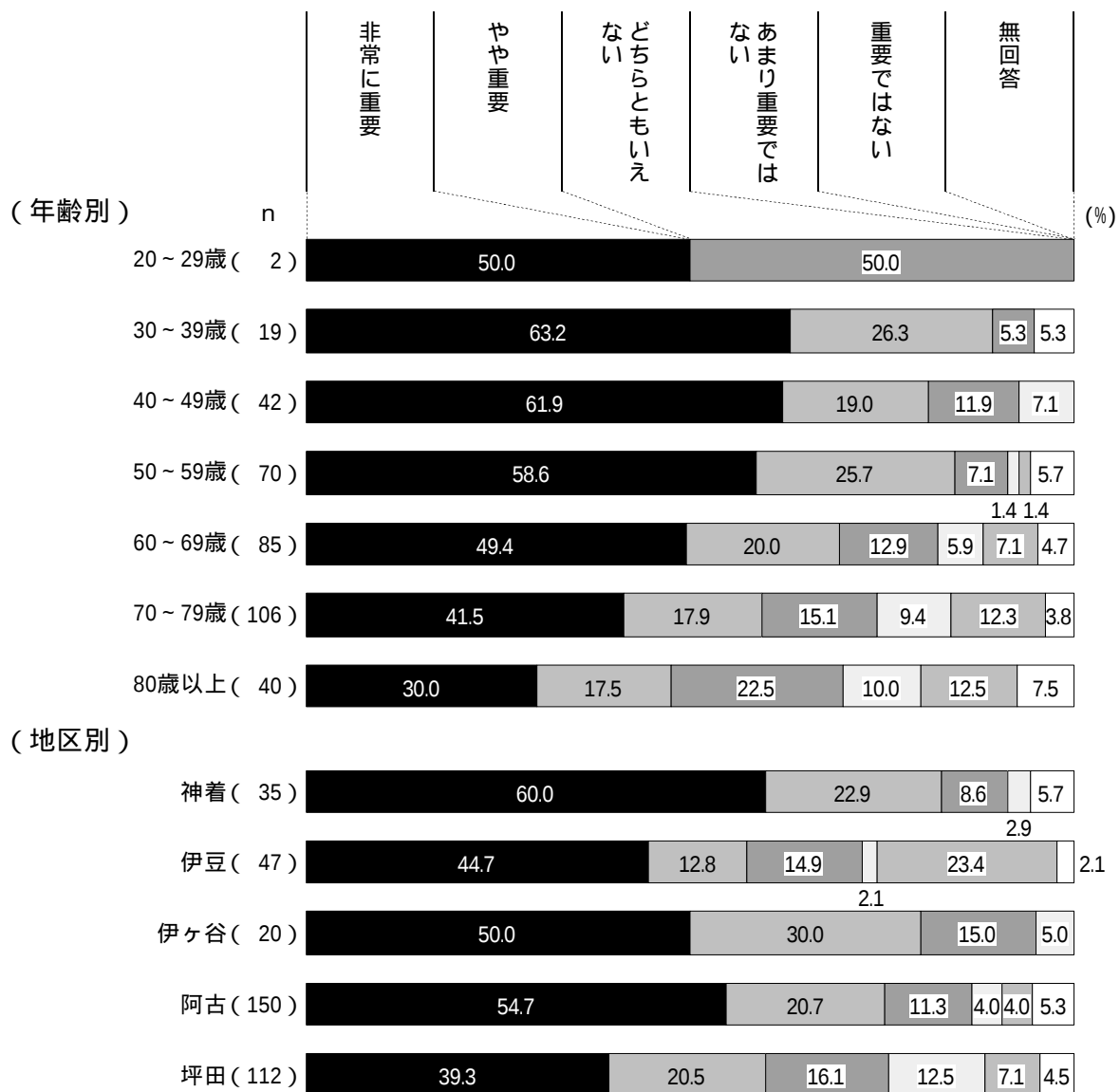
e)公民館・病院などの公共施設の整備



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」との回答は年代層が高くなるほど低くなっている。最も高くなっているのは、30～39歳で89.5%と9割弱を占め、次いで40～49歳で81.0%と8割強となっている。なお、「重要(計)」をみると40～49歳では100.0%と全数である。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は全ての地区で7割前後を占めている。

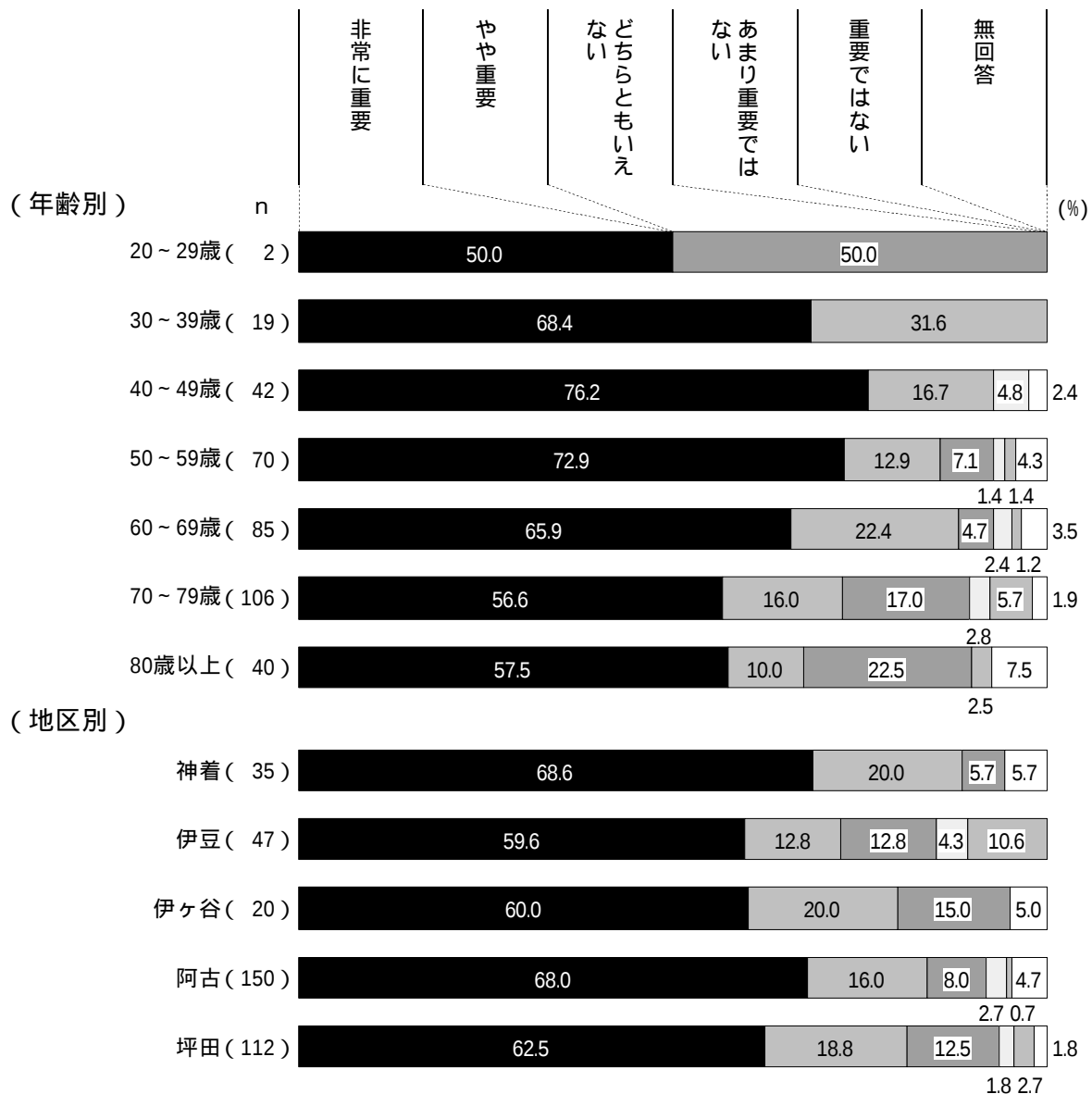
f)上下水道の整備



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は30～39歳(63.2%)と40～49歳(61.9%)、50～59歳(58.6%)で6割前後を占め、年代層が高くなるほど重要度が低くなっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は神着地区で60.0%と6割を占め、以下阿古地区で54.7%、伊ヶ谷地区で50.0%などとなっている。一方、伊豆地区では「重要ではない」が23.4%と2割強を占める。

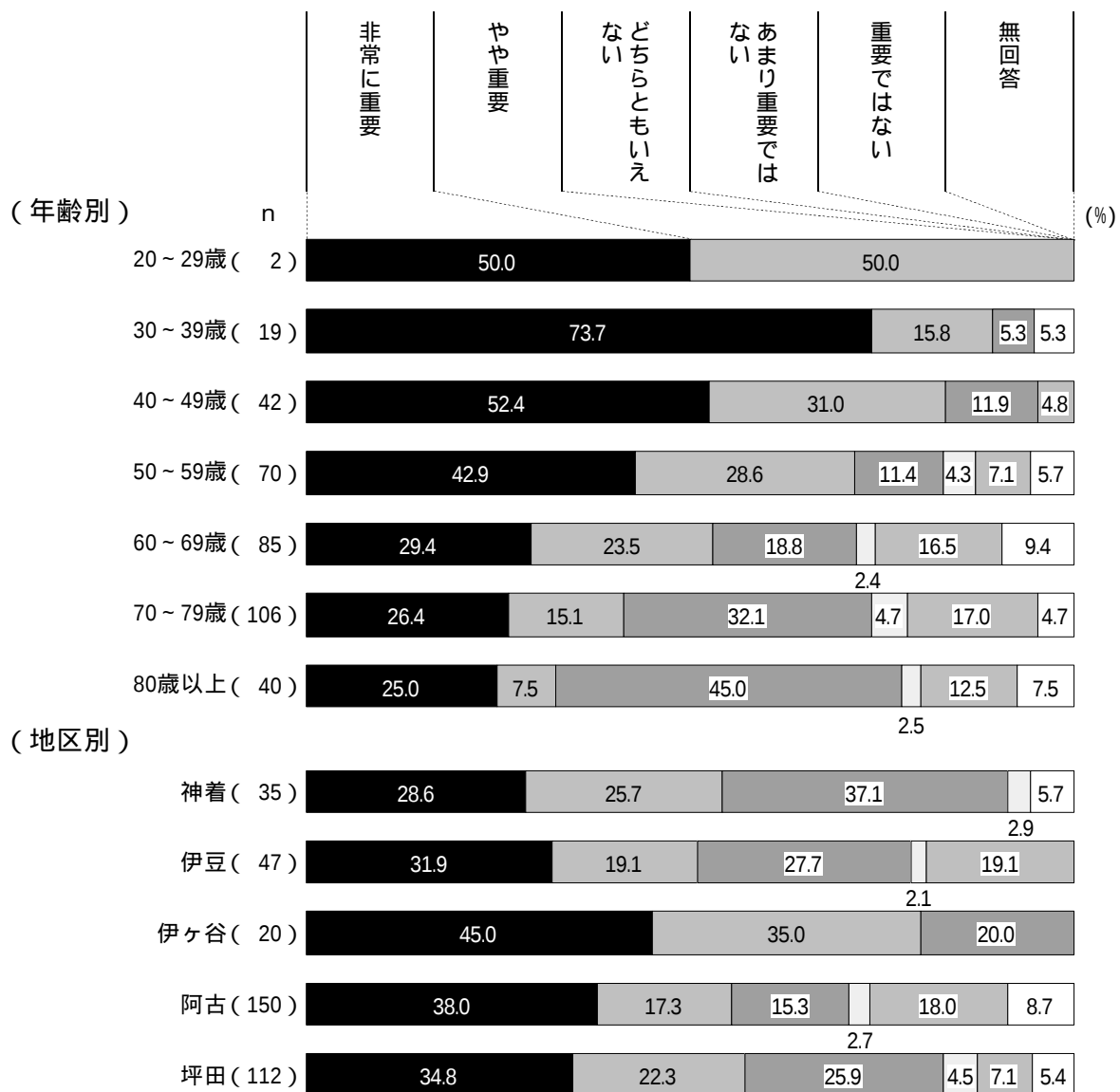
g) 泥流、火山ガス、火山噴火など今後の災害への対策



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は40～49歳で76.2%、50～59歳で72.9%と7割を占め高くなっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」はどの地区でも6割台で、「重要(計)」では神着地区で88.6%と9割弱を占めている。なお、伊豆地区では「重要ではない」が1割となっている。

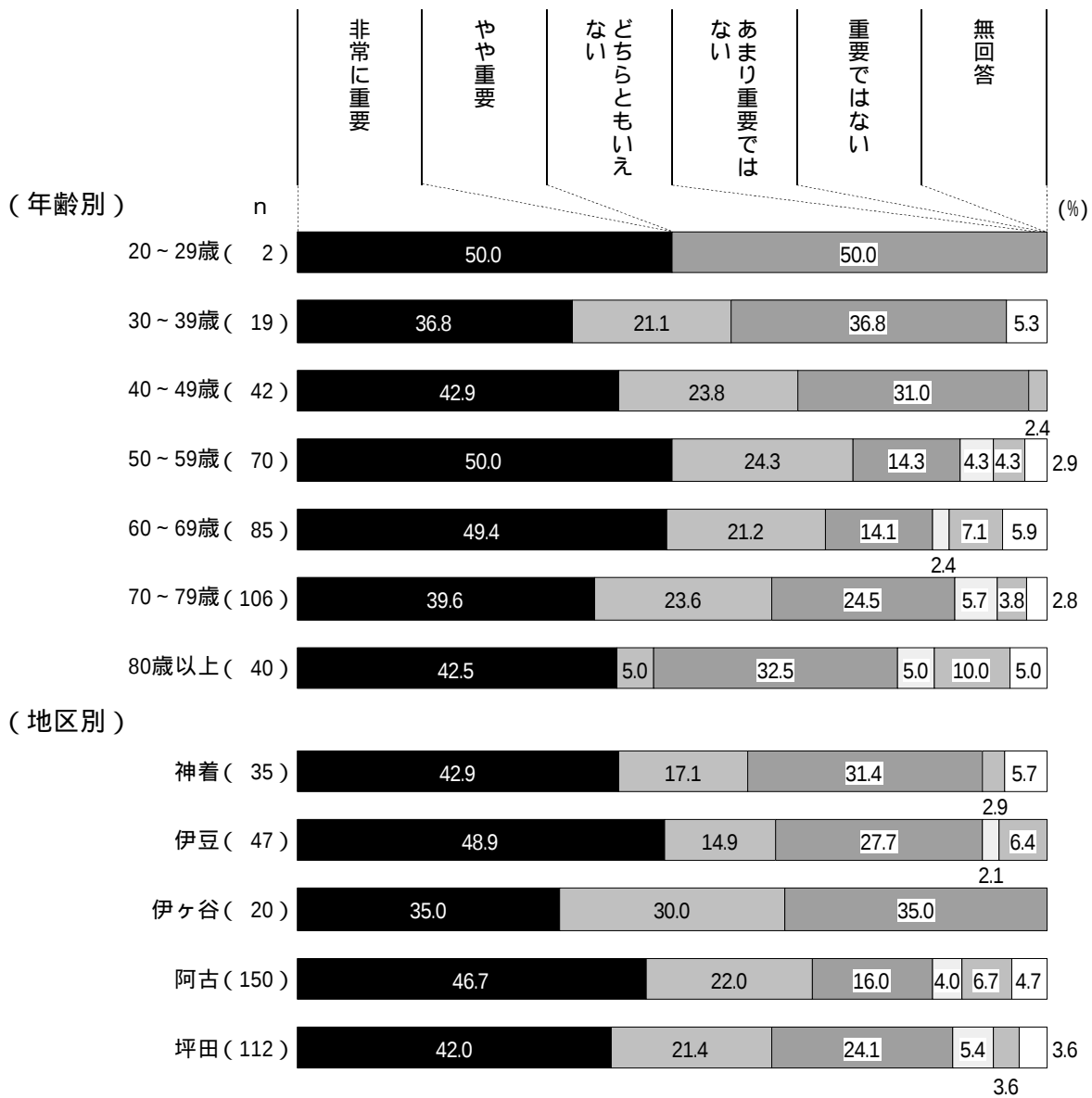
h)子どもの教育費に対する支援



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は30～39歳で73.7%と7割強を占め、他の年代層に比べて突出しており、40～49歳で5割強 (52.4%)、50～59歳で4割強 (42.9%) などとなっている。「重要 (計)」では、30～39歳で9割弱 (89.5%)、40～49歳で8割強 (83.4%) となる。年代層が高くなるほど「どちらともいえない」が高くなり、80歳以上では45.0%である。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は伊ヶ谷地区で45.0%と4割台半ばを占め、他の地区に比べて高くなっている。伊ヶ谷地区は「重要 (計)」では8割 (80.0%) となっている。

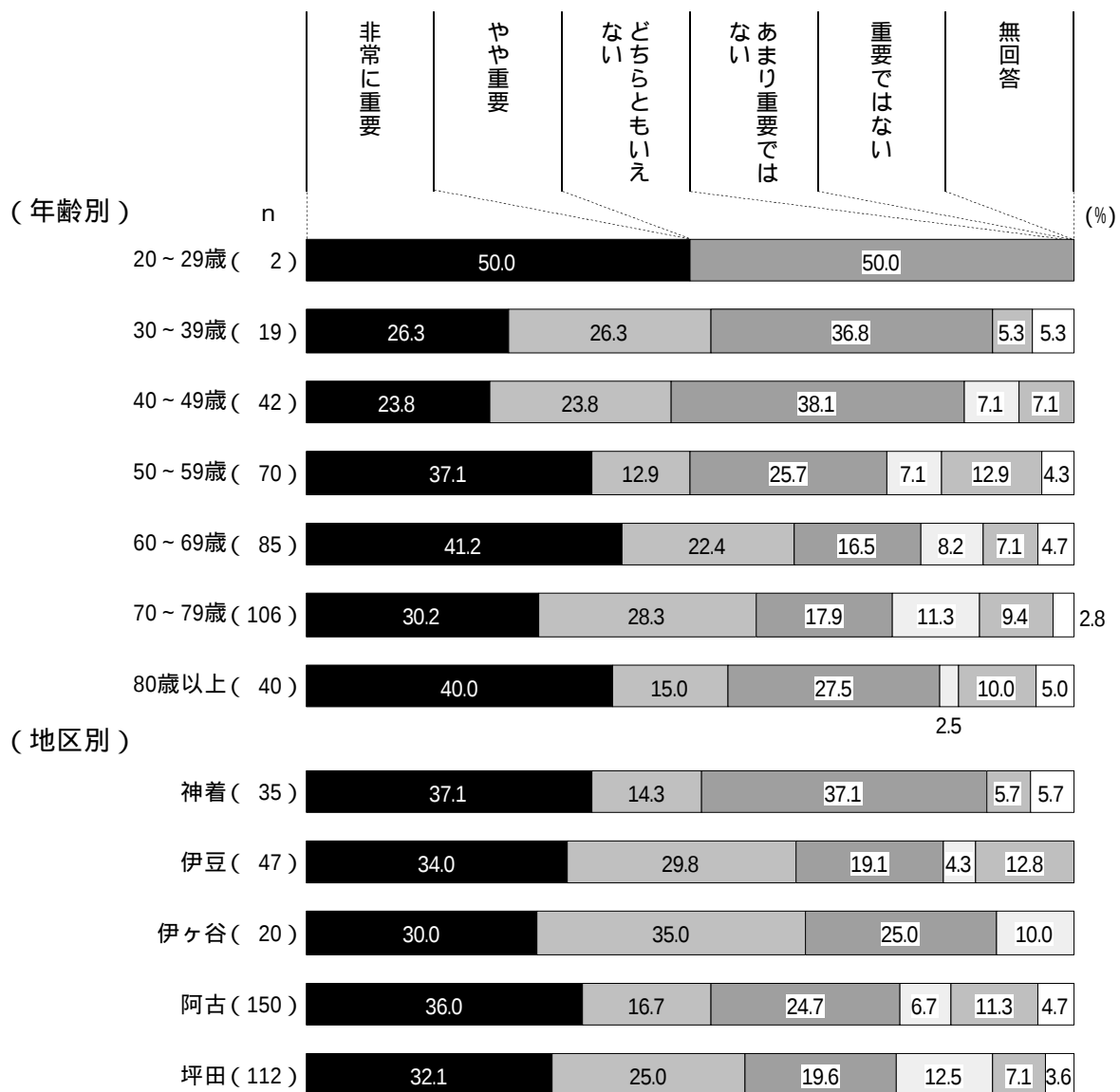
i)健康保険や年金などの保険料免除の支援



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は50～59歳(50.0%)と60～69歳(49.4%)で5割を占めている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、どの地区でも傾向は変わらないが、伊豆地区で「非常に重要」が48.9%と5割弱を占め、最も高くなっている。

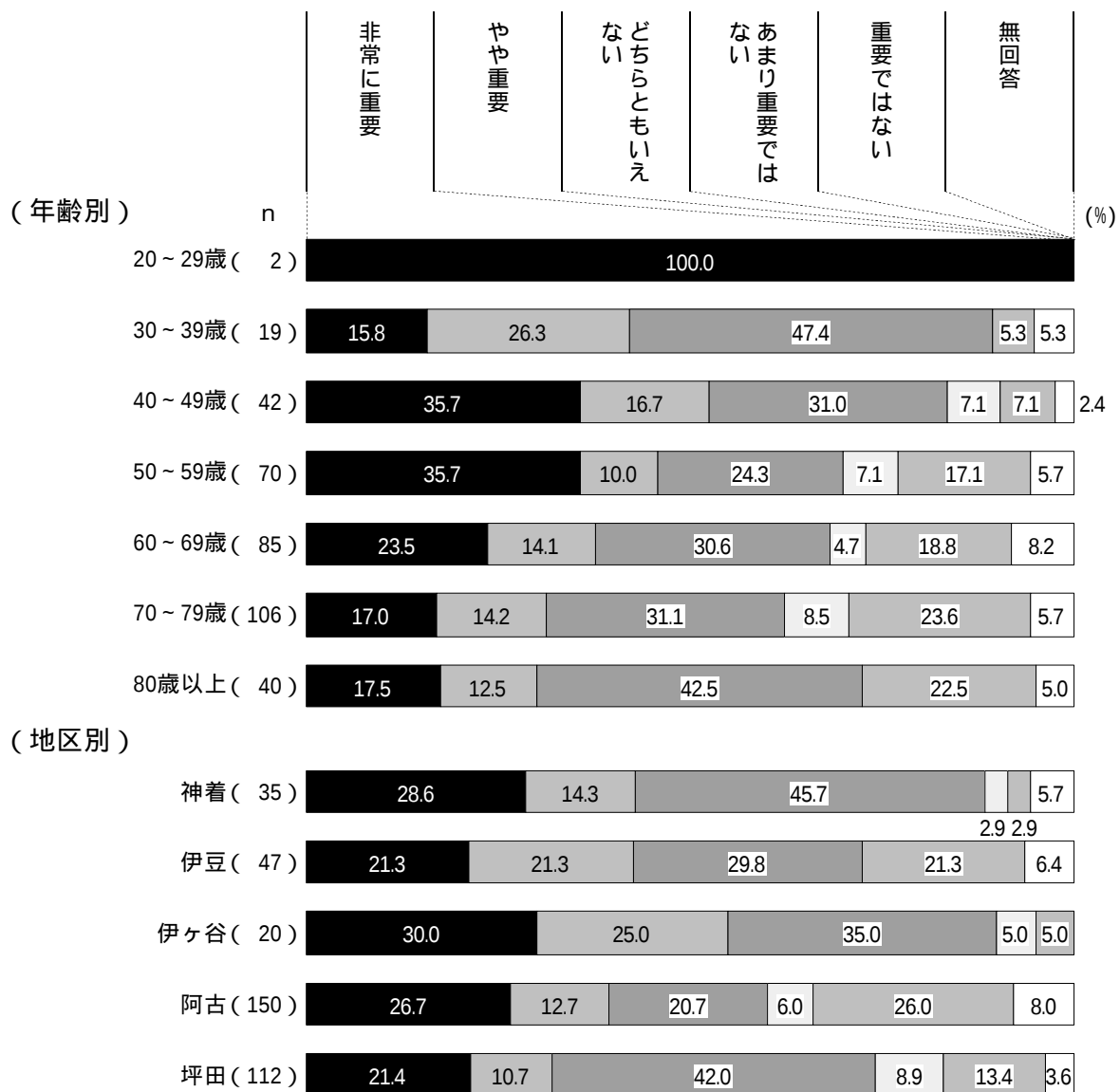
j)電気、ガスなどの基本料金免除の支援



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は60～69歳 (41.2%) と80歳以上 (40.0%) で4割を占めている。また、「重要 (計)」は60～69歳で6割強 (63.6%) となっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「重要 (計)」は伊ヶ谷地区で65.0%、伊豆地区で63.8%を占め、比較的高くなっている。

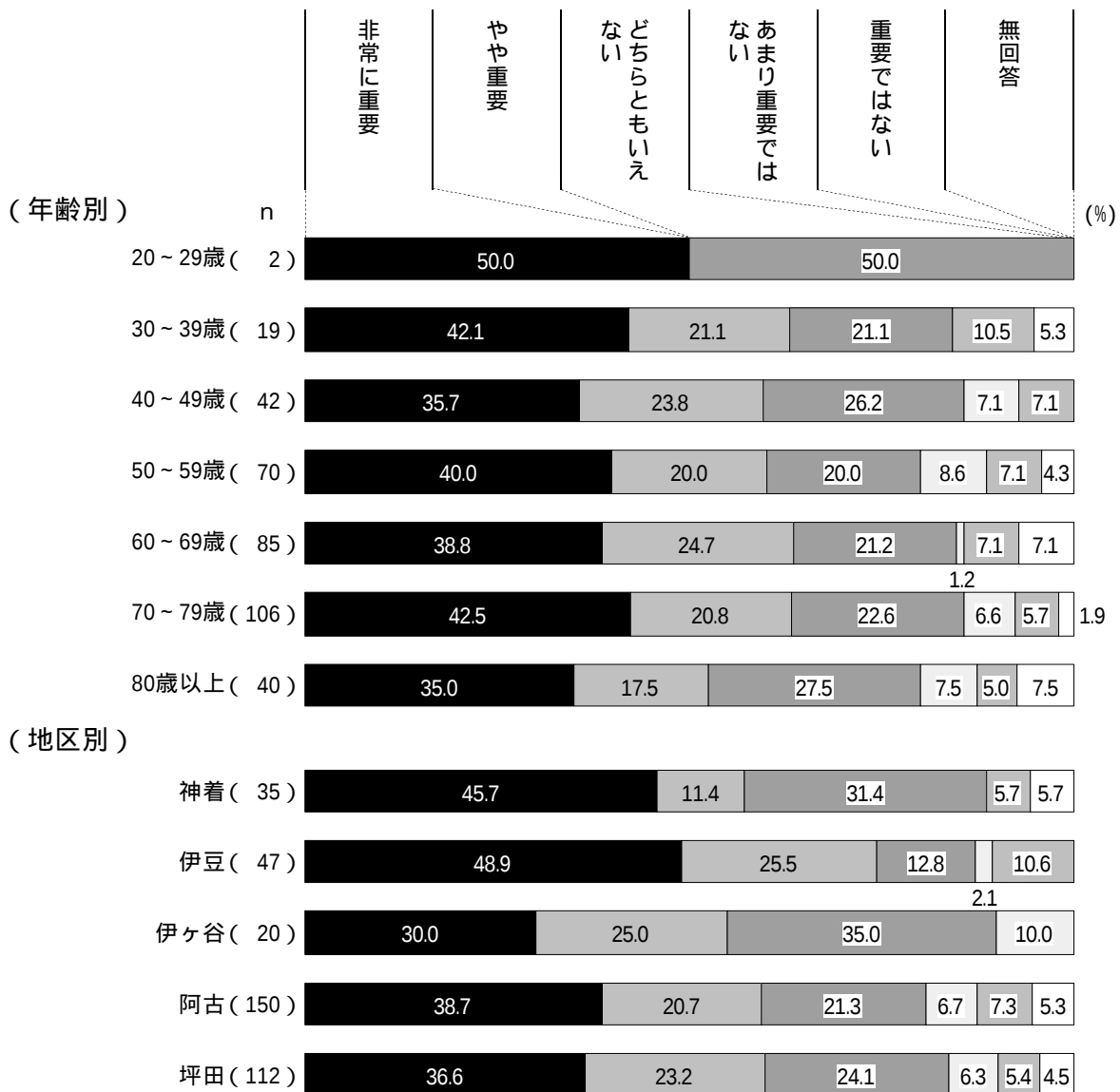
k)住宅ローンの利子補給



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は40～49歳と50～59歳で、ともに35.7%と3割台半ばを占めており、「重要（計）」では40～49歳で5割強（52.4%）となっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「重要（計）」は伊ヶ谷地区で55.0%と5割台半ばを占めており、他の地区に比べ高くなっている。一方、「重要ではない（計）」は阿古地区で3人に1人（32.0%）を占めている。

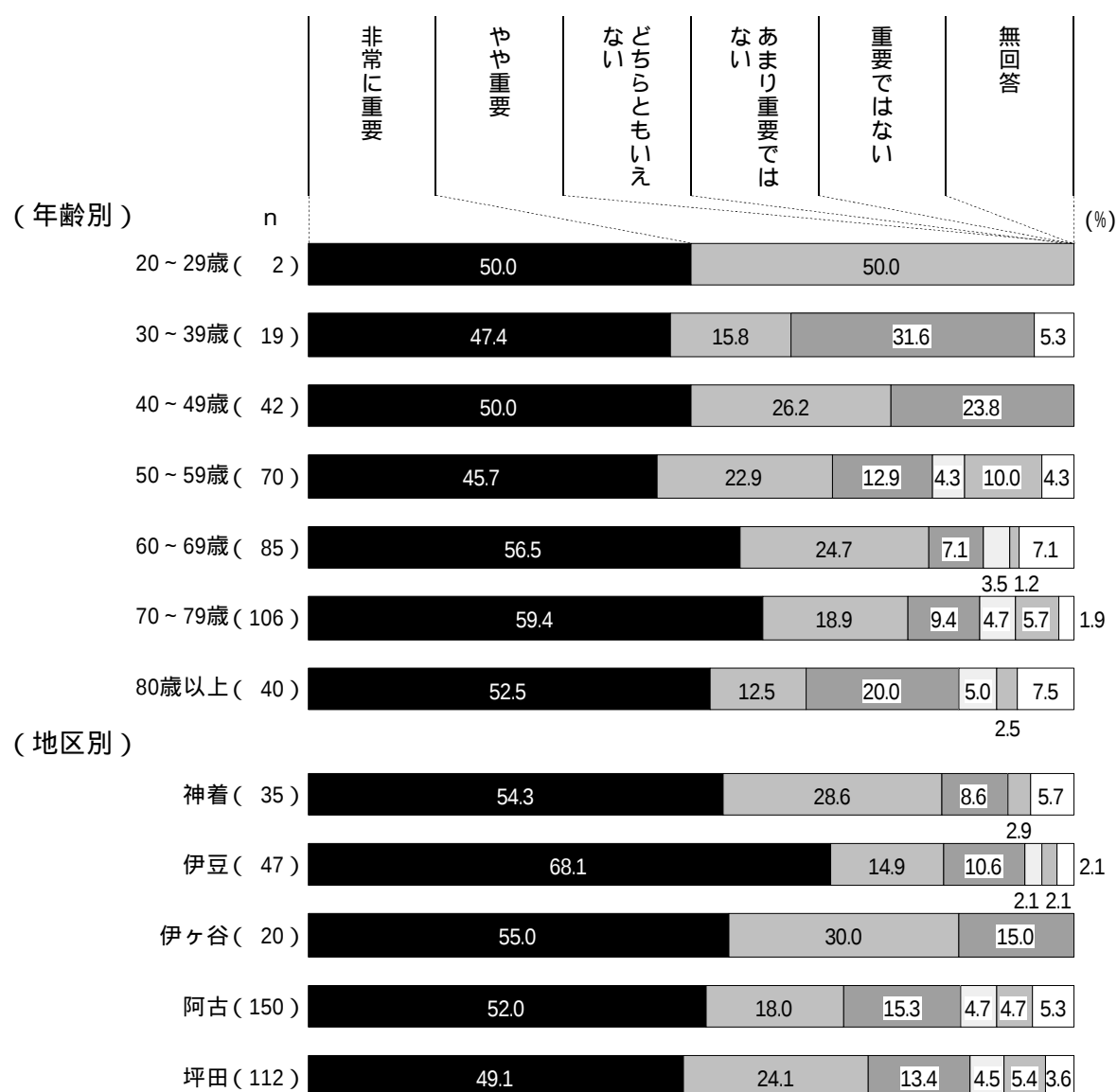
D税の減免



調査回答者の年齢別にみると、ほぼ全ての年代層で「非常に重要」が3割台半ばから4割程度となっており、「重要(計)」では6割前後である。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は伊豆地区で48.9%、神着地区で45.7%と比較的高くなっている。なお、「重要(計)」は伊豆地区で74.4%と高く、4人に3人を占めている。

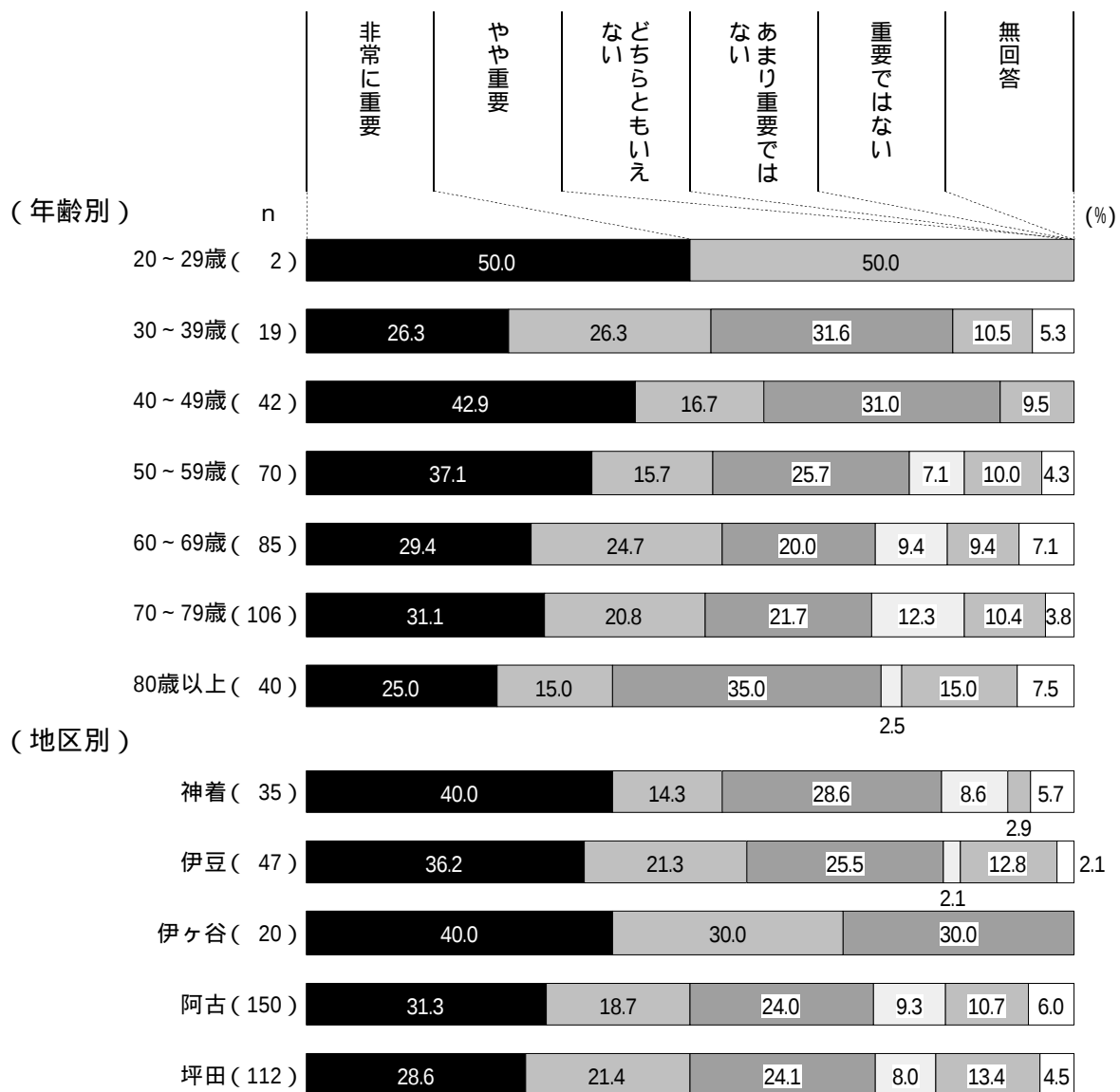
m)医療費への補助



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は70～79歳で59.4%と6割弱、60～69歳で56.5%と5割台半ば、80歳以上で52.5%と5割強を占め、高年代層で高くなっている。「重要(計)」では60～69歳で最も高く8割強(81.2%)となっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は伊豆地区で68.1%と7割弱を占め、他の地区より高くなっている。「重要(計)」では、伊ヶ谷地区で最も高く8割台半ば(85.0%)を占め、以下、伊豆地区で83.0%、神着地区で82.9%となっている。

n)不足する生活費に対する直接支援

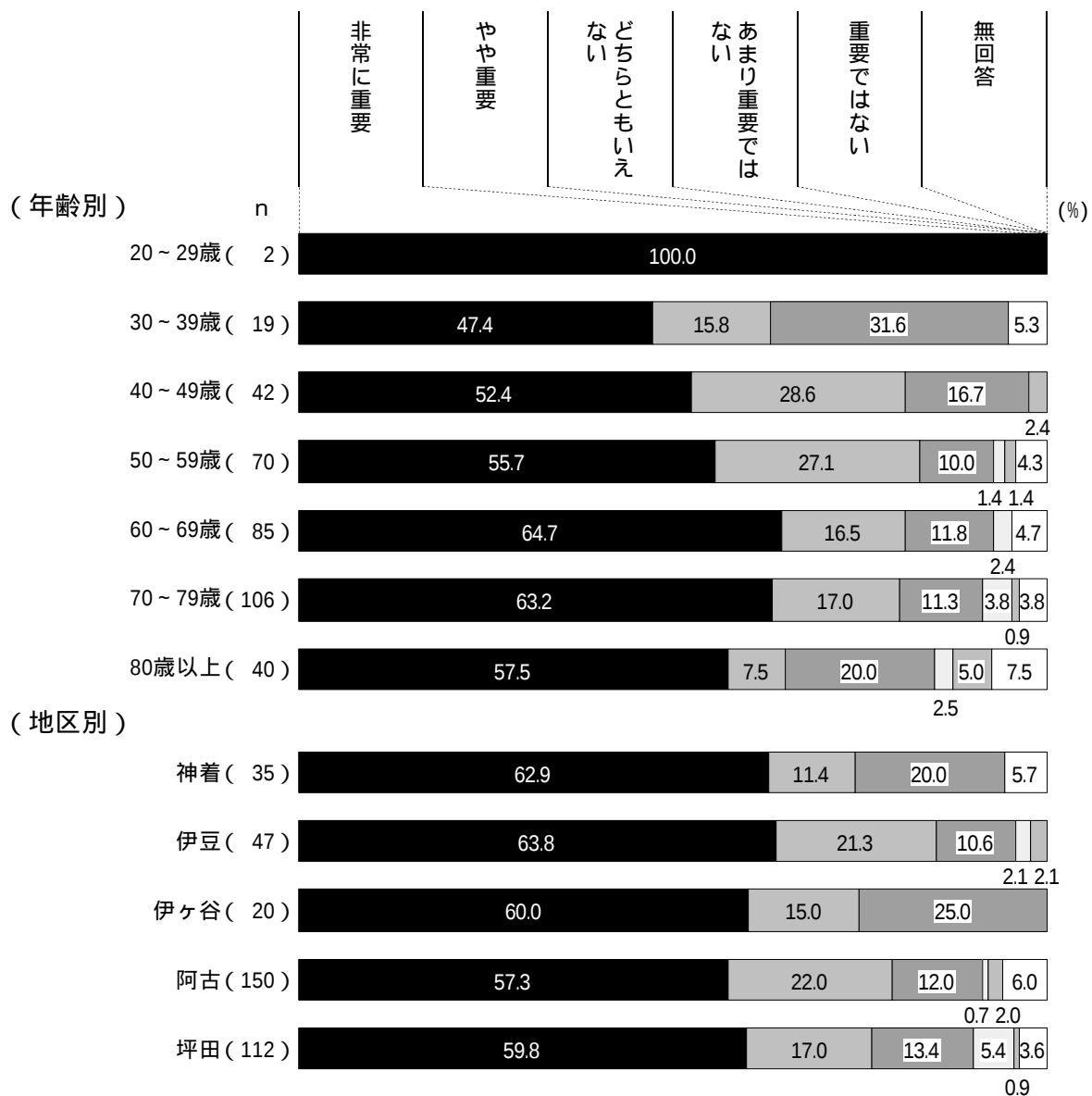


調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は40～49歳で42.9%と4割強を占め最も高くなっている。

『重要(計)』では、ほぼ全ての年代層で5割台であるが、80歳以上だけは4割(40.0%)にとどまっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は神着地区と伊ヶ谷地区でともに4割(40.0%)を占めているが、『重要(計)』でみると、伊ヶ谷地区で70.0%と7割を占め、最も高くなっている。

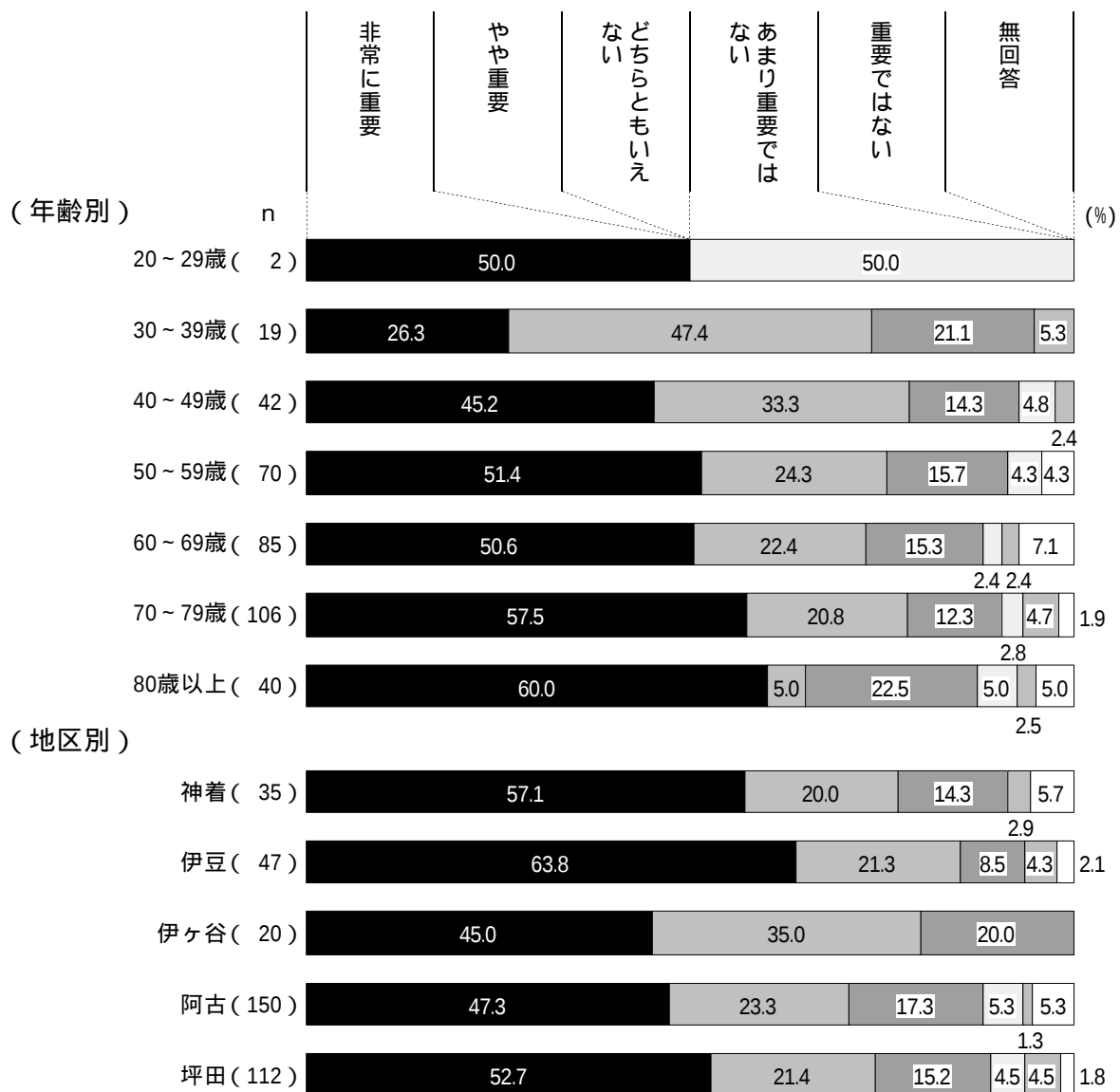
○福祉サービスの充実



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は60～69歳で64.7%と6割台半ば、70～79歳で63.2%と6割強を占めている。また、「重要（計）」でみると、40～49歳から70～79歳の年代層で8割を超えている（40～49歳で81.0%、50～59歳で82.8%、60～69歳で81.2%、70～79歳で80.2%）。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は全ての地区で6割前後を占めており、「重要（計）」では伊豆地区が85.1%と最も高くなっている。

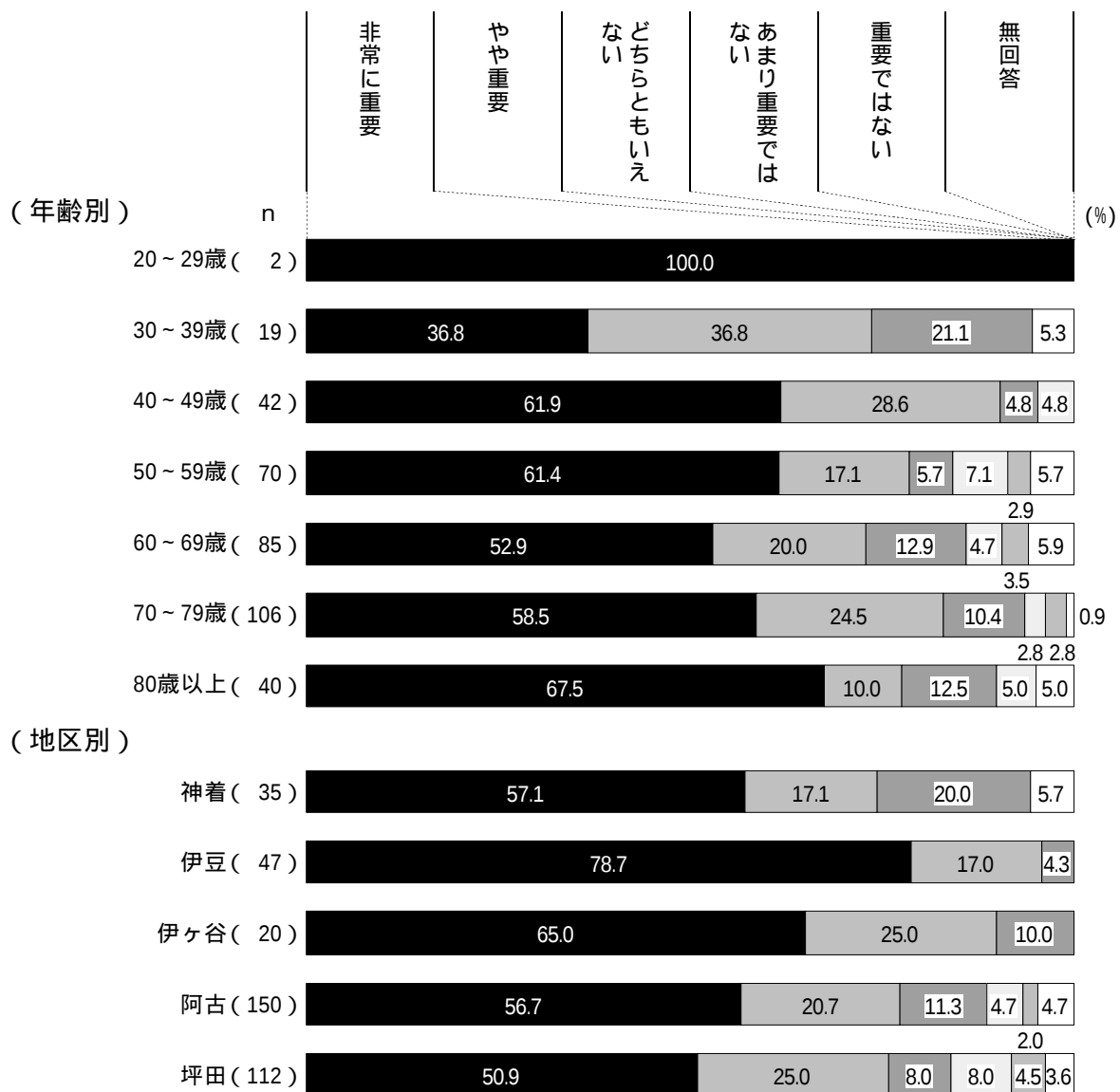
p)地域のまとまり(コミュニティ)づくり



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は80歳以上で60.0%と6割を占め最も高くなっており、年代層が低くなるほど重要度は低くなっている。なお、「重要(計)」では40～49歳が78.5%と最も高く8割に近い。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は伊豆地区で63.8%と6割強を占め、この地区は「重要(計)」でも85.1%と8割台半ばとなっている。

q)住宅の補修や再建への補助



調査回答者の年齢別にみると、「非常に重要」は80歳以上で67.5%と7割弱を占め、40～49歳で61.9%、50～59歳で61.4%と、ともに6割強となっている。『重要(計)』でみると、40～49歳で最も高く9割(90.5%)台に乗っている。

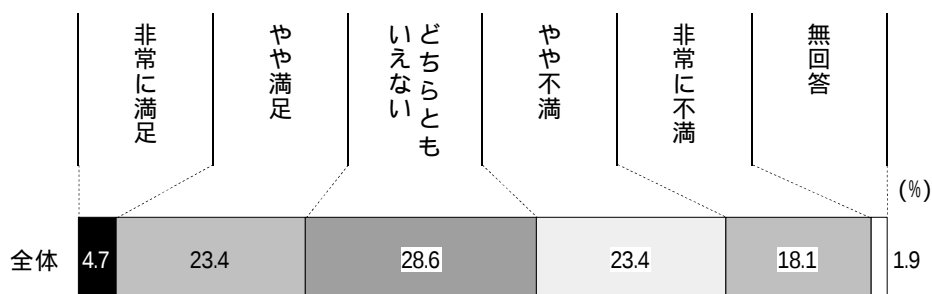
調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「非常に重要」は伊豆地区で78.7%と8割弱となっており、他の地区より高くなっている。この地区は『重要(計)』で95.7%と大半を占めている。

(2) 復興状況の満足度

満足(計)』は3割弱で、不満(計)』は4割強

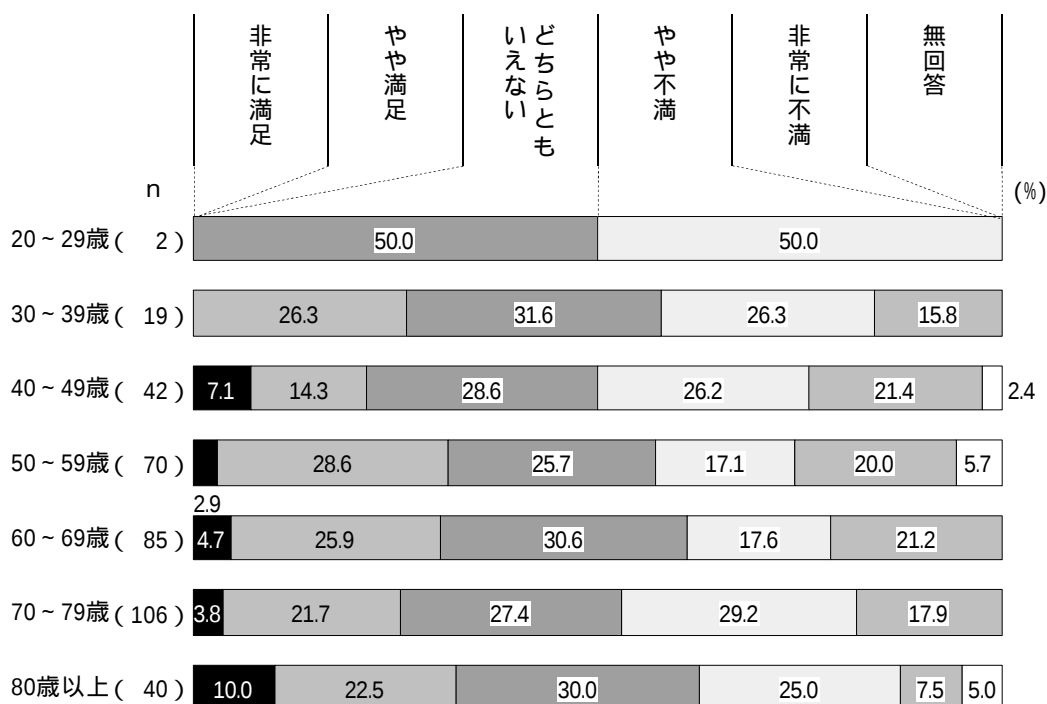
問19 全般的に、現在の復興の状況に対して、あなたはどの程度満足していますか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



現在の復興状況の満足度については、不満(計)』(「やや不満」「非常に不満」を合計した割合)が41.5%を占め、満足(計)』(「非常に満足」「やや満足」を合計した割合)の28.1%を上回っている。なお、「どちらともいえない」が28.6%と3割に近い。

【年齢別】



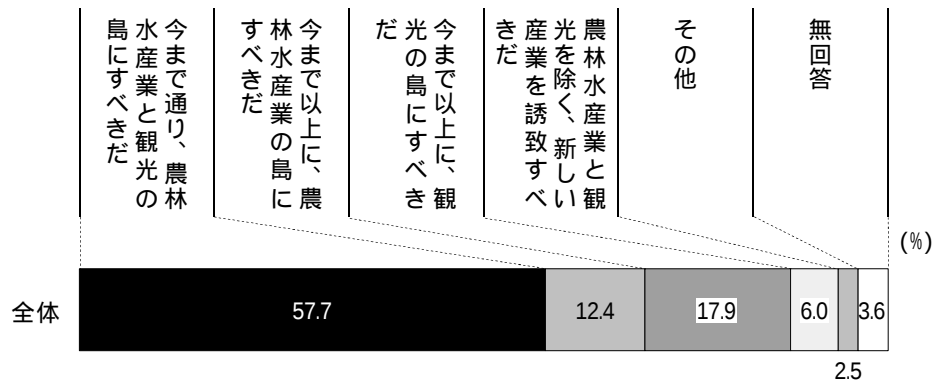
調査回答者の年齢別にみると、ほぼ全体の傾向に準じているが、不満(計)』は40～49歳で47.6%、70～79歳で47.1%と5割弱を占め、他の年代層より高くなっている。

(3)三宅村の将来像

今まで通り農林水産業と観光の島に」が6割弱

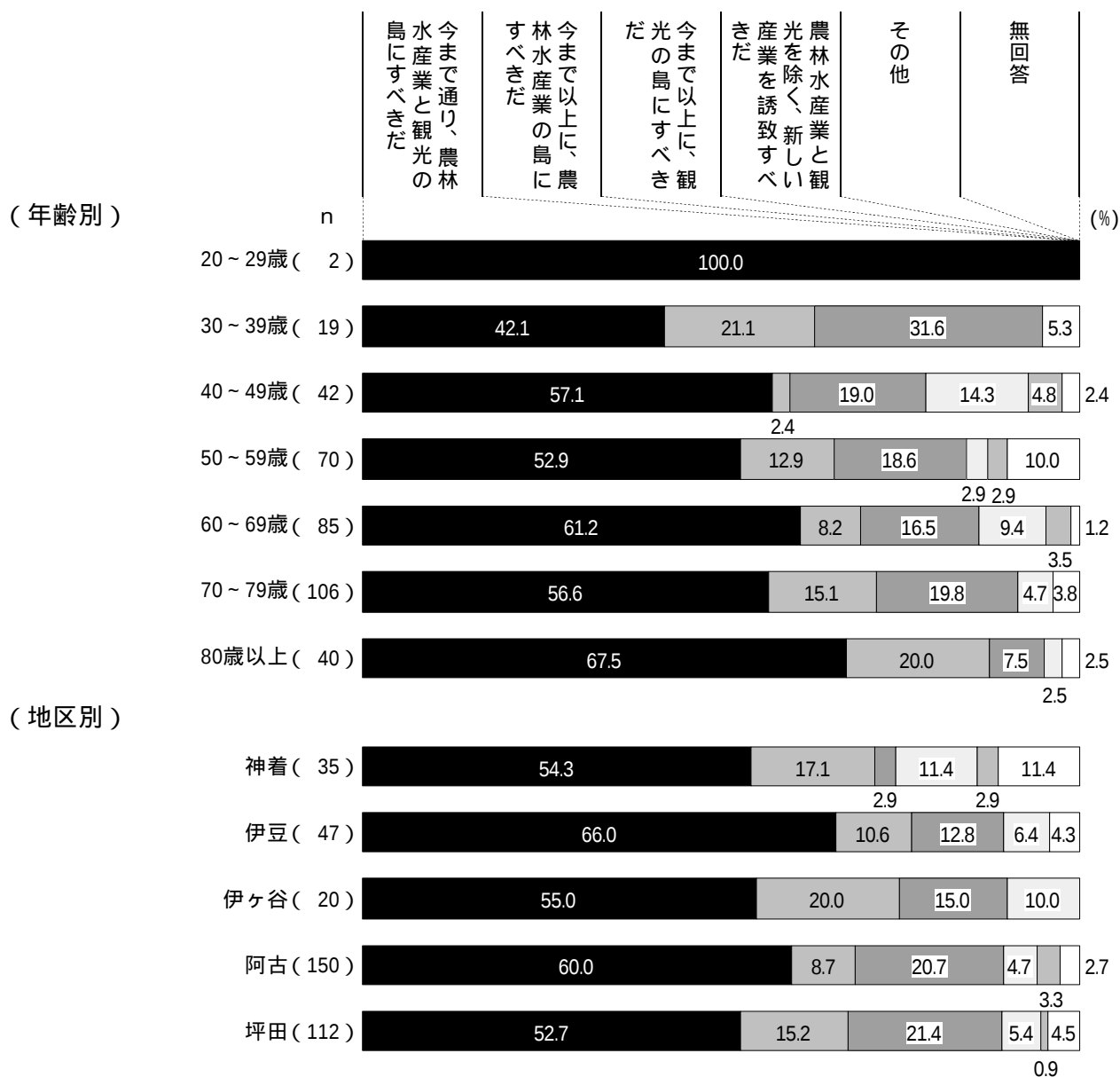
問20 三宅村の将来像について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



三宅村の将来像については、「今まで通り 農林水産業と観光の島にすべきだ」との回答が57.7%と最も高く、6割弱を占めている。次いで「今まで以上に、観光の島にすべきだ」が17.9%、「今まで以上に、農林水産業の島にすべきだ」が12.4%となっており「農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ」は6.0%にとどまっている。

【年齢別 / 地区別 (帰島後)】



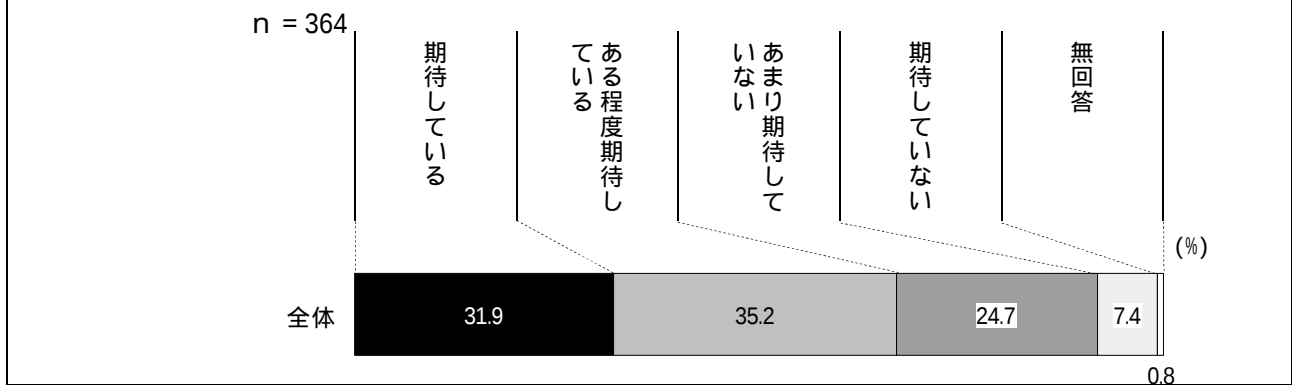
調査回答者の年齢別にみると、「今まで通り 農林水産業と観光の島にすべきだ」は、80歳以上で67.5%と7割弱を占め最も高く、60～69歳で6割強 (61.2%) となっている。一方、30～39歳では「今まで以上に、観光の島にすべきだ」が31.6%と3割強を占めている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「今まで通り 農林水産業と観光の島にすべきだ」は、伊豆地区で66.0%と6割台半ばを超えて最も高く、次いで阿古地区で60.0%と6割を占めている。

(4)三宅島復興への期待

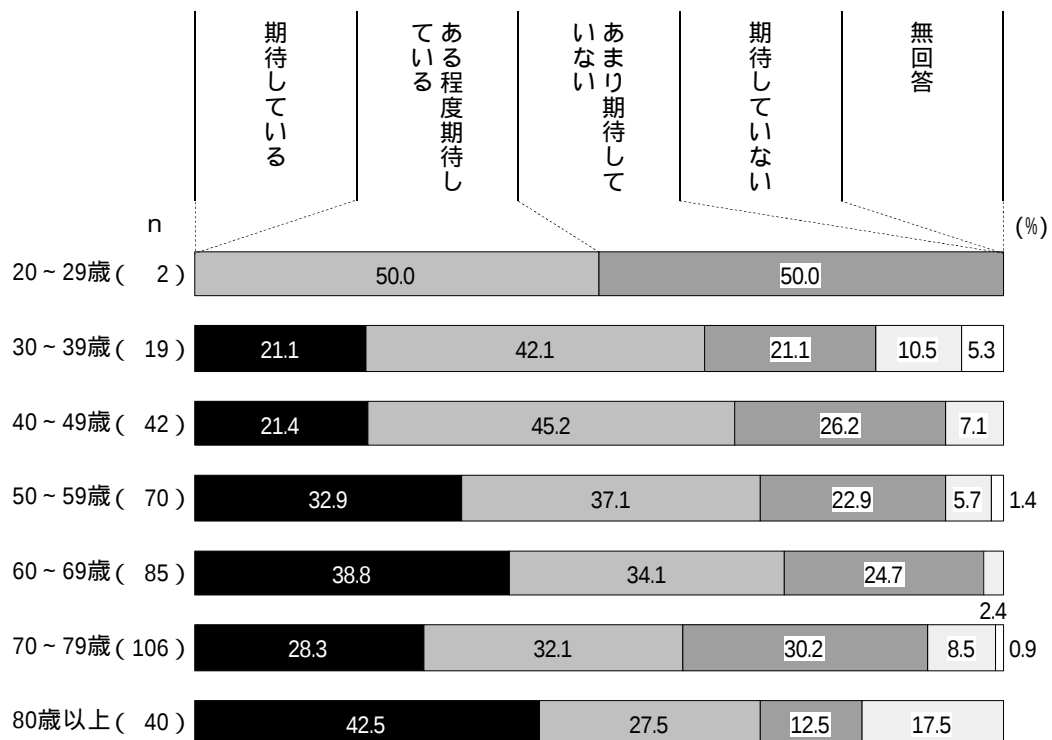
期待している(計)』は7割弱で、期待していない(計)』は3割強

問21 あなたは三宅島の復興についてどの程度期待していますか。あてはまるものを1つお選びください。



三宅島の復興への期待度は、「ある程度期待している」との回答が35.2%と最も高く、「期待している」の31.9%と合計すると「期待している(計)』は67.1%と3世帯に2世帯の割合となる。一方、「期待していない」の7.4%と「あまり期待していない」の24.7%を合わせた「期待していない(計)』は32.1%と3世帯に1世帯となっている。

【年齢別】

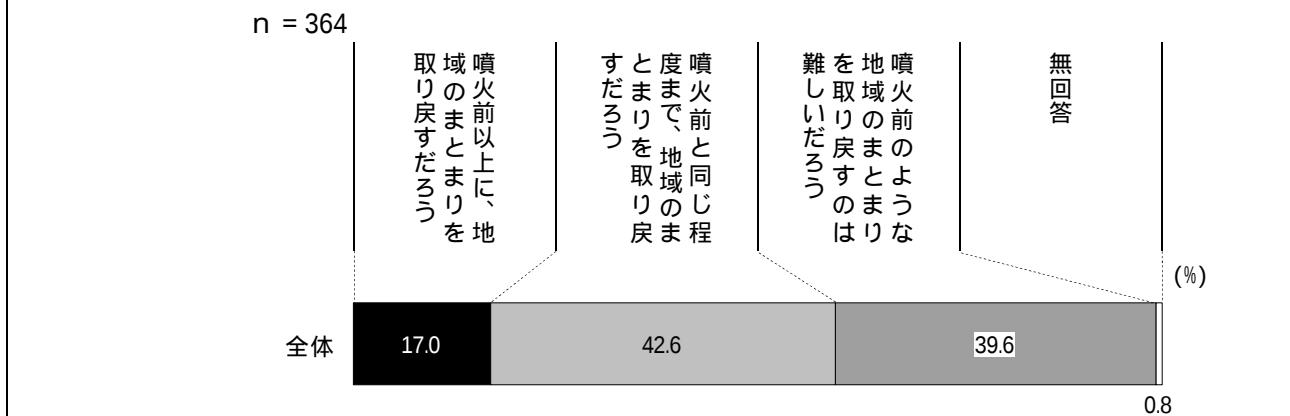


調査回答者の年齢別にみると「期待している」は80歳以上で42.5%と4割強を占め最も高く、「期待している(計)』では60～69歳(72.9%)、50～59歳、80歳以上(ともに70.0%)で7割台に乗っている。

(5) 地域のまとまりの変化

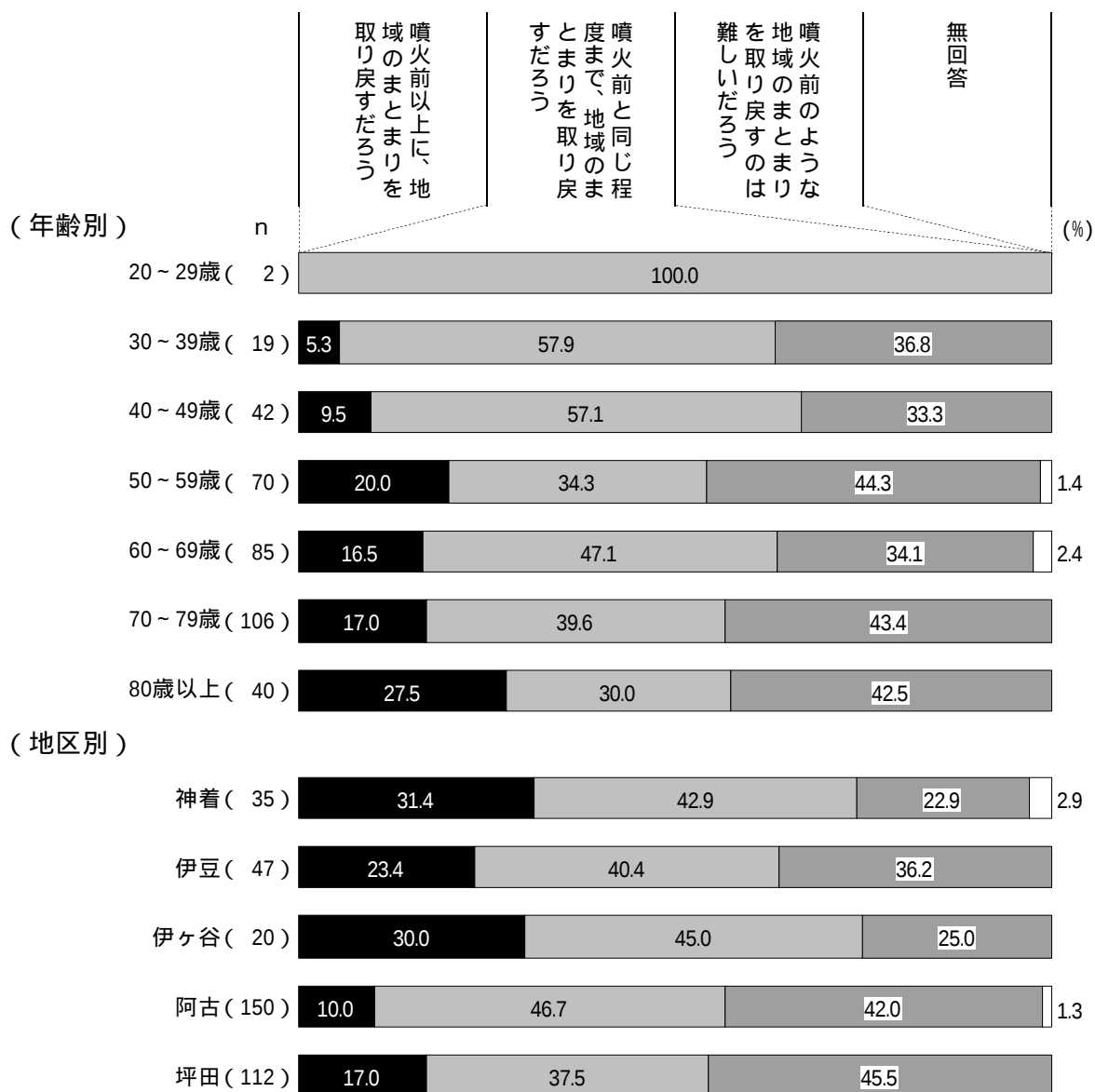
噴火前と同じ程度に」と取り戻すのは難しい」はともに4割前後

問22 あなたは三宅島の地域のまとまりについて、噴火前と比べてどう思いますか。あてはまるものを1つお選びください。



地域のまとまりの形成の程度を、噴火前の状態と比較すると、「噴火前と同じ程度まで、地域のまとまりを取り戻すだろう」との回答が42.6%と最も高く4割強を占めている。一方で、「噴火前のような地域のまとまりを取り戻すのは難しいだろう」が39.6%でほぼ4割となっている。また、「噴火前以上に、地域のまとまりを取り戻すだろう」は17.0%である。

【年齢別 / 地区別 (帰島後)】



調査回答者の年齢別にみると、「噴火前と同じ程度まで、地域のまとまりを取り戻すだろう」は30～39歳で57.9%、40～49歳で57.1%と6割弱を占めているのに対し、80歳以上では30.0%にとどまっている。一方、「噴火前以上に、地域のまとまりを取り戻すだろう」が80歳以上で27.5%と、他の年代に比べ高くなっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「噴火前と同じ程度まで、地域のまとまりを取り戻すだろう」は、神着地区で31.4%、伊ヶ谷地区で30.0%と3割台に乗っている一方で、阿古地区では10.0%となっている。

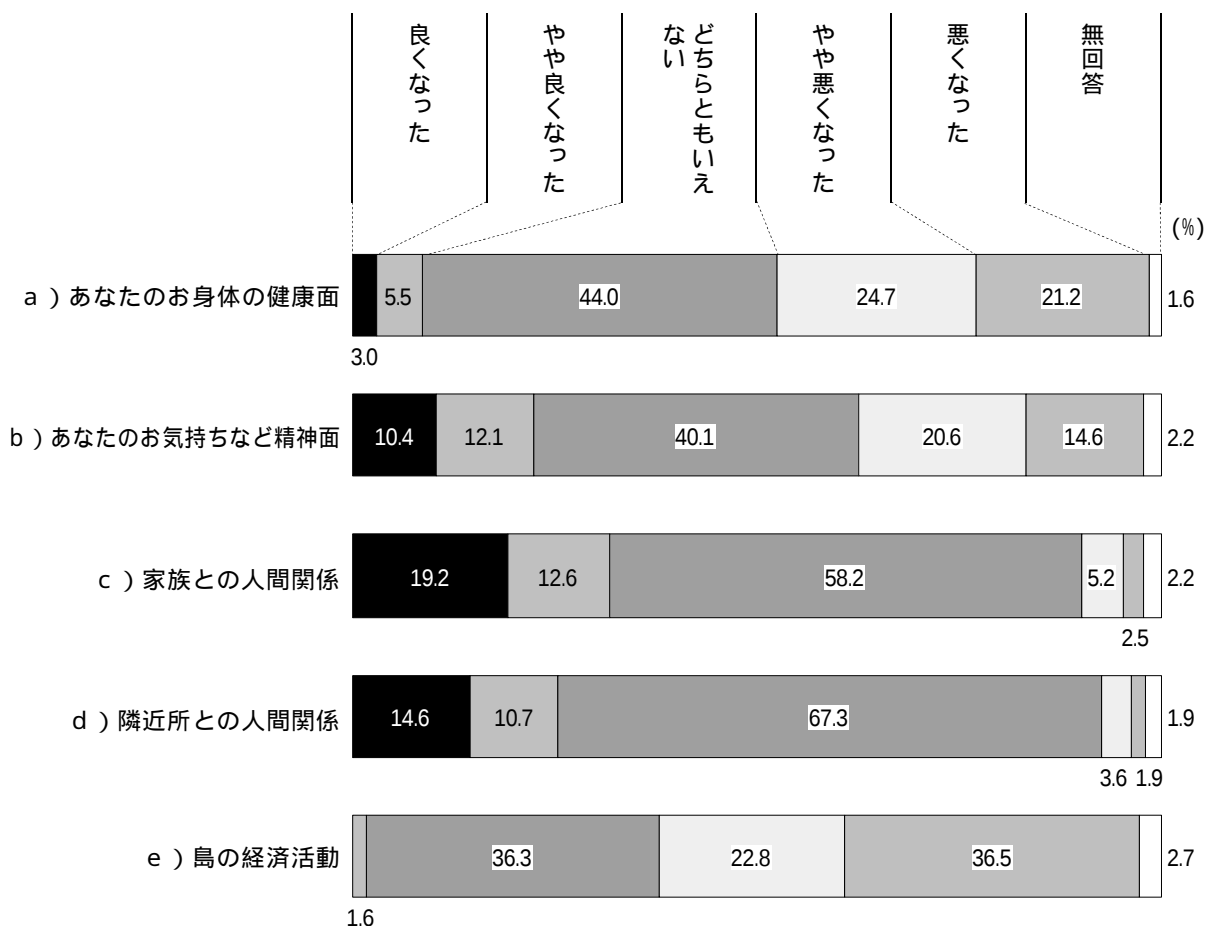
6 噴火前との意識の変化

(1) 噴火前との変化

『良くなった(計)』では『家族との人間関係』が3世帯に1世帯

問23 噴火の前と比べると、あなたは現状をどのようにお感じになりますか。次のa)～e)のことについて、それぞれ1つずつお選びください。

n = 364



噴火前と現状の変化については、『良くなった(計)』(『良くなった』や『やや良くなった』を合計した値)と『悪くなった(計)』(『やや悪くなった』や『悪くなった』を合計した値)を比較すると、次のようになっている。(カッコ内は、『良くなった(計)』/『悪くなった(計)』)

〔あなたのお身体の健康面〕(8.5% / 45.9%)

〔あなたのお気持ちなどの精神面〕(22.5% / 35.2%)

〔家族との人間関係〕(31.8% / 7.7%)

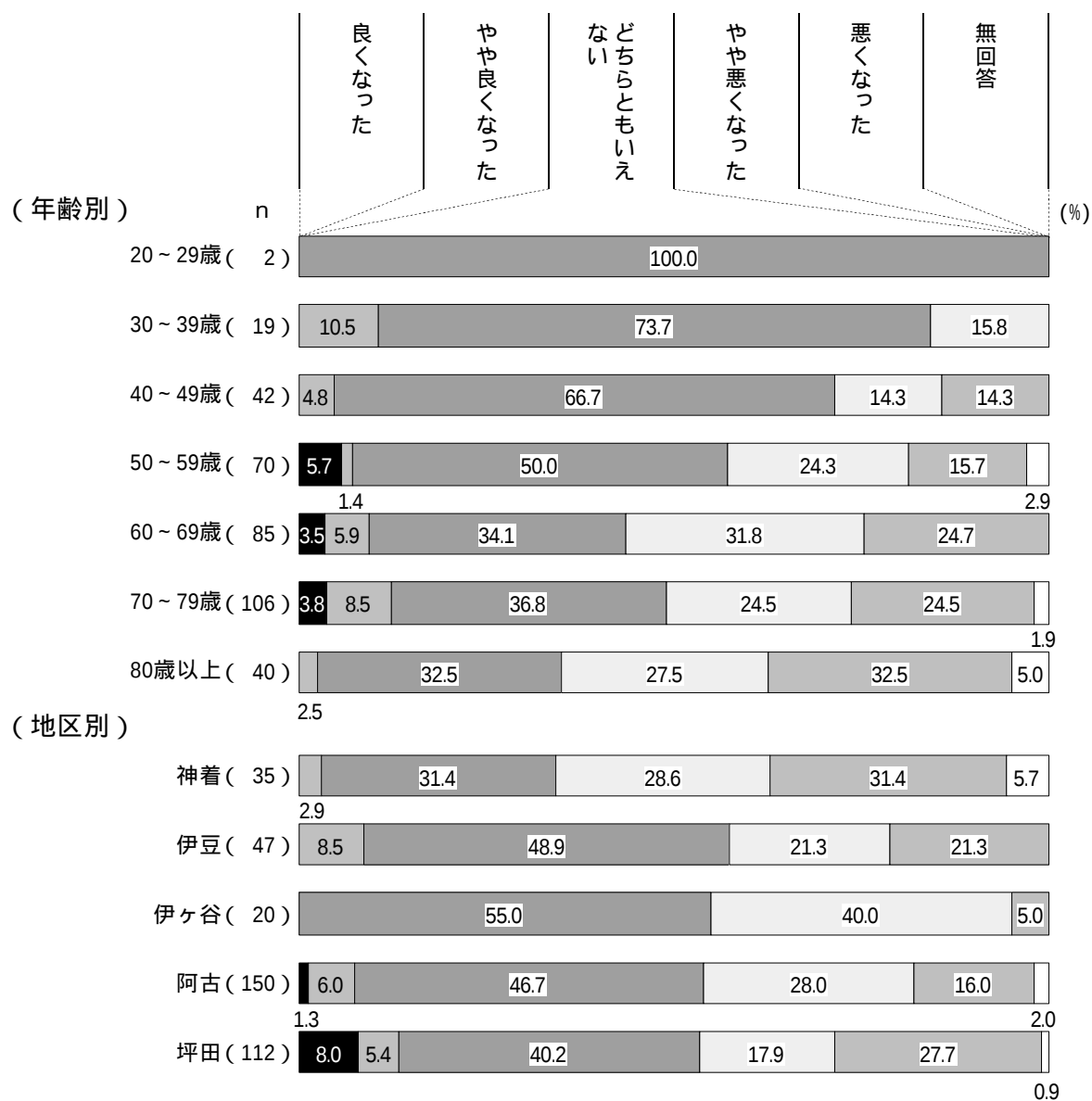
〔隣近所との人間関係〕(25.3% / 5.5%)

〔島の経済活動〕(1.6% / 59.3%)

これをみると、自分の健康面や精神面では『悪くなった(計)』が高く、家族と隣近所との人間関係では『良くなった(計)』が上回っている。また、島の経済活動では『悪くなった(計)』がほぼ6割となっている。

【年齢別 / 地区別 (帰島後)】

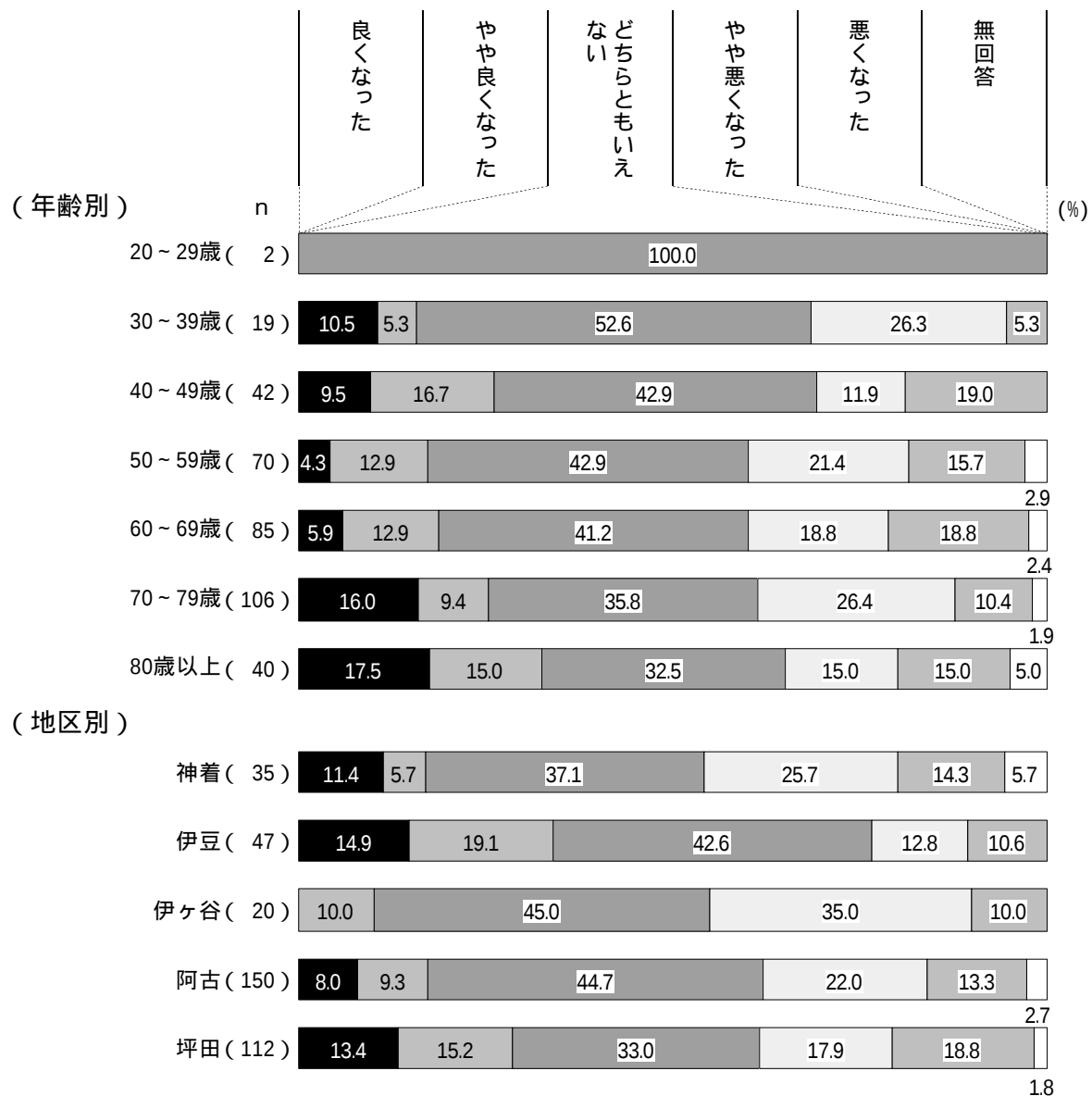
a) 身体の健康面



調査回答者の年齢別にみると、全般的に年代が高くなるほど「悪くなった (計)」が高くなっており、80歳以上では60.0%と6割を占める。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「悪くなった (計)」が神着地区で60.0%と6割を占め、他の地区より比較的高くなっている。

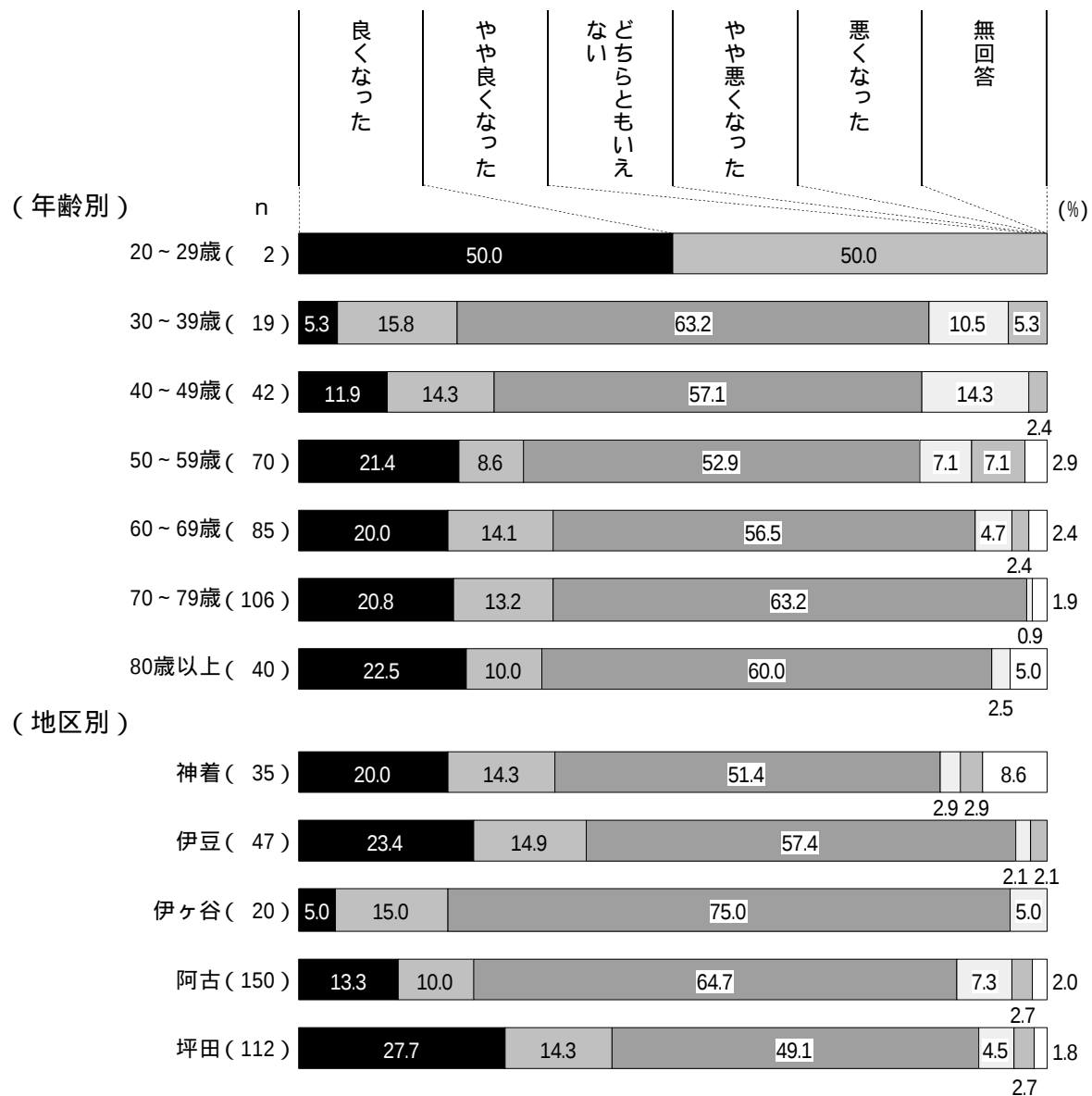
b)気持ちなど精神面



調査回答者の年齢別にみると、全体の傾向にほぼ準じているが、「良くなった(計)」が80歳以上で32.5%、70～79歳で25.4%と高年代層でわずかながら高くなっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「良くなった(計)」が伊豆地区で34.0%と3割台半ばを占め、坪田地区も28.6%と3割弱となっている。一方、「悪くなった(計)」は伊ヶ谷地区で45.0%と最も高く4割台半ばである。

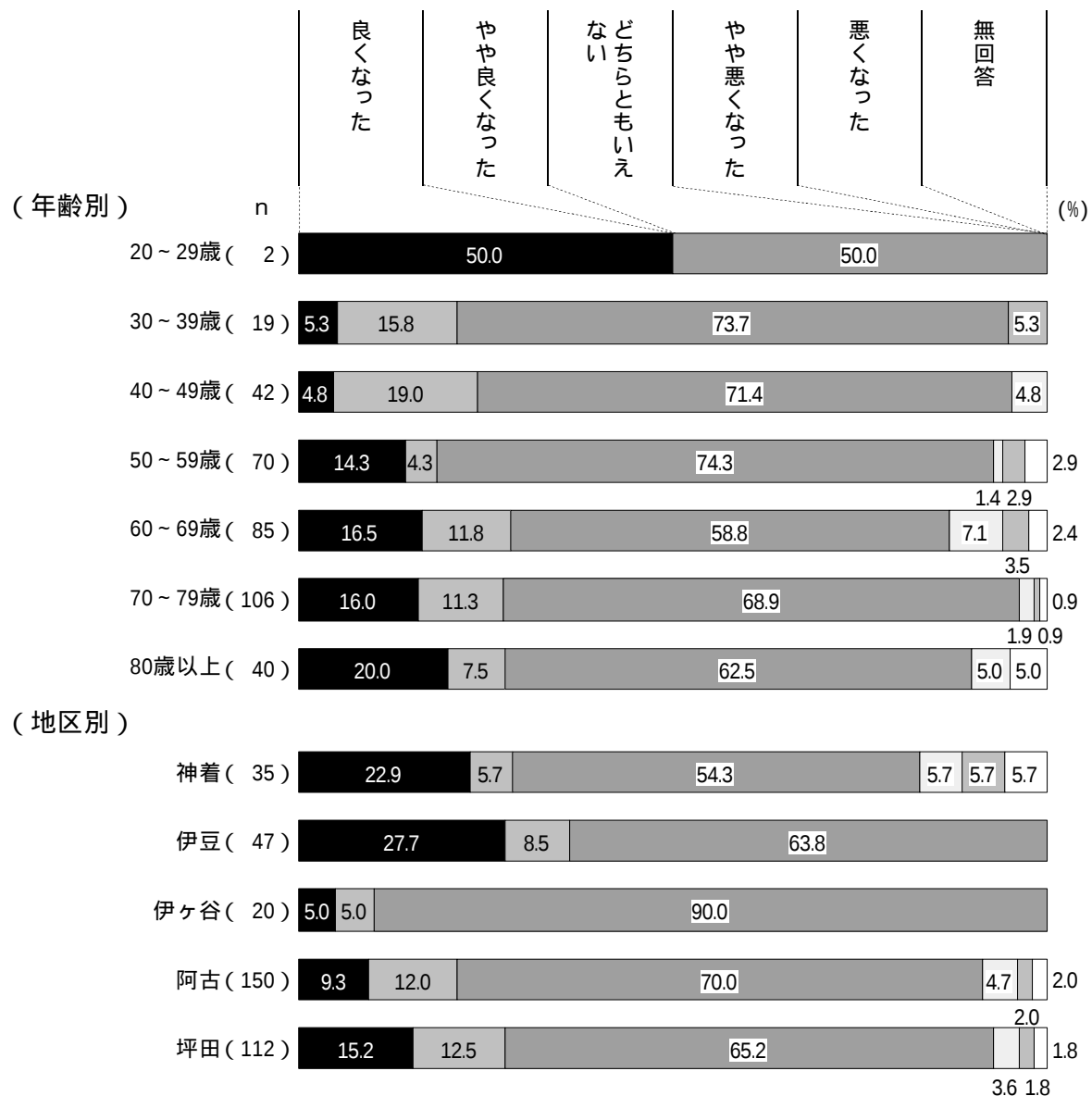
c) 家族との人間関係



調査回答者の年齢別にみると、全体の傾向にほぼ準じているが、悪くなった(計)が30～39歳(15.8%)、40～49歳(16.7%)、50～59歳(14.2%)で1割台半ばとなっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、良くなった(計)は坪田地区で42.0%と4割を超え最も高く、伊豆地区で4割弱(38.3%)、神着地区で3割台半ば(34.3%)などとなっている。

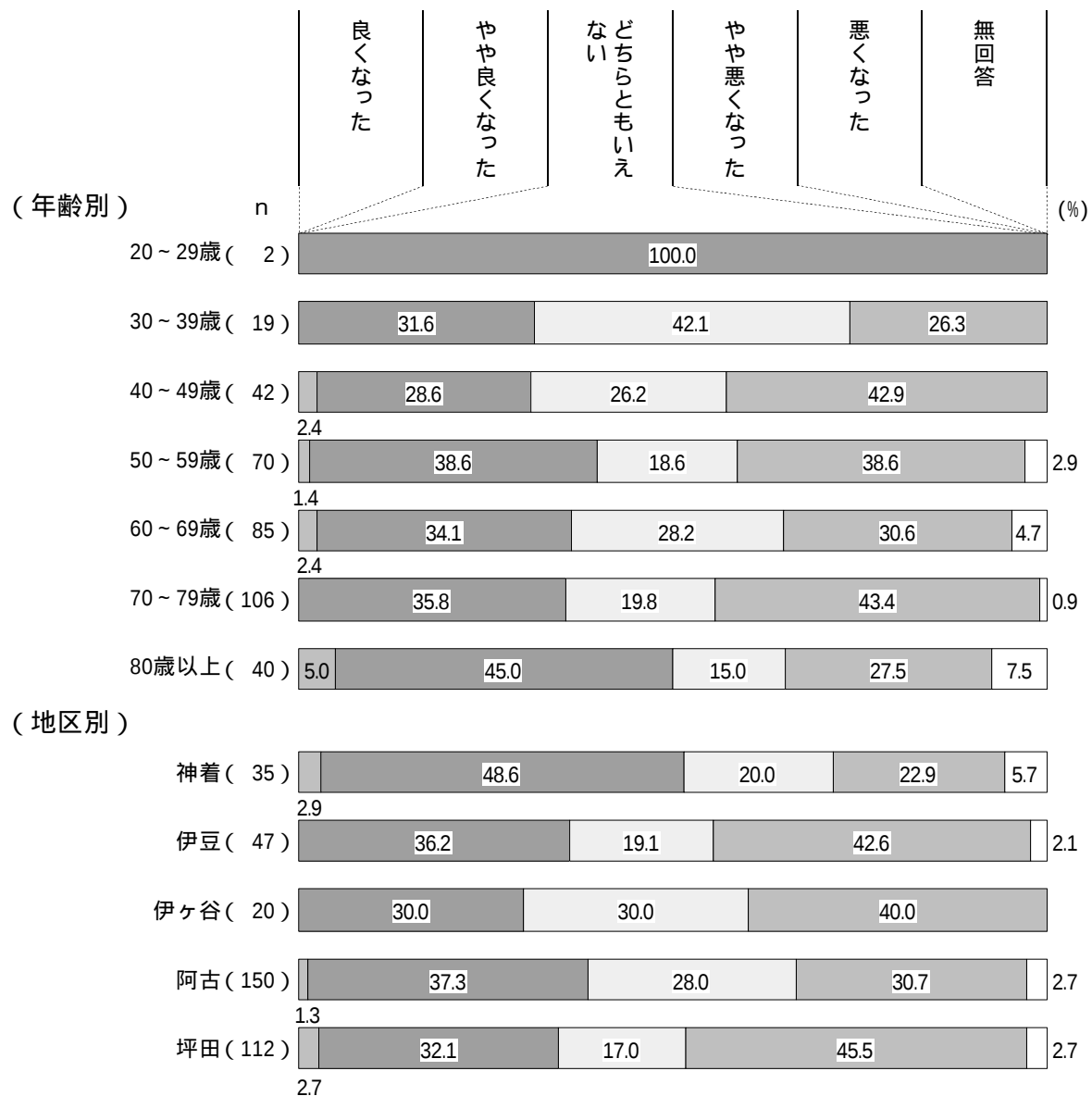
d)隣近所との人間関係



調査回答者の年齢別にみると、年代が高くなるほど「良くなった」が高くなっている。80歳以上で20.0%と2割台に乗り、70～79歳で16.0%、60～69歳で16.5%と1割台半ばとなっている。

調査回答者が帰島後に居住している地区別にみると、「良くなった(計)」は伊豆地区が36.2%で3割台半ばと最も高くなっている。なお、伊ヶ谷地区では「どちらともいえない」が90.0%に上っている。

e)島の経済活動



調査回答者の年齢別にみると、全体の傾向にほぼ準じているが、悪くなった(計)は40～49歳で69.1%、30～39歳で68.4%と7割弱を占めている。

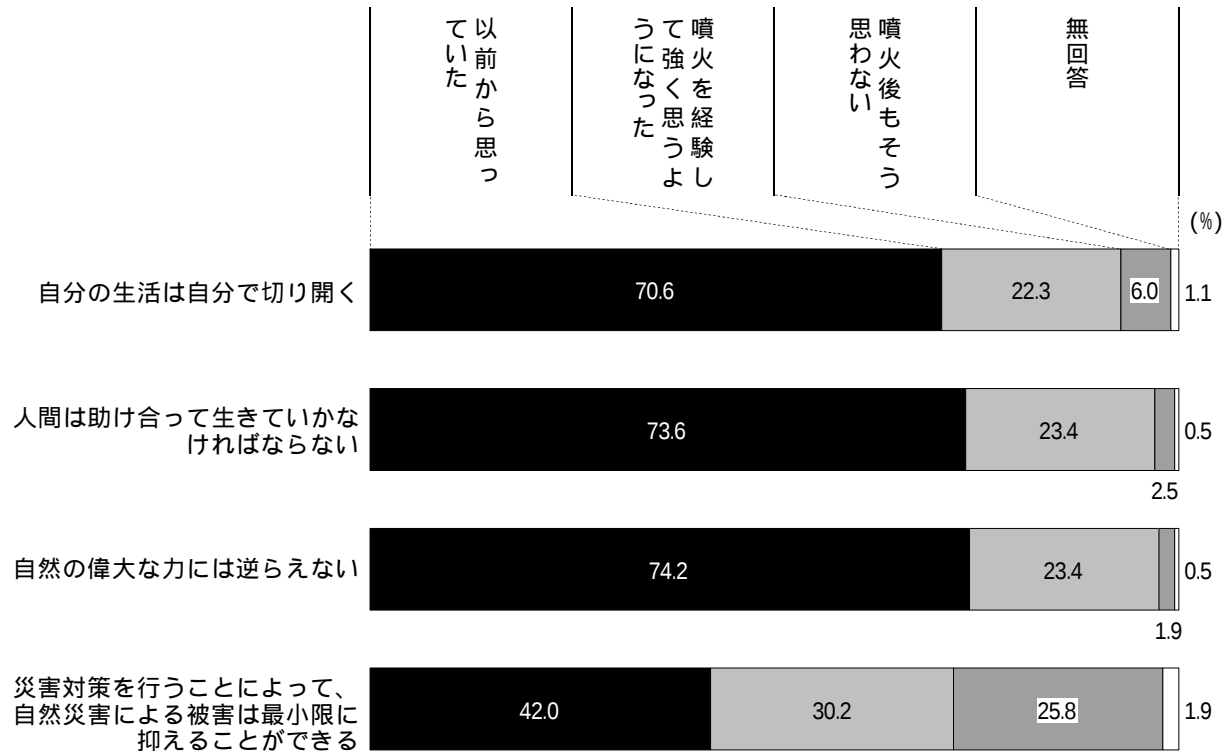
調査回答者が帰島後に居住している地区別でも、全体の傾向にほぼ準じているが、悪くなった(計)は伊ヶ谷地区で70.0%と7割台に乗って最も高くなっている。

(2) 噴火前との考え方の変化

変化が大きいのは、災害対策によって被害は最小限に」で3割

問24 あなたは、次のような ~ の考え方について、噴火前と後では考え方に変化がありましたか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

n = 364



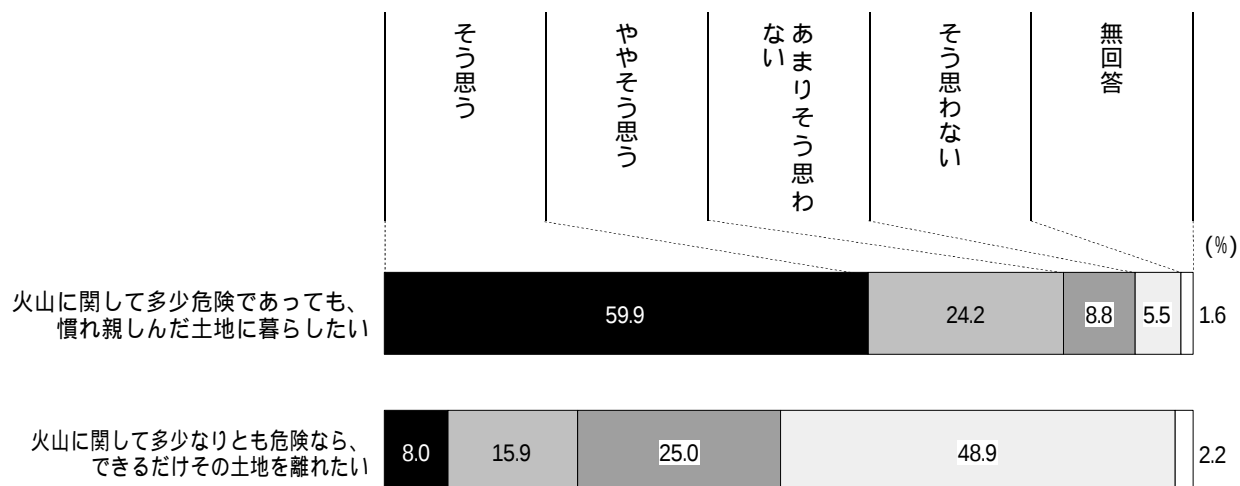
4つの考え方について、噴火前と後の変化を比較すると、「噴火を経験して強く思うようになった」との回答は、「災害対策を行うことによって、自然災害による被害は最小限に抑えることができる」が3割で最も高く、その他の3つについても2割を超えている。ただ、「以前から思っていた」との回答はすべての考え方について最も高く、特に「自分の生活は自分で切り開く」と「人間は助け合って生きていかなければならない」、「自然の偉大な力に逆らえない」の3つは7割を超えている。

(3) 土地の安全性に問題があった場合の対応

多少危険でも慣れ親しんだ土地に「は『そう思う(計)』が8割台半ば

問25 自然災害の面で、土地の安全性に問題があった場合、次のような2つの考え方についてどう思いますか。 ～ それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

n = 364



自然災害の面で土地の安全性に問題があった場合の意識について聞いた。

「火山に関して多少危険であっても、慣れ親しんだ土地に暮らしたい」との考え方については、「そう思う」の回答が59.9%と最も高く6割弱を占め、「ややそう思う」の24.2%と合計すると、「そう思う(計)」が84.1%と8割台半ばとなっている。

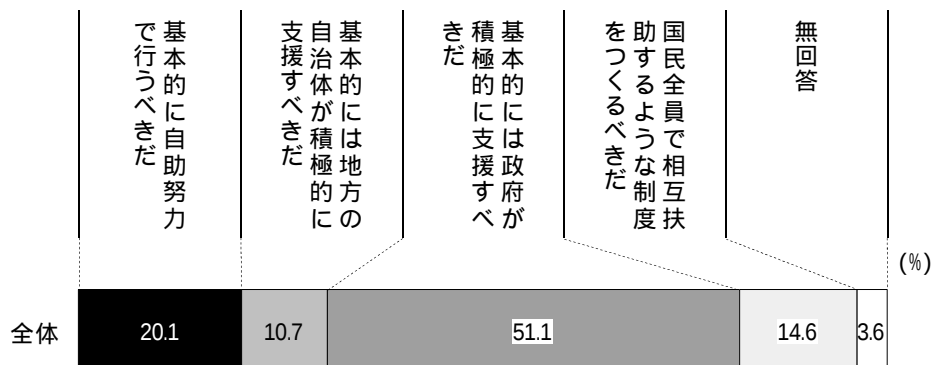
一方、「火山に関して多少なりとも危険なら、できるだけその土地を離れたい」という考え方については、「そう思わない」が48.9%と最も高く、「あまりそう思わない」の25.0%と合計すると、「そう思わない(計)」が73.9%と7割台半ばとなっている。

(4) 自然災害の際の生活再建

基本的には政府が積極的に支援すべきだ」が過半数

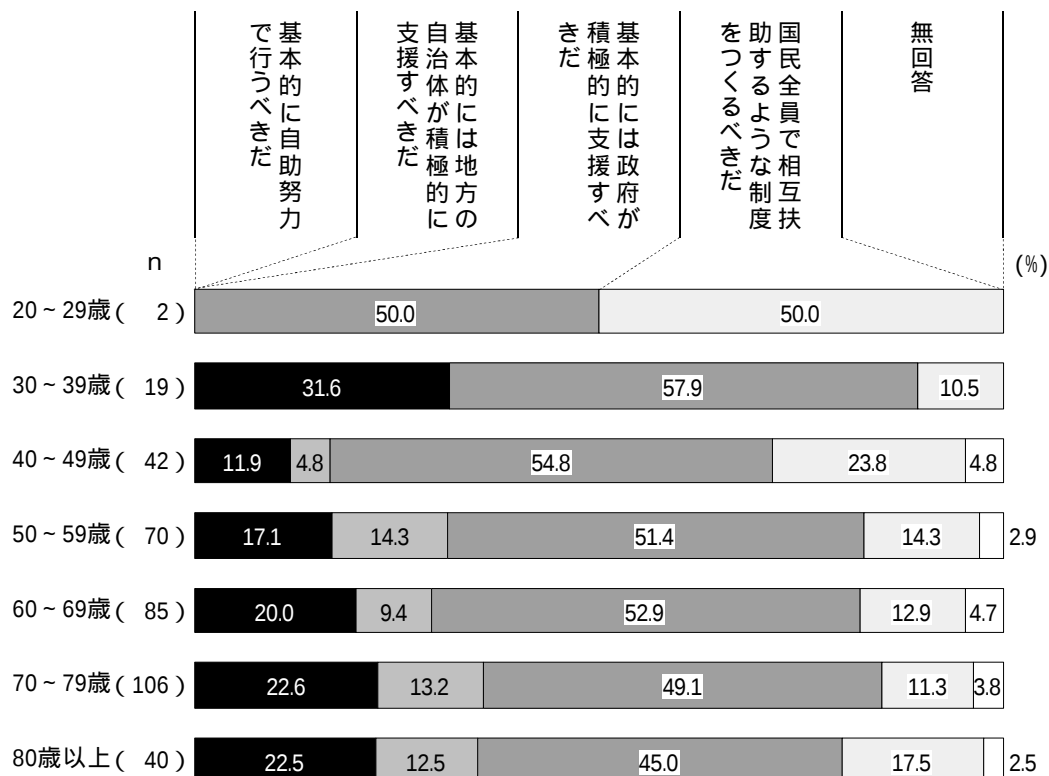
問26 自然災害が起こった場合、どのような形で生活を建て直していきべきだと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 364



自然災害が起こった場合の生活再建については、「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」との回答が51.1%と過半数を占めている。次いで、「基本的に自助努力で行うべきだ」が2割で、「基本的には地方の自治体が積極的に支援すべきだ」が1割となっている。

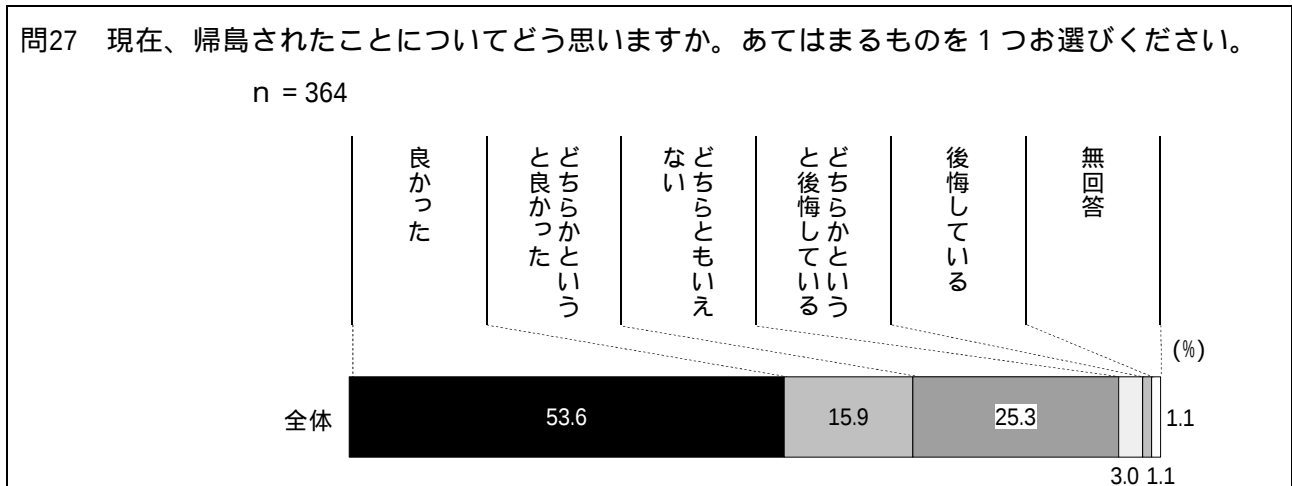
【年齢別】



調査回答者の年齢別にみると、全ての年齢層で「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」が5割程度を占めており、全体の傾向にほぼ準じている。

(5) 帰島してみてもの思い

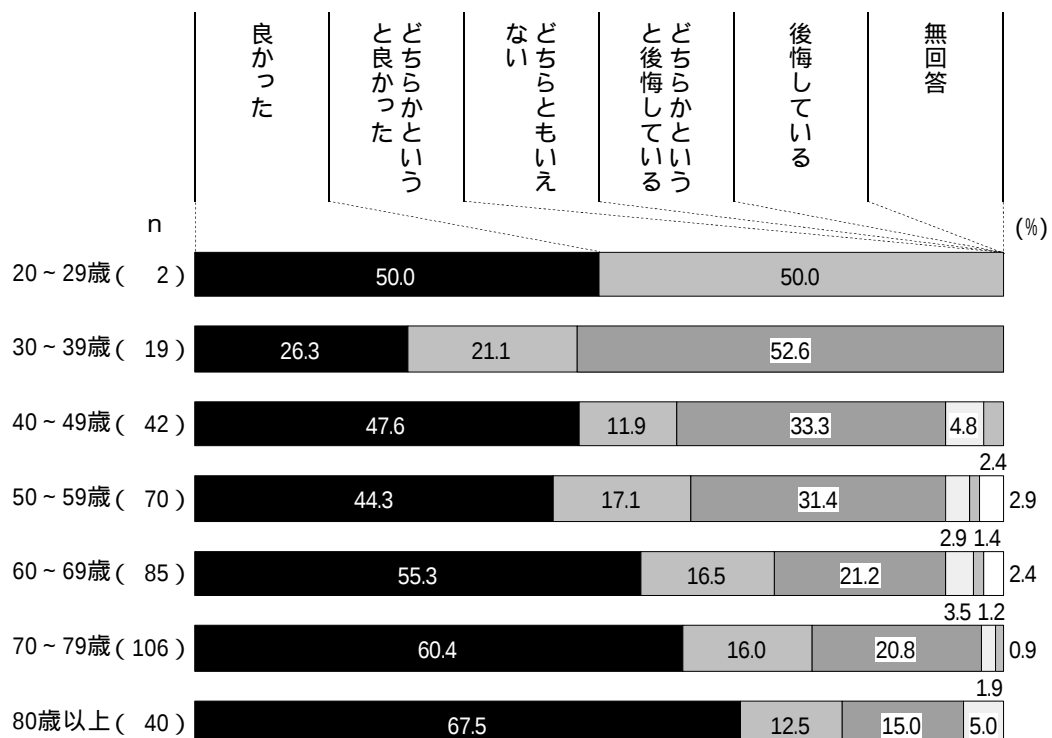
良かった(計)』は7割



帰島したことについて、率直に良かったかどうかを聞いた。

帰島して「良かった」との回答は53.6%と過半数を占め、「どちらかという良かった」の15.9%を合計すると「良かった(計)』は69.5%でほぼ7割となっている。一方、「後悔している」との回答の1.1%と「どちらかといえは後悔している」の3.0%を合わせた「後悔している(計)』は4.1%である。

【年齢別】

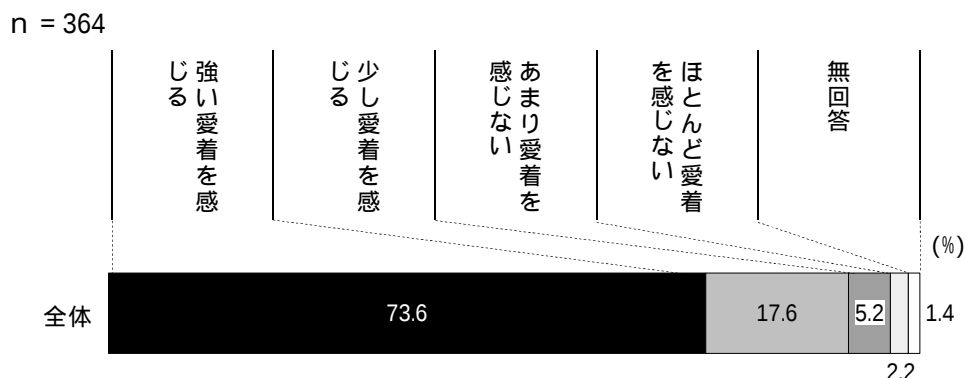


調査回答者の年齢別にみると、年代が高くなるほど「良かった」が高くなっており、80歳以上で67.5%と3人に2人を占めている。一方、「どちらともいえない」は年代が高くなるほど低くなっている。

(6)三宅島への愛着

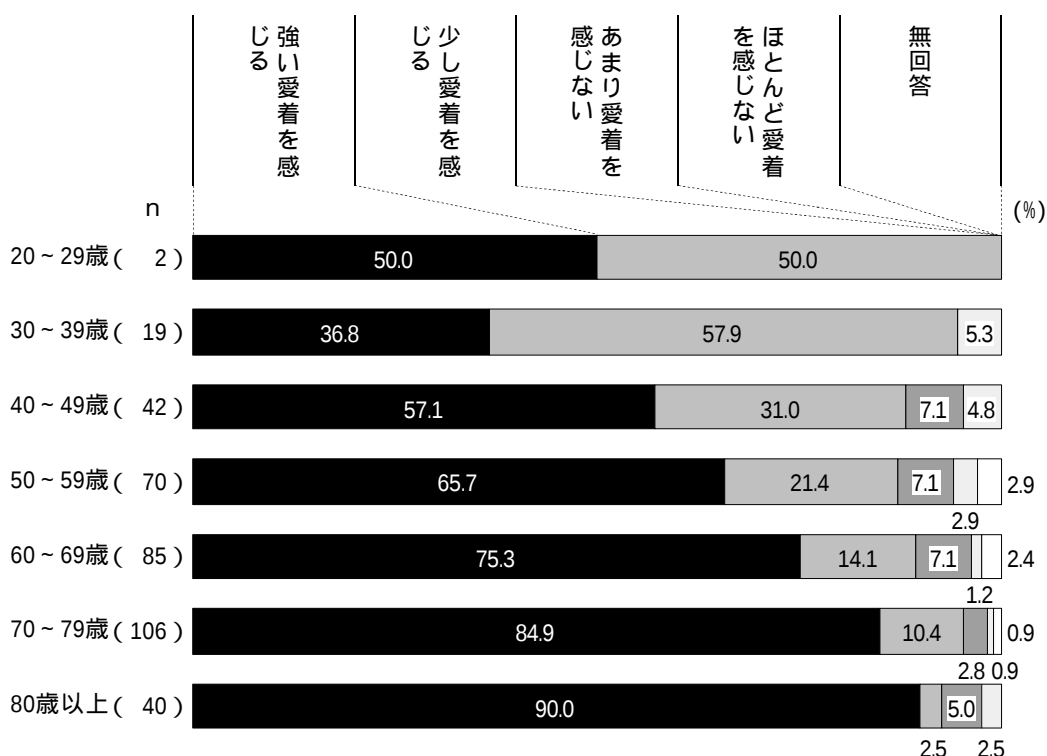
『愛着を感じる(計)』は9割

問28 あなたは三宅島に対して、どのような気持ちをお持ちですか。あてはまるものを1つお選びください。



三宅島への愛着については、『強い愛着を感じる』との回答が73.6%で最も高く、およそ4人に3人を占めている。これに『少し愛着を感じる』の17.6%を合計すると、『愛着を感じる(計)』人は91.2%となり、9割を超える。

【年齢別】



調査回答者の年齢別にみると、年代が高くなるほど『強い愛着を感じる』が高くなっており、80歳以上では90.0%と9割台に乗っている。一方、30～39歳では36.8%と3割台半ばにとどまっている。

(7)復興への意見・要望(自由回答)

問29 今後の三宅村の復興について、ご意見やご要望がありましたら、どんなことでも結構ですの
でお聞かせください。

< 神着地区 男性 >

- 三宅島を噴火以前の状況に戻することは不可能です。どの程度までの生活状況にしたいのが決めることと決めた状況にどのようにもっていくか。また、そうできるのか。それが復興だと思います。(神着 / 男性 / 30歳代)
- 老人が多いので、福祉の充実、観光客の誘致、農林水産業の補助。(神着 / 男性 / 40歳代)
- 三宅島は何度も噴火を繰り返してきました。復興事業では自然を壊さないでほしい。(神着 / 男性 / 50歳代)
- 三宅村および農漁業などの経済団体のレベルアップが不可欠。現状はカラ回りしていると認識しています。島民のための組織なのか、組織を維持するための島民なのかをはきちがえている傾向が復興を阻害している。(神着 / 男性 / 50歳代)
- 森林や畑の整備。(神着 / 男性 / 60歳代)
- 避難先までの行き先。徒歩ではむずかしい。(神着 / 男性 / 60歳代)
- 農地の復旧を急ぐべきだ。(神着 / 男性 / 70歳代)
- 元には戻らないのだから、復興ではなく新しい三宅島を作っていく。(神着 / 男性 / 70歳代)
- 農地の砂や灰を1日も早く取り除いてほしい。個人では除去できないようになっている。(神着 / 男性 / 70歳代)

< 神着地区 女性 >

- 最悪の場合は自給自足の生活になることも考えていましたが、多くの方の支援を受けながら島へ帰り生活が始まり多少の不便はありますが、生活を続けていけるなら歳をとっても住み続けようと考えています。復興も今できることを一歩ずつ進めていくしかないと思います。(神着 / 女性 / 50歳代)
- 高齢者が多いので、隅々まで目の届く行政を取ってほしい。1日も早く島民が笑顔で過ごせるようになってほしい。(神着 / 女性 / 60歳代)
- 島には老人が多く、若い人の帰島も期待できないので、特養も早く作ってほしい。それがないと東京から帰れない老人もたくさんいる。(神着 / 女性 / 60歳代)
- みんなで暇をつぶせる場所を作ってほしい。仕事場だけではなく、住民の余暇の過ごし方も考えてほしい。(神着 / 女性 / 60歳代)
- 総合的な支援を要望します。(神着 / 女性 / 70歳代)
- みんなが一生懸命にやってくれるので、自分のできることは自分でやっていきたい。(神着 / 女性 / 70歳代)
- 年寄りがいっぱいいるので、1人で住む人が多いから、そこを忘れないでほしい。空港の再建をいち早くお願いしたい。(神着 / 女性 / 70歳代)
- 東京の病院並みの手術のできる医療所を作ってほしい。(神着 / 女性 / 70歳代)
- 避難場所を地区で1つ作ってもらいたい。(神着 / 女性 / 70歳代)
- 特養を早く作ってほしい。弱い者の立場に立って考えてほしい。避難している時、もっと三宅の人間をまとめて住まわせてほしかった。特養がないがために帰れない老人がいる。道路などの整備をしても使うのは住民だ。早く帰す体制を作ってほしい。(神着 / 女性 / 70歳代)

- 帰島してよかったと思います。どのような形で生活を立て直していくべきだと思います。(紳着 / 女性 / 70歳代)
- 村役場行政の更なるリーダーシップによって、復興作業をすすめてほしい。(紳着 / 女性 / 80歳以上)
- 畑がいっぱいあるので、自分の食べる分くらいは作りたいと思うが、灰が邪魔で作業ができない。灰を取り除いてもらいたい。(紳着 / 女性 / 80歳以上)

<伊豆地区 男性>

- 観光の島を目指すのなら、それなりの受け入れ体制や施設の充実を図るべきだ。例えば、公衆トイレの補修など。それにゴミ問題。(伊豆 / 男性 / 40歳代)
- 歯科の専門医をもっと。政府の対応を早めに。(伊豆 / 男性 / 60歳代)
- 今、船を頼りにしている。収入に応じて引越し費用が出なかった。飛行場を1日も早く復興させてもらいたい。若い人達はいろいろ上京することが多いので。(伊豆 / 男性 / 60歳代)
- もっと行政は早く動くべきだ。(伊豆 / 男性 / 70歳代)
- 農地を整備してほしい。(伊豆 / 男性 / 70歳代)
- 復興の計画が乏しい。方向性がはっきりしていない。村、農協は余っている土地を借りて里芋農業を行うべきだ。現状では産物がなくて若者も行ってしまう。何か新しいことを始めるべき。(伊豆 / 男性 / 70歳代)
- 福祉サービスの充実。(伊豆 / 男性 / 70歳代)
- 高齢者に対する失業対策事業の実施。(伊豆 / 男性 / 80歳以上)
- 村役場に指導力を発揮してもらいたい。(伊豆 / 男性 / 80歳以上)

<伊豆地区 女性>

- 前に進むしかないから、それぞれが頑張るしかない。(伊豆 / 女性 / 40歳代)
- 5月から観光客が来るから、ゴミ問題をなんとかしてほしい。復興の前に街灯を設置するなどの初歩的なことからやってほしい。(伊豆 / 女性 / 40歳代)
- 大きなことは期待していません。身近な所で、例えば店の品物が充実するとか、子どもの数が増えるとか、人並みの生活が出来るようにしてほしい。飛行機が運行してくれるとよい。(伊豆 / 女性 / 40歳代)
- 水道代を安く。飛行場を使えるように。お年寄りに対する緊急時の対策。(伊豆 / 女性 / 60歳代)
- 放送が多くて嫌なので、安心して生活できるようになりたい。自分の生活が軌道に乗らなくて不安。相談できる人、誰かそばにいてほしい。収入が少ない。もっと収入がほしい。家だけでも安全な環境にしたい。(伊豆 / 女性 / 60歳代)
- お店がないのが不安。農協がほしい。高齢者が多いのに不便。飛行機を早く飛ばしてほしい。(伊豆 / 女性 / 60歳代)
- 水の安全性。水の味が噴火してからおかしくなった。(伊豆 / 女性 / 60歳代)
- 病院に行くため、バスの便数を増やしてほしい。(伊豆 / 女性 / 60歳代)
- 福祉の充実。(伊豆 / 女性 / 70歳代)
- 畑を早く作ってほしい。店を作ってほしい。町中に散乱するゴミ対策。(伊豆 / 女性 / 70歳代)
- 診療所の整備。バスの本数の増加。郵便局、農協の持続。なくなるかもしれないというわさ。(伊豆 / 女性 / 70歳代)
- 修理の支援。バスの本数の増加。郵便局、農協の設置。(伊豆 / 女性 / 70歳代)
- 行政にしっかりしてほしい。受信機をもらえた人ともらえない人がいたので、情報がみんなにいきわたっていない。(伊豆 / 女性 / 70歳代)
- バスを増やしてほしい。(伊豆 / 女性 / 70歳代)

- バスの便を増やす。(伊豆 / 女性 / 70歳代)
- バスなど便を増やす。各部落にコンビニなどや公共施設を置く。農協などの店の復活。(伊豆 / 女性 / 80歳以上)
- バスの便を増やしてほしい。店や病院や農協や郵便局を近くに各部落を作してほしい。(伊豆 / 女性 / 80歳以上)

< 伊ヶ谷地区 男性 >

- 飛行機、航空機の確保を急いでほしい。(伊ヶ谷 / 男性 / 30歳代)
- 予算の都合もあるだろうが、被害を受けたときに出たゴミの回収が遅い。回収すれば道路がすっきりする。役場は行動する気があるのか。(伊ヶ谷 / 男性 / 70歳代)
- 帰属する2000名の内訳は65歳以上1000人、65歳以上未満1000人といわれているから、働く人たちの場所の確保。若い人が戻ってくるための工夫。災害を大きく受けた地区への支援と補助を強める。(伊ヶ谷 / 男性 / 70歳代)
- 食糧が調達しにくい、家の前まで食糧を売りに来てくれるサービスなど。砂防ダムなどのハード面だけではなく、ソフト面の整備をしてほしい。買物に行くための乗合タクシーなど。(伊ヶ谷 / 男性 / 70歳代)
- 現在は住むには環境が悪い。(伊ヶ谷 / 男性 / 80歳以上)
- 行政が部落をまとめる。1カ所にまとめてほしい。商店も成り立たない。(伊ヶ谷 / 男性 / 80歳以上)

• < 伊ヶ谷地区 女性 >

- 安全対策、ガスに対する帰島前の説明を聞くと、対応が追いついていないように思う。(伊ヶ谷 / 女性 / 40歳代)
- 帰島の報告を阿古で行うが遠い。出張所を早く復活させてほしい。バスが不便。(伊ヶ谷 / 女性 / 50歳代)
- 帰島前の復興への取り組みを忘れず生かしたい。噴火の経験を今後に生かしたい。現実的には難しいと思うが、今だからこそ図書館などの文化的なものが必要。精神面への心の栄養が必要である。(伊ヶ谷 / 女性 / 60歳代)
- 商店がない。坂がない。道路整備。(伊ヶ谷 / 女性 / 70歳代)
- 若い方に頑張ってほしい。(伊ヶ谷 / 女性 / 70歳代)
- 伊ヶ谷には商店がないため、日頃の買物や病院に行くためのバスの便を増やしてほしい。家の前まで売りに来てくれるサービスなど。(伊ヶ谷 / 女性 / 70歳代)
- 復興は進んでいるが、食料を調達しにくい。郵便局を早く開いてほしい。食料の移動販売サービスの実施してほしい。(伊ヶ谷 / 女性 / 70歳代)

< 阿古地区 男性 >

- 空港を再開してもらいたい。(阿古 / 男性 / 30歳代)
- 色々な支援策の実施を待つのではなく、自分たちで出来ることは手をつける。支援事業の予定があるからもう少し待った方がよいという話を聞くと、復興としては遅くなるだけ。また、支援事業は被災者側に選択権の布を持たせてほしい。引越事業のように業者が事業費をあてにして、通常より高い料金を言ってくるのはおかしいと思う。(阿古 / 男性 / 30歳代)
- 物価が高い。(阿古 / 男性 / 40歳代)
- 基本的には個人が各自で復興に向けて努力すべきだが限界があるので、行政が手助けをするべきだと思う。また、住民はしばらくの間はみんなで協力しあって復興をしていくべきだと思う。(阿古 / 男性 / 40歳代)

- 空港の再建を1も早く願っています。(阿古 / 男性 / 40歳代)
- 街灯の整備、住宅の整備、水洗の整備。(阿古 / 男性 / 40歳代)
- 義援金を少なくともよいので出してほしい。(阿古 / 男性 / 40歳代)
- 保険の現制度が許せない。リピーターを確保するため、観光に来ていただいた方を離さないような努力を、特に観光の方にみんなでして行くべき。(阿古 / 男性 / 40歳代)
- 観光で収入を得るシステムづくりをして、客を取り込むべく、皆の努力が必要。何をすべきか意見を出し合うことが大切。(阿古 / 男性 / 40歳代)
- 一時帰島の人数制限を増やしてほしかった。若い人が帰ってくる政策。不要な砂防ダムや必要以上の道路整備にお金を使わず、島民の生活の向上に反映できる形で、お金を使ってほしい。(阿古 / 男性 / 50歳代)
- 空港の再開、医療関係の再開を早めに。(阿古 / 男性 / 50歳代)
- 自治体と住民が互いに意思疎通を図りながら、復興に向かうべきであると思う。出来ることは何かを常に考え、一步一步歩むべきだ。行動に移して具体的なことを発案すべきである。(阿古 / 男性 / 50歳代)
- 若い世代の問題、避難で島離れが進んでしまった。地場産業が育っていない。火山ガスの問題がなくなる限り、三宅の復興は厳しい。天草量も厳しい。自然相手に経済復興するのは厳しいものがある。有能な人材を島に受け入れる活動を三宅村役場はするべきだ。住民票を持っている高齢の人々だけの力では足りない。(阿古 / 男性 / 50歳代)
- 役場の姿勢、考え方がよくわからない。書類の不備がひどい。帰島したいと思ってる人に対する誠意がない。(阿古 / 男性 / 50歳代)
- 医療面で歯医者やヘルパーの補充。空港の整備。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 病院、福祉、観光などの公共設備を充実させてほしい。新しい運営方法を用いる。交通手段の充実。民宿の充実。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 若い者が施設や島に住むための楽しみづくり。例えば、施設など休日の過ごし方。公共施設を1カ所にまとめる。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 復興の完成が安心をもたらす。安心して暮らせる環境を。つまりはいち早くの復興を。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 地域産業の振興を第一に考え、施策すべき。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- あまり期待をしていない。行政の機能が整っていない。役場に行っても厳しくした態度がなく、はっきりイエスという返事が返ってこない。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 飛行場の整備。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 村の復興には人口問題が大きく左右される。噴火前の人口にいかにも近づくような産業の発展に努力しなければならない。島へ戻った人達が、定着するよう魅力ある島づくりをする必要。経済面においては帰島して物価の高いのが目立つ。品物によっては倍もするので、安くなるような対策をしてほしい。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 帰島してから復興状況の広報が少なくなった。帰島前に比べ、帰島してから三宅島全体の復興状況の広報が少なくなった。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 過疎化、高齢化が心配。仕事があればよい。(阿古 / 男性 / 60歳代)
- 島復興のために、観光を盛り上げる。しかし、そのためには農業、水産業の復興が必要不可欠。農業、水産業の復興があって初めて観光の盛り上がりを実現する。農協、漁業がバラバラではダメ。あじさいの植物园、バードアイランド、温泉などの観光の目玉を作るべき。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 観光と福祉に全力をあげてほしい。(阿古 / 男性 / 70歳代)

- 雇用体制をしっかりとしてほしい。大きな観光事業をしてほしい。引越し業者の選択に問題がある。40万円もする。日通やヤマトをおしつけるほど、思いやりのない手配だ。別の方法が安いんだから、もっと思いやりをもって手配、計画しろ。ゆうパックなら5分の1。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 早く空港を整備してほしい。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 現状復興活動を続けていただきたい。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- かやの削除。火事への不安、観光客に対する見栄え。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 離島という状況を考慮してほしい。人口が高齢者の中心という状況を考慮してほしい。国立公園の自然環境を考慮してほしい。交通手段を配慮してほしい。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 産業振興。まず、収入の面を何とかしてもらいたい。生活しやすいよう収入を増やし、人口を増やせるようにしてほしい。緑化。壊れた自然の回復。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 観光の整備と確立。島民への生活保障。雇用の確立。農水産業の援助。各地帯のコミュニティ。うずもれた伝統収集から公開へ、火山博物館および伝統館の設立。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 災害の大きさにもよることで、なんともいえない。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 各部落の協働、阿古は明日葉の生産を頑張る。神着は天草などの役割分担をみんなで協力する村づくり。農産物、海産物の生産が一部の人間だけではなく、村全体で行い盛り上げる。もっと団結心を持たねばならない。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 若い人が1人でも多くほしい。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 復興は自力でもやるが、行政の援助がほしい。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 海外の交際に税金を使うなら、国内災害に使うべきだ。住民が安心して住める対策を第一に考えてほしい。まず、貸し付けを簡素にして住民を補助していくべきだ。その上で、収入から返済を求めるべきである。(阿古 / 男性 / 70歳代)
- 健康上の問題、医療機関の充実。診療所の機能復帰。(阿古 / 男性 / 80歳以上)
- 若い人達のやることに合わせていく。(阿古 / 男性 / 80歳以上)

< 阿古地区 女性 >

- 医療と子どもの教育の実現。船1便は少なすぎなので、便の数の増加。活性化の期待。(阿古 / 女性 / 30歳代)
- 病院が遠い。避難場所の詳しいアナウンスがほしい。バスの便数を増やしてほしい。(阿古 / 女性 / 30歳代)
- 小さい子どもがいつでも安全に遊べる支援センターがあるとよいのですが、島はもっと子どものことを考えてほしい。これからもっと子どもたちが帰島できるよう復興してください。(阿古 / 女性 / 30歳代)
- 観光にもっと力を入れてほしい。村はもっとそれに協力してほしい。(阿古 / 女性 / 40歳代)
- マイナス面をプラスに変える発想を。住民のアイデアを年齢問わずどんどん出してもらおう。(阿古 / 女性 / 40歳代)
- 空港整備を望みます。急病の時はヘリ搬送という方法はとれても、急用時には通用しません。まして、高齢者にとっても船旅は精神面で辛いと思うので。(阿古 / 女性 / 40歳代)
- 高濃度地区の住民の方へのきめ細かい対応と支援。農業、漁業、観光産業や商店の再建の支援や援助する人員。自然環境の悪化を食い止めるなどの対策が出来るとよいと感じます。(阿古 / 女性 / 40歳代)
- お年寄りや弱者の方を中心にした支援を充実させてほしい。そのことで家族がそろって帰島できる。空港がほしい。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 観光の温泉を復活してほしい。自分達も行けるから。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 村と住民とのコミュニケーションの充実。(阿古 / 女性 / 50歳代)

- 島内はよいから、東京から足の便をよくしてほしい。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- いろいろと免除をしてほしい。品物が三宅では高い。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 観光客がたくさん来て、三宅島の経済がよくなるようにしてほしい。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 片付けなど村役場の対応はもっとスムーズに。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 生活水準が噴火以前より悪くなったので、早く元通りになってもらいたい。特に生活の足である空港を使用できるようにしてもらいたい。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 医療の整備が必要だと思う。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 都会の生活は精神面に参る。それにくらべれば、火山の負担にも耐えられる。都民として村民として感謝している。(阿古 / 女性 / 50歳代)
- 国、東京、村は自然災害に対して、もっと協力していくべきだと思う。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- 早く農業活動がしたい。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- 野菜がとれず、畑、物の物価高すぎ。生活しやすい環境にしてほしい。医者専門の先生が来てくれれば。医療機関の充実。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- 村長が帰るといだし、承諾書を取った。ガスなど安心して住めない警報が聞こえにくい。国、都、島からの支援が必要。高濃度地区の農業への支援。地産地消のしくみづくり。農、漁、商のリンク。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- 地域が助け合うことが大切。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- 子どもたちの環境が壊れたので、地域の社会生活が以前より出来なくなっていること。警報が精神的なケアに対し、子ども達にどのように影響しているか心配。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- 高濃度地区で住宅に帰れない人に村営住宅などに外れているケースがまだいるので、その人達の住宅を何とかすべき。中小企業の支援。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- いまの所考えても気持ちが進まない。何をしてもいいか努力はしますが、行政もより一歩努力してほしい。(阿古 / 女性 / 60歳代)
- 団結して復興を。みんなで一緒に三宅島を盛り上げる。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- 固定資産税など税金に対する補助を充実させてほしい。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- 役所に行った時相談に行ったら、窓口で親切にしてもらいたい。接する時の態度が悪い。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- 今まで、なじみの自分が経営している民宿のお客さんがいる恩を返したい。そういうことをするための金銭的な援助がほしい。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- まず、火山ガスの対策をもっとしてほしい。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- 木を切ってコンクリートで固めるような復興は必要ない。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- もう少し観光に力を入れてほしい。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- 老人に対する支援。(阿古 / 女性 / 70歳代)
- 診療所のバス停を降りてから、診療所までが遠く、足が悪いなど高齢者には負担がかかる。バスに構内に入ってほしい。(阿古 / 女性 / 80歳以上)
- 医療機関の充実。環境の整備。病院まで遠すぎる。(阿古 / 女性 / 80歳以上)
- <坪田地区 男性>
- お店がないのが、困る。何とかしてほしい。(坪田 / 男性 / 30歳代)
- 貨物の輸送の滞りを何とかしてほしい。交通面の整備を早急に安全と生活を同レベルで考えていくべき。生活を取り戻すための支援をしてほしい。役場の対応が遅すぎる。(坪田 / 男性 / 40歳代)
- 現在の復興に感謝し、喜んでいる。帰島させてくれてありがとう。(坪田 / 男性 / 40歳代)
- 緑化活動の推進。(坪田 / 男性 / 40歳代)

- みんなが潤うような復興にしてほしい。緑の島に戻したい。(坪田 / 男性 / 50歳代)
- 若い力を取り入れる。国が施設をつくる必要がある。(坪田 / 男性 / 50歳代)
- 立ち入り禁止区域に住んでいた住民に対する援助、補助を充実させてほしい。特に住宅面への補助、コミュニティの再生に対する支援は絶対に必要だと思う。公共事業をさらに増やして、雇用の増加につなげてほしい。(坪田 / 男性 / 50歳代)
- 一世帯に1つ脱硫装置を置く。観光のために掃除、トイレの配置などすべきだ。(坪田 / 男性 / 50歳代)
- 山積みの問題がありますが、今後に期待。(坪田 / 男性 / 50歳代)
- 三池の人たちをどうかしてほしい。立て直すにも村が資金を貸したり。三池の人々が住む所がない状況では、三宅に戻るのに戻れない人々が多く出るだろう。(坪田 / 男性 / 50歳代)
- 行政と民間が一体となって、お互いがプラス志向で努力してほしい。知恵を出しあってほしい。(坪田 / 男性 / 60歳代)
- 緑化事業を強力に推進するべきである。ガスに強い木の植林。(坪田 / 男性 / 60歳代)
- 医療設備、空港をきっちりしてほしい。(坪田 / 男性 / 60歳代)
- 毎日のガスの放出に不安である。(坪田 / 男性 / 60歳代)
- 立入禁止区域の住民に対する問題を早急に対処してほしい。高濃度地域住民に対する行政の積極的な支援が必要だと思う。これらの対処なしに復興はないのでは。現在切り捨てられているような気がする。避難先においても住民問題、コミュニティの再生、孤独死問題などについて対処してほしい。(坪田 / 男性 / 60歳代)
- まだ仕事が出来ていないので、就業の支援が必要。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 部落が分かれていることが、島のまとまりを欠いているような気がする。予算が分散して有効に使われていないように思う。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 道路OK。補助の問題、福祉、家の直しなど。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 夜でも安全に避難できるように村道にも街灯を整備してほしい。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 敷地内の砂を早急に取り除いてほしい。要望しているのにまったく動いてくれない。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 葬祭ができる場。水道は飲料水になるかお聞きしている。教育環境の悪化が必要だ。通学時間が長い。ヘルパーがもっといた方が、施設がなくてその方が島に合ってる。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 東京都がいろいろやってくれてありがたい。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 地区ごとの避難をさせてほしかった。住民の集まる所がほしかった。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 帰島前は帰島して畑を耕すという話だったが、帰ってみると畑の耕しは業者一括になった。しかも、それがいつ行われるのかわからない。せっかく帰っても畑ができなければ、食べる野菜も作れず、めどが立たない。どうせなら、帰って来た人に仕事を与えて収入が確保できるようにお金を島内でまわせるようにしてほしい。農協も耕耘機の値引きもしてくれない。本当に復興をしようと思うなら、もっと地元のことを考えた復興をしてほしい。外部の業者に公共事業をするのはもったいない。これから人は減る方なので、もっと生活に合った公共事業を。道路はもう十分。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 脱硫装置が公民館にない。自宅の近くに公民館はあるし、坪田の中心の場所だから、避難先が公民館にできればよい。来月からは観光の島にとラジオで言っていたが、宿の数も80から20に減り、後継者もない。このままではさびれる一方だ。(坪田 / 男性 / 70歳代)
- 役場の職員にしっかりしてもらいたい。(坪田 / 男性 / 80歳以上)
- 若い人が明日葉を作ってくれるようになったらよいのに。(坪田 / 男性 / 80歳以上)

< 坪田地区 女性 >

- 小学校の保護者会に行けない。バスの時間が合わないし、バスだと時間がかかるので酔ってしまう。10年以上、その前に三宅に住んでいたが、噴火の時のみ三宅に住んでいなかった。戻りたくても戻れない状況は同じだったのに、噴火時援助が受けられないのは不公平を感じる。子供がいるので、眼科、耳鼻科などを整えてほしい。安心して暮らせる施設が必要だ。(坪田 / 女性 / 30歳代)
- 村に対して何もありません。何もしてくれませんか、だから私達にああしろこうしろ言わないでほしい。税金も払いますが、村民一律にしてほしい。遊んでてお金をもらっているんじゃないんだから、ガスの中作業して島の人々が住めるようにしたのだから。(坪田 / 女性 / 30歳代)
- 遅れている問題は特にできるだけ早く元通りになることを望んでいます。(坪田 / 女性 / 40歳代)
- 観光も大切だけど、地場産業、人材も費用が大切、確実なものになる。農業には大きな費用がかからないから、農業としていくべきだ。生活そのものは自分たちで産業には支援がほしい。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- 医療の充実を望む。医師の確保。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- お互いがお互いを理解し合い、一つの島というものを作り上げていきたい。一人がではなく、みんなが同じ気持ちを持って進んでよくしていきたい。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- 噴火する前はたくさんの観光客が多く来て、活気があった。今後はどうなる。今はスペースも食材すら取り寄せ。人少なく観光客少ないままだと不安。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- 学校などの災害で使えなくなったものを利用する。村民の意志を生かす。雄山の上にもものをつくらないようにしてほしい。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- 役場の紹介業者で引っ越したら、他と比べて高かった。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- 島民みんなに戻ってきてほしい。みんなで何とかしたら島の復興も望めるのでは。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- 自分の家に住めない。村営住宅に入れるという話だったが、避難中頑張っている場所があるからと入れない。(坪田 / 女性 / 50歳代)
- 農林水産業を主とした復興のためには、まず定着した基盤づくりが必要。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 生活支援、食べていく最低限度の支援は必要。脱硫器ぐらいは、支援してほしい。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 若い人が早く帰島して、お年よりの島にならないようにしていただきたい。若い力がほしい。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 家の修理など。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 商売を含めて噴火前に戻さなければならない。公民館はコミュニケーションの場だから絶対必要。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 大工職人などを島に連れてくるように議員などが進言すべきだと思う。助けてくれる人が必要。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- ふるさとを残すことが一番重要だと思います。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 役場の体制をしっかりと迅速に対応してほしい。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 脱硫装置が近くにほしい。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 国、都の対応の遅さをどうにかしてほしい。役場に対する不信。(坪田 / 女性 / 60歳代)
- 毎晩の放送で悩まれた。警報の鳴らし方をなんとかしてほしい。(坪田 / 女性 / 70歳代)
- やはりふるさとは大切。頑張っている生きていくので、1日も早い復興を。(坪田 / 女性 / 70歳代)
- 1日も早く開墾できるようにしてほしい。(坪田 / 女性 / 70歳代)
- 若い人が帰ってこれるような支援が必要。村おこしみたいなものが必要。(坪田 / 女性 / 70歳代)

- 今後、三宅島を残すために若い力がほしい。(坪田 / 女性 / 70歳代)
- 早急に山の畑を整えて、野菜が作れるようにしてほしい。年寄りでは大きな灰のたまりをならすのは無理。(坪田 / 女性 / 70歳代)
- 一時帰島のたびに少しずつ手を入れておいたので、大きな被害はなかったが、あったならネズミがひどかった。避難生活中は土にさわれないのが寂しかったので、八王子で土地の貸し出しがあり、里芋などを植えて体が動かせる。働くのはとても支えになった。避難中の働ける所、畑や田んぼは大切。しばらくは噴火で観光がよくなると思う (坪田 / 女性 / 70歳代)
- 物価の高騰に対して、何らかの対策、支援をしてほしい。脱硫装置の補助をしてもらえば、安心して暮らせると思う (坪田 / 女性 / 70歳代)
- 農協が坪田にほしい。避難場所も坪田にほしい。(坪田 / 女性 / 70歳代)
- 村長がもっとしっかりする必要がある。(坪田 / 女性 / 70歳代)
- 昔の噴火前のようになればよい。(坪田 / 女性 / 80歳以上)
- 早く役場が1日も早く立ち直ってほしい。(坪田 / 女性 / 80歳以上)
- 夜中は街灯もないため、遠くの避難先まで行くことは老人にはきつい。夜中でも避難できるよう近くに避難場所があるとよい。(坪田 / 女性 / 80歳以上)
- ガス発生時、公民館に避難のバスが来るといい。無線機とか配るだけでなく、取り付けの手伝いもしてほしい。畑の開墾をできるだけ早くしてほしい。電気車椅子が必要。補助金がほしい。(坪田 / 女性 / 80歳以上)
- 飛行機を早く。(坪田 / 女性 / 80歳以上)

付 1 調査票 (単純集計結果)

三宅島帰島住民アンケート調査

実施主体 株式会社 サーベイリサーチセンター
共同研究者 東洋大学社会学部 教授 田中 淳
東京大学大学院情報学環 関谷 直也

調査日	調査員名	SN			
		地区 NO.	ID		
/					

◎ ご自宅についてお伺いします。

問 1 帰宅してご自宅をごらんになられて、被害はどの程度でしたか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|---|----------------------|------|
| 1 | 補修だけではとても住むことができない被害 | 6.9 |
| 2 | 補修すれば住むことができる程度の被害 | 80.8 |
| 3 | 補修するほどの被害ではない | 10.4 |
| 4 | その他 | 1.9 |

▶問 1-1 (問 1 で「1」あるいは「2」とお答えの方にお聞きします)

ご自宅の被害の状況はいかがでしたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- | | | |
|---|--|------|
| 1 | 降灰や泥 ^{こうかい} 流 ^{でいりゅう} で、補修ができないほど家が壊れていた | 4.1 |
| 2 | 敷地内、床下に泥流が堆積していた | 12.5 |
| 3 | 敷地内に大きな石や流木が流れ込んでいた | 1.6 |
| 4 | 泥流は畳や床の上まで堆積していた | 2.8 |
| 5 | ベランダや窓や手すりなど金属製の部分が腐蝕していた | 71.2 |
| 6 | 屋根がこわれていた | 61.8 |
| 7 | シロアリが出始めていた | 33.9 |
| 8 | その他 | 33.5 |
| 9 | 特に目立った被害はなかった | 1.3 |

無回答 0.6

◎ 帰島についてお伺いします。

問2 あなたは、避難生活中、一時帰島をされましたか。あてはまるものを1つお選びください。
また、一時帰島をされた方は、その回数を教えてください。

1 一時帰島をした 94.0 → (平均 6.1) 回 2 一時帰島はしなかった 5.8

無回答 0.3

問3 避難生活で、あなたやご家族はつらい思いをされていたことと存じますが、具体的にどのようなことがございましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 島にいた頃の知人に会う機会が減ったこと 44.0	2 一緒だった家族が別々に暮らしていたこと 20.3
3 海や山が見えなかったこと 37.4	4 住んでいた町に馴染めなかったこと 11.5
5 健康が悪化したこと 35.4	6 島内の家などの様子がわからなかったこと 26.9
7 適当な仕事につけなかったこと 17.6	8 生活の見通しがたたなかったこと 23.4
9 村や島の将来が不安だったこと 47.3	
10 世間から三宅島のことが忘れられていくようで不安だったこと 18.7	
11 食事が口に合わなかったこと 3.0	
12 その他 10.4	13 とくにつらいことはなかった 13.5

無回答 0.5

問4 あなたは、帰島に際して、誰かと相談をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 同居していた家族 50.3	2 別の住居に住んでいた家族 24.2
3 島での友人・知人や親類 14.6	4 役場の人 5.8
5 島で同じ地域にいた消防団や自治会の人 1.1	
6 島での同業者 3.0	
7 避難先（島外）の知人 7.1	8 その他 0.8
9 誰とも相談しなかった 30.5	

問5 あなたが帰島しようと決めた理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 もう危険はないと感じたから 7.7
2 火山ガスに対して、健康上問題がないと判断したから 16.8
3 火山ガスに対する観測・警報体制が整い、緊急時でも避難ができると思うから 22.5
4 自宅への被害が少ないから 31.9
5 島で仕事があるから 36.0
6 島外の生活に馴染めないから 15.4
7 島の復興が期待できると思うから 14.6
8 島外の生活には費用がかかるから 19.5
9 村営住宅や生活物資の提供があるから 2.2
10 家族が揃って住めるから 21.4
11 その他 28.8

無回答 0.3

問6 帰島されてから、あなたは現在、どのようなことに不安を感じますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 自分や家族の健康の悪化 41.8	2 島の人口の減少 49.2
3 観光客の減少 27.2	4 海や山などの自然環境の悪化 40.4
5 帰島していない家族がいること 11.0	6 損傷した自分の家や店舗・民宿の再建 19.8
7 田畑の再建 25.5	8 損傷した勤め先や設備の再建 7.4
9 道路や港など公共施設の損傷 13.7	10 火山ガスの発生 56.9
11 泥流の発生 18.4	12 おやま雄山の再噴火 36.5
13 地域のまとまりがなくなる恐れ 16.8	14 医療体制・設備 47.8
15 子どもの教育環境 15.9	
16 その他 8.8	
17 とくにない 10.7	

問7 火山ガスが発生し警報が発令された場合、あなたは無事に避難できると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

1 無事に避難できる 42.0	2 多分避難できる 39.0	→ 問8へ
3 おそらく避難できないだろう 18.4		

無回答 0.5

→ 問7-1 (問7で「3 おそらく避難できないだろう」とお答えの方にお聞きします)

避難できないだろうと思う理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 家族の中に小さな子供や病人がいるから 29.9
2 付近の道路の状態がよくないから 6.0
3 避難場所が遠いので 40.3
4 どこに避難すればよいかわからないから 19.4
5 防災行政無線がよく聞こえないから 14.9
6 その他 34.3

無回答 1.5

問8 今回帰島されたご家族の構成は次のどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 単身世帯 28.6	2 夫婦のみ 42.9
3 2世代世帯 24.2	4 3世代世帯 3.3
5 その他 0.5	

無回答 0.5

問9 三宅島噴火時のご家族の構成は次のどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 単身世帯 19.8	2 夫婦のみ 42.0
3 2世代世帯 31.3	4 3世代世帯 5.8
5 その他 0.8	

無回答 0.3

問 10 今回帰島されていないご家族はいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。

1 いる 28.6

2 いない 71.4

▶ 問 10－1 （問 10 で「1 いる」とお答えの方にお聞きします）

今回、帰島していないのはどなたですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 配偶者 22.1

2 息子・娘 64.4

3 父・母 20.2

4 息子・娘の配偶者 11.5

5 祖父・祖母 1.9

6 孫 10.6

7 その他 4.8

無回答 1.0

▶ 問 10－2 （問 10 で「1 いる」とお答えの方にお聞きします）

今回帰島していない家族の方が、帰島しなかった理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 今も危険だから 9.6

2 火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから 18.3

3 緊急時に避難ができないから 9.6

4 家屋の損壊がひどいから 4.8

5 島では仕事がないから 18.3

6 学校の問題（子どもの教育や将来を考えて） 33.7

7 東京等での生活に馴染んでいるから 7.7

8 島の復興が望めず、今後の先行きが見えないから 4.8

9 病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから 23.1

10 便利な生活をしたいから 1.9

11 どこに住めるかわからないから 2.9

12 家族全員が揃って住めないから —

13 その他 26.9

14 わからない 1.0

▶ 問 10－3 （問 10 で「1 いる」とお答えの方にお聞きします）

ご家族で今回帰島しなかった方の今後の帰島のご予定はいかがですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1 多少危険はあっても復興の状況が進めば帰島する 1.9

2 危険がなくなれば帰島する 11.5

3 自宅の改修や補修が終われば帰島する 7.7

4 仕事や職場が見込めれば帰島する 14.4

5 農業・漁業ができる環境になれば帰島する —

6 地域のまとまりが元に戻れば帰島する 1.9

7 医療や福祉のサービス環境が整えば帰島する 18.3

8 子どもや孫の学校の区切りがつけば帰島する 11.5

9 帰島はしない（しないだろう） 28.8

10 その他 15.4

11 わからない 9.6

無回答 1.9

◎ 世帯の生計についてお伺いします。

問 11 噴火前の、あなたの世帯の最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|--------------------------------------|----------------|------------|
| 1 農林業 8.8 | 2 漁業・水産加工業 5.2 | 3 建設業 19.0 |
| 4 運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業 4.9 | | |
| 5 観光産業（飲食店、卸・小売、民宿、サービス業） 11.5 | | |
| 6 観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業 9.1 | | |
| 7 公務員 13.5 | 8 その他 1.4 | |
| 9 年金 25.0 | 10 なし 1.1 | |

無回答 0.5

▶ 問 11-1 （問 11 で「1」～「8」とお答えの方にお聞きします）

その就業の形態はどのような形態ですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|--|---------|
| 1 会社・団体・個人などに雇われている（常時雇用されている） 53.6 | |
| 2 会社・団体・個人などに雇われている（アルバイト・パート等の臨時雇用） 6.4 | |
| 3 自営業 39.3 | 4 その他 — |

無回答 0.7

問 12 島外へ避難されていたときの、あなたの世帯の最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|---------------------------------------|----------------|------------|
| 1 農林業 3.0 | 2 漁業・水産加工業 0.8 | 3 建設業 13.5 |
| 4 運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業 4.7 | | |
| 5 観光産業（飲食店、卸・小売、民宿、サービス業） 3.6 | | |
| 6 観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業 11.0 | | |
| 7 公務員 11.5 | 8 その他 3.6 | |
| 9 年金 40.4 | 10 なし 7.1 | |

無回答 0.8

▶ 問 12-1 （問 12 で「1」～「8」とお答えの方にお聞きします）

その就業の形態はどのような形態ですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|---|---------|
| 1 会社・団体・個人などに雇われている（常時雇用されている） 62.2 | |
| 2 会社・団体・個人などに雇われている（アルバイト・パート等の臨時雇用） 28.2 | |
| 3 自営業 9.6 | 4 その他 — |

問 13 帰島後の、あなたの世帯の最も大きな収入源になる職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|--------------------------------------|----------------|------------|
| 1 農林業 1.9 | 2 漁業・水産加工業 3.0 | 3 建設業 14.8 |
| 4 運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業 3.6 | | |
| 5 観光産業（飲食店、卸・小売、民宿、サービス業） 5.8 | | |
| 6 観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業 8.5 | | |
| 7 公務員 9.1 | 8 その他 1.4 | |
| 9 年金 45.1 | 10 なし 6.0 | |

無回答 0.8

▶ 問 13-1 （問 13 で「1」～「8」とお答えの方にお聞きします）

その就業の形態はどのような形態ですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|--|---------|
| 1 会社・団体・個人などに雇われている（常時雇用されている） 57.7 | |
| 2 会社・団体・個人などに雇われている（アルバイト・パート等の臨時雇用） 6.9 | |
| 3 自営業 34.3 | 4 その他 — |

無回答 1.1

問 14 あなたのお宅の経済状況は、噴火前と比べるとどの程度（何%くらい）元に戻ったと思いますか。噴火前を 100%としてお答えください。

平均 59.8	%
---------	---

問 15 今後の生計の見通しはいかがですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | |
|------------------------------|
| 1 噴火の前より、相当楽になりそうだ — |
| 2 噴火の前より、やや楽になりそうだ 1.1 |
| 3 噴火の前と、ほぼ同程度の暮らしができそうだ 28.3 |
| 4 噴火の前より、少し苦しくなりそうだ 41.8 |
| 5 噴火の前より、相当苦しくなりそうだ 28.3 |

無回答 0.5

◎ ご自宅の再建についてお伺いします。

問 16 噴火前のあなたのお住まいは、持家でしたか。それとも借家等でしたか。あてはまるものを1つお選びください。

1 持家 87.4

2 借家 3.3

3 社宅 1.6

4 村営住宅 7.4

無回答 0.3

▶ 問 16-1 (問 16 で「1 持家」とお答えの方にお聞きします)

▶ 問 16-2 へ

ご自宅の再建について、どのように考えていますか。あてはまるものを1つお選びください。

- 1 大きな被害を受けたが、補修して住んでいる 45.0
- 2 大きな被害を受けたので、今の場所で建て直したい 1.6
- 3 大きな被害を受けたので、別の場所で建て直したい 1.3
- 4 被害が小さかったので、補修中または補修を終えている 32.7
- 5 村営住宅に入りたい 1.6
- 6 その他 6.0
- 7 被害がないので再建の必要はない 11.0

無回答 0.9

問 16-2 (問 16 で「2」～「4」とお答えの方にお聞きします)

今後のお住まいについて、どのように考えていますか。あてはまるものを1つお選びください。

- 1 現在住んでいるところに住み続けたい 64.4
- 2 別の借家等に住み替えをしたい 11.1
- 3 新しく自宅を建てたい 11.1
- 4 村営住宅に入りたい 11.1
- 5 その他 -

無回答 2.2

問 17 今後、ご自宅について特に心配されることはどのようなことですか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

- 1 補修や再建に費用がかかること 52.5
- 2 補修や再建しても火山ガス等による被害の拡大が考えられること 36.3
- 3 補修や再建が自力ではできないこと 14.3
- 4 元々住み慣れていた地区に住むことができないこと 2.7
- 5 土地を購入する費用がないこと 2.2
- 6 地区のまとまりが噴火前のように戻るかどうかということ 21.7
- 7 その他 4.4
- 8 特にない 16.5

無回答 4.1

◎ 復興についてお伺いします。

問 18 現在の復興状況に対して、次の a) ～ q) の項目について、ご意見をお聞かせください。

	非常に重要	まあ重要	どちらとも いえない	あまり 重要ではない	重要ではない	無回答
a) 就労に対する支援	50.5	16.5	17.9	1.9	9.9	3.3
b) 産業や事業に対する支援	56.9	16.8	16.2	2.2	3.6	4.4
c) 道路等の整備	31.0	27.2	14.3	12.6	10.2	4.7
d) 港湾・空港などの整備	82.7	9.9	4.4	0.3	0.5	2.2
e) 公民館・病院などの公共施設の整備	72.0	15.7	7.4	1.6	0.8	2.5
f) 上下水道の整備	48.9	20.3	13.2	6.3	6.9	4.4
g) 泥流、火山ガス、火山噴火など今後の災害への対策	64.8	17.0	10.2	2.2	2.5	3.3
h) 子どもの教育費に対する支援	35.7	20.9	22.5	3.0	12.1	5.8
i) 健康保険や年金などの保険料免除の支援	44.5	20.9	22.5	3.6	4.9	3.6
j) 電気、ガスなどの基本料金免除の支援	34.3	21.7	23.6	7.7	9.1	3.6
k) 住宅ローンの利子補給	24.7	14.0	31.6	5.8	18.1	5.8
l) 税の減免	39.6	21.4	22.8	5.5	6.6	4.1
m) 医療費への補助	53.6	21.2	13.5	3.6	4.1	4.1
n) 不足する生活費に対する直接支援	32.4	20.1	25.0	7.4	10.4	4.7
o) 福祉サービスの充実	59.6	19.0	13.7	2.2	1.4	4.1
p) 地域のまとまり（コミュニティ）づくり	51.9	22.8	15.4	3.6	2.7	3.6
q) 住宅の補修や再建への補助	58.2	21.4	10.2	4.4	2.2	3.6

問 19 全般的に、現在の復興の状況に対して、あなたはどの程度満足していますか。あてはまるものを1つお選びください。

1 非常に満足 4.7	2 やや満足 23.4	3 どちらともいえない 28.6
4 やや不満 23.4	5 非常に不満 18.1	

無回答 1.9

問 20 三宅島の将来像について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|---|--------------------------|------|
| 1 | 今まで通り、農林水産業と観光の島にすべきだ | 57.7 |
| 2 | 今まで以上に、農林水産業の島にすべきだ | 12.4 |
| 3 | 今まで以上に、観光の島にすべきだ | 17.9 |
| 4 | 農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ | 6.0 |
| | (→新しい産業を具体的に： |) |
| 5 | その他 | 1.9 |

無回答 4.1

問 21 あなたは三宅島の復興についてどの程度期待していますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | | | | |
|---|------------|------|---|------------|------|
| 1 | 期待している | 31.9 | 2 | ある程度期待している | 35.2 |
| 3 | あまり期待していない | 24.7 | 4 | 期待していない | 7.4 |

無回答 0.8

問 22 あなたは三宅島の地域のまとまりについて、噴火前と比べてどう思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|---|-----------------------------|------|
| 1 | 噴火前以上に、地域のまとまりを取り戻すだろう | 17.0 |
| 2 | 噴火前と同じ程度まで、地域のまとまりを取り戻すだろう | 42.6 |
| 3 | 噴火前のような地域のまとまりを取り戻すのは難しいだろう | 39.6 |

無回答 0.8

◎ あなたのお考えについてお伺いします。

問 23 噴火の前と比べると、あなたは現状をどのようにお感じになりますか。次の a) ～ e) のことがらについて、それぞれ 1 つずつお選びください。

	良 く な っ た	やや良 く な っ た	ど ち ら と も い え な い	やや悪 く な っ た	悪 く な っ た	無 回 答
a) あなたのお身体の健康面	3.0	5.5	44.0	24.7	21.2	1.6
b) あなたのお気持ちなど精神面	10.4	12.1	40.1	20.6	14.6	2.2
c) 家族との人間関係	19.2	12.6	58.2	5.2	2.5	2.2
d) 隣近所との人間関係	14.6	10.7	67.3	3.6	1.9	1.9
e) 島の経済活動	—	1.6	36.3	22.8	36.5	2.7

問 24 あなたは、次のような①～④の考え方について、噴火前と後では考え方に変化がありましたか。それぞれについて、あてはまるものを 1 つずつお選びください。

① 『自分の生活は自分で切り開く』

1 以前から思っていた 70.6	2 噴火を経験して強く思うようになった 22.3
3 噴火後もそう思わない 6.0	

無回答 1.1

② 『人間は助け合って生きていかなければならない』

1 以前から思っていた 73.6	2 噴火を経験して強く思うようになった 23.4
3 噴火後もそう思わない 2.5	

無回答 0.5

③ 『自然の偉大な力には逆らえない』

1 以前から思っていた 74.2	2 噴火を経験して強く思うようになった 23.4
3 噴火後もそう思わない 1.9	

無回答 0.5

④ 『災害対策を行うことによって、自然災害による被害は最小限に抑えることができる』

1 以前から思っていた 42.0	2 噴火を経験して強く思うようになった 30.2
3 噴火後もそう思わない 25.8	

無回答 1.9

問 25 自然災害の面で、土地の安全性に問題があった場合、次のような2つの考え方についてどう思いますか。①～②それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

① 『火山に関して多少危険であっても、慣れ親しんだ土地に暮らしたい』

1	そう思う	59.9	2	ややそう思う	24.2
3	あまりそう思わない	8.8	4	そう思わない	5.5

無回答 1.6

② 『火山に関して多少なりとも危険なら、できるならその土地を離れたい』

1	そう思う	8.0	2	ややそう思う	15.9
3	あまりそう思わない	25.0	4	そう思わない	48.9

無回答 2.2

問 26 自然災害が起こった場合、どのような形で生活を建て直していきべきだと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|---|-------------------------|------|
| 1 | 基本的に自助努力で行うべきだ | 20.1 |
| 2 | 基本的には地方の自治体が積極的に支援すべきだ | 10.7 |
| 3 | 基本的には政府が積極的に支援すべきだ | 51.1 |
| 4 | 国民全員で相互扶助するような制度をつくるべきだ | 14.6 |

無回答 3.6

問 27 現在、帰島されたことについてどう思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | | | | |
|---|-----------|------|---|---------------|------|
| 1 | 良かった | 53.6 | 2 | どちらかという良かった | 15.9 |
| 3 | どちらともいえない | 25.3 | 4 | どちらかという後悔している | 3.0 |
| 5 | 後悔している | 1.1 | | | |

無回答 1.1

問 28 あなたは三宅島に対して、どのような気持ちをお持ちですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | | | | |
|---|------------|------|---|-------------|------|
| 1 | 強い愛着を感じる | 73.6 | 2 | 少し愛着を感じる | 17.6 |
| 3 | あまり愛着を感じない | 5.2 | 4 | ほとんど愛着を感じない | 2.2 |

無回答 1.4

問 29 今後の三宅村の復興について、ご意見やご要望がありましたら、どんなことでも結構です。でお聞かせください。

◎ 最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。

F 1 あなたの性別をお答えください。あてはまるものを1つお選びください。

1 男性 45.6	2 女性 54.4
-----------	-----------

F 2 あなたの現在の年齢をお答えください。あてはまるものを1つお選びください。

1 20～29 歳 0.5	2 30～39 歳 5.2	3 40～49 歳 11.5	4 50～59 歳 19.2
5 60～69 歳 23.4	6 70～79 歳 29.1	7 80 歳以上 11.0	

F 3 あなたはどちらのご出身ですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 三宅島の出身 73.9	2 三宅島以外の出身 26.1
---------------	-----------------

F 4 噴火前、あなたはどちらにお住まいでしたか。あてはまるものを1つお選びください。

1 阿古 39.8	2 伊ヶ谷 5.5	3 伊豆 12.4	4 神着 10.7	5 坪田 31.6
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

F 5 あなたは噴火の前に、三宅島の外でお暮らしになったことはありますか。あてはまるものを1つお選びください。

1 ない 29.9
2 2年未満の間暮らしたことがある 6.0
3 2年以上5年未満の間暮らしたことがある 9.1
4 5年以上10年未満の間暮らしたことがある 13.5
5 10年以上の間、暮らしたことがある 39.8

無回答 1.6

ご協力ありがとうございました

個人情報の取り扱いには、厳重に管理し外部に出てご迷惑をおかけすることは一切ございません。
その点ご安心の上、お名前、ご住所、ご連絡先をお教えてください。

● お名前

● ご住所

● ご連絡先

付 2 サーベイリサーチセンターの業務案内

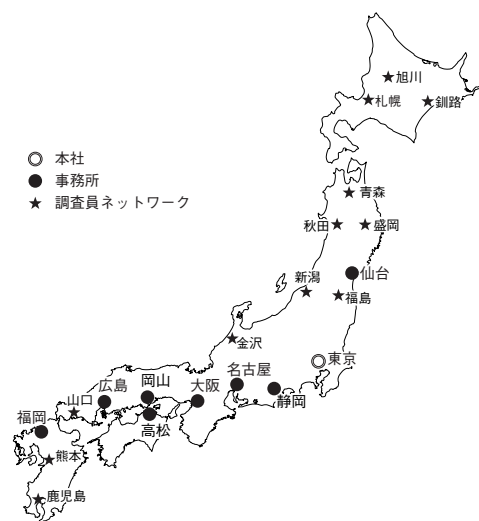
会社概要

商号 株式会社サーベイリサーチセンター
設立 昭和50年2月
資本金 6,000万円
年商 48億円（平成16年度）
代表者 代表取締役 藤澤士朗
社員数 180名
顧問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）
取引銀行 三井住友銀行 赤羽支店
百十四銀行 東京支店
みずほ銀行 尾久支店
東京三菱銀行 日暮里支店
UFJ銀行 上野支店
商工中央金庫 押上支店
所属団体 日本世論調査協会
日本マーケティングリサーチ協会
日本マーケティング協会
交通工学会
環境科学情報センター
日本災害情報学会他
その他 ISO9001認証取得
プライバシーマーク付与認定
建設コンサルタント登録

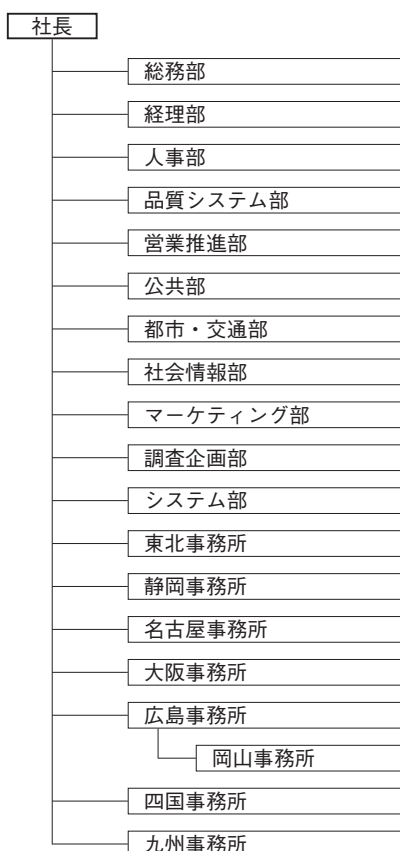
沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立
昭和51年6月 大阪事務所開設
昭和54年1月 静岡事務所開設
昭和61年9月 名古屋事務所開設
昭和63年4月 本社社屋竣工
平成2年4月 東北事務所開設
平成4年1月 広島事務所開設
平成5年6月 資本金を4,000万円に増資
平成9年3月 本社社屋増築
平成9年4月 九州事務所開設
平成10年4月 岡山事務所開設
平成12年7月 資本金を6,000万円に増資
平成15年4月 四国事務所開設

Network



組織図



●三宅島帰島住民アンケート調査

平成 17 年 5 月 9 日



帰島後厳しい生計

三宅島民
民間調査 経済、噴火前の60%

「帰島してよかった半面、生計の見通しは苦しい」。噴火による全島避難が2月に解除され、伊豆諸島・三宅島に戻った人の大半が、そんな思いを抱いている。民間の調査会社「サーベイリサーチセンター」（本社・東京都荒川区）が4月末、帰島民に初めて実施したアンケートでわかった。

アンケートは503世帯を訪問し、364世帯の世帯主またはそれに準ずる人から回答を得た。

噴火前の経済状況を100%とすると、回答の平均は「60%」だった。「変化がない」は4人に1人とまり。噴火前と比べた生計の見通しは、「少し苦しくなりそう」が42%、「相当苦しくなりそう」が28%で、合わせて7割を占めた。

現在の不安（複数回答）については「火山ガスの発生」が57%と、半数を超えた。回答者の6割以上が60歳以上で、「医療体制・設備」（48%）、「自分や家族の健康悪化」（42%）など医療面での不安も目立った。火山ガス警報が出て避難する必要がある場合、「おそらく避難できない」と答えた人は18%いた。理由として「避難場所が遠い」「家族に小さな子供や病人がいる」などが挙げられた。

一方、さまざまな不安を抱えながらも、「帰島してよかった」と思う人が54%いた。「どちらかというとよかった」を含めると7割近くを占め、「後悔している」人は1%しかいなかった。

平成 17 年 5 月 19 日



高齢化進み課題も

45%が年金暮らし

3人に2人が60歳以上、半数近くが年金暮らし。三宅島で、高齢化が進んでいる実態が、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」（荒川区西日暮里）が4月末、帰島した島民に行った調査で分かった。

調査期間は4月22～25日。帰島したとみられる島内の家屋503軒を回り、世帯主など364人から回答を得た。

それによると、60歳以上が3人に2人を占め、80歳以上が1割を超えた。世帯の主な収入源を聞いたところ、最も多かったのが「年金」だった。噴火前は25%だったが、避難生活中に40%、帰島後は45%と増え続けている。

また、火山ガスが高濃度に達し、警報が発令された場合の対応について、「おそらく避難できない」と答えた人が18%いた。理由を聞いたところ、「避難場所が遠い」が4割、「家族に小さな子どもや病人がいる」が3割、「どこに避難すればよいかわからない」が2割いた。

噴火前と比べた今後の生計の見通しは、「苦しくなる」が7割を占めた。それでも、帰島したことをきっかけに「よかった」と答えた。

読賣新聞 帰島「良かった」7割

三宅 「生計苦しくなる」も7割

島への愛着は感じるが、生計の見通しは厳しい。帰島が本格化し、今月から観光客の受け入れが始まった三宅島（三宅村）の帰島者を対象とした初めてのアンケート調査がまとまり、こんな結果が浮き彫りになった。

民間会社が調査

調査は民間調査会社「サベイリサーチセンター」（荒川区）が4月22日～25日、島内で調査に応じた364世帯を対象に実施。帰島前後の意識の変化や、家計の復興などについて、20歳以上の世帯主に面接で聞き取った。

それによると、帰島したことについて「良かった」が計69・5％と7割近くを上り、島への愛着も「強い愛着を感じる」が計9割を超えた。

一方で、現在の不安（複数回答）については、「火山ガスの発生」56・9％、「自分や家族の健康の悪化」41・8％など、有毒な火山ガスの放出が続く島内の現状に対する不安がにじんでいる。

また、回答者の半数以上が60歳以上で収入源を年金とする世帯は45％を占めた。このため、今後の生計については、噴火前より「相対苦しくなりそう」「少し苦しくなりそう」が合わせて7割に達した。

このほか、復興に関する質問では、9割を超える人が港湾・空港などの整備を「重要」と回答した。火山ガスの高濃度地区内にある三宅島空港は現在、救急患者などの搬送時以外は使用されておらず、東京・竹芝桟橋から約6時間要する定期便の利用が続く状況が背景とみられる。

アンケート結果について、平野祐康村長は、「島民の思いがなおむね反映されたものと思う。帰島して間もない段階で不安もあるだろうが、観光を柱に、苦しい時期を何とか乗り越えていきたいと話している。

●福岡県西方沖の地震に関するアンケート調査

平成17年4月14日

「地震起きると思わず」9割

3月20日の福岡沖地震で震度6弱の強い揺れに襲われた福岡市民の約6割が、大きな地震が身近に起きるとは「全く思っていなかった」と答えていたことが、民間調査会社のインターネットを通じてアンケートで分かった。九州北部は地震が比較的少ないとされていたが、防災意識がもっと高ければ、被害を小さくできた可能性もある、と専門家はみている。

福岡市民349人に「5割備えず

サベイリサーチセンター（本社・東京都荒川区）が3月28日から5日間、福岡市の349人にアンケートした。

「この地域で大きな地震が起きると思っていたか」という問いに、58・7％の人が「全く思っていなかった」と答えた。「あまり思っていなかった」（28・7％）とあわせて、9割近くの人が切迫した危機感を抱いていなかった。一方、「ある程度思っていた」は10・0％、「思っていた」は2・6％だった。

地震前の備えについては、「何もしていない」が47・9％を占めた。「耐震診断をした」は0・6％、「家具が倒れないよう固定していた」は6・6％にとどまった。

総務省消防庁の13日現在のまとめでは、この地震で住宅約1500棟が全半壊、1人死に、約1千人が重軽傷を負った。中村功・東洋大教授（災害情報論）は「今回の規模の地震はどこでも起きる可能性がある。家具の固定など基本的な対策をしていれば被害はもっと少なかっただろう」と話している。



防災、防災計画関係の実績一覧

平成 17 年 5 月

防 災

阪神・淡路大震災に関する調査<第 1 回目>	自主企画調査	7 年	富士山噴火についての住民意識調査	東京大学社会情報研究所	15 年
阪神・淡路大震災に関する調査<第 2 回パネル調査>	自主企画調査	7 年	富士山噴火自治体調査	東京大学社会情報研究所	15 年
阪神・淡路大震災に関する調査<第 3 回パネル調査>	自主企画調査	9 年	東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査	東京大学社会情報研究所	15 年
芸予地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13 年	平成16年度民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査	東京大学大学院情報学環	16 年
静岡県中部地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13 年	「東海地震情報についての防災ビデオ」作成	東京大学大学院情報学環	16 年
宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	15 年	民間放送局の災害報道に関する調査	東京大学大学院情報学環	16 年
宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査	自主企画調査	15 年	新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査	東京大学大学院情報学環	16 年
福島県西方沖の地震についてのアンケート調査	自主企画調査	17 年	北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査	東洋大学	14 年
自動販売機の転倒防止に係る実態調査	埼玉県	15 年	安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	15 年
東海地震の情報体系と対応に関する住民意識調査	内閣府	16 年	苫小牧市民の火山防災意識調査	東洋大学	15 年
気象情報に関する満足度調査	気象庁	13～16 年	安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	16 年
気象予報士についての現況調査	気象庁	16 年	台風23号についての兵庫県豊岡市民アンケート調査	東洋大学	16 年
新潟県中越地震による地震動被害アンケート	気象庁	16 年	救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査	東洋大学	16 年
「消防庁危機管理演習（震災対策）参加者アンケート」集計	総務省消防庁	16 年	東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査	東洋大学	16 年
静岡県中部地震に関する耐震改修状況調査	総務省消防庁	15 年	新潟中越についての十日町市民アンケート調査	東洋大学	16 年
砂防施設計画検討調査	(財) 砂防・地すべり技術センター	11 年	旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査	東京経済大学	14 年
浅間山噴火についての住民アンケート	(財) 砂防・地すべり技術センター	16 年	家屋の耐震化に関するアンケート調査	東京経済大学	15 年
地下街利用者の災害に関する意識調査	(財) 河川情報センター	11 年	水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査	東京経済大学	16 年
活断層長期予測デルファイ調査	(財) 地震予知総合研究所	12 年	「新潟県中越地震」におけるライフラインについての住民アンケート調査	富士常葉大学	16 年
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査	(財) 日本気象協会	12・13 年	十勝沖地震緊急調査	東京経済大学	15 年
ナウキャスト地震情報の社会的影響調査	(財) 日本気象協会	15 年	災害弱者に関する調査	文教大学	10 年
富士山噴火情報についての自治体調査	(財) 日本気象協会	15 年	防災についてのアンケート調査	文教大学	10 年
緊急地震速報についての企業ヒアリング調査	(財) 日本気象協会	16 年	家屋等の耐震化に関する住宅調査	(財) 人と防災未来センター	14 年
災害体験についての「ヒヤリハット」調査	(独) 防災科学技術研究所	14 年	東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における津波対策調査	(財) 人と防災未来センター	16 年
水害ハザードマップ調査	(独) 防災科学技術研究所	15 年	風水害時における自治体の災害対応に関する調査	(財) 人と防災未来センター	16 年
福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および災害体験アンケート調査	(独) 防災科学技術研究所	15 年	街頭設置消火器実態調査	東久留米市	12 年
名古屋市西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査	(独) 防災科学技術研究所	16 年	東海地震についての県民意識調査	静岡県	3・5・7・9・11・13 年
新潟豪雨についての住民アンケート	(独) 防災科学技術研究所	16 年	民間事業所の地震防災応急対策調査	静岡県	3・5・7 年
消防団員の公務災害・健康増進についての調査	消防基金	9 年	自主防災リーダーマニュアル作成	静岡県	8 年
消防団員の安全教育・訓練に関する調査	消防基金	10 年	静岡県職員アンケート	静岡県	8 年
消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査	消防基金	11 年	地域防災アンケート	静岡県	10・14・15 年
阪神大震災における被災者の生活と意識に関する調査	N H K 放送文化研究所	7 年	防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査	静岡県	15 年
東海豪雨災害に関する被災者の意識調査	N H K 放送文化研究所	12 年	防犯まちづくりアンケート調査	静岡県	15 年
有珠山避難者アンケート調査	N H K 放送文化研究所	12 年	家具の耐震技術アンケート調査	静岡県工業技術センター	8 年
東京都民の災害に関するアンケート調査	N H K 報道局	14 年	防災についての市民意識調査	浜松市	7 年
新潟県中越地震に関する住民調査	N H K 放送文化研究所	16 年	静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート	(財) 静岡総合研究機構	13 年
新潟豪雨災害に関する住民調査	N H K 報道局気象災害センター	16 年	震災 5 年後意識調査	N H K 大阪局	11 年
地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート	N P O 環境防災総合政策研究機構	16 年	阪神淡路大震災に関する住民意識調査	N H K 神戸局	16 年
新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査	N P O 環境防災総合政策研究機構	16 年	阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13・15・16 年
仮設住宅居住者の意識と実態についての調査	朝日新聞社	7 年	広域連携についてのアンケート調査及び災害 N P O アンケート調査	朝日新聞社	14 年
震災ボランティア活動に関するアンケート調査	朝日新聞社	7 年	阪神・淡路大震災 8 年後の被災者意識調査	朝日新聞社	14 年
阪神大震災 2 年後の住民意識調査	朝日新聞社	8 年	災害に関する市民意識調査	三田市	7 年
阪神大震災後の仮設住宅居住者意識	朝日新聞社	8 年	防災に関する市民意識調査	岡山市	7 年
阪神大震災 3 年後の住民意識調査	朝日新聞社	9 年			
災害等に関する意識調査	朝日新聞社	13 年	地域防災計画策定	波崎町	8 年
阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13 年	地域防災計画策定	豊富村	9 年
自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査	朝日新聞社	13 年	東海地震についての防災講演企画画運営	静岡県	7 年
災害写真データベース作成	東京大学	12 年	掛川新市地域防災計画及び行動マニュアル策定	掛川市	16 年
富士山噴火住民アンケート	東京大学	13 年	地域防災計画修正	掛川市	12 年
安全観についての住民意識調査	東京大学	14 年	伊豆市地域防災計画策定	伊豆市	16 年
火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査	東京大学	14 年	防災計画策定	河津町	7 年
災害や事故が社会生活に与える影響調査	東京大学	14 年	地域防災計画策定	伊豆長岡町	8 年
災害情報に対する民間企業の対応調査	東京大学	14 年	防災パンフレット作成	伊豆長岡町	9 年
自治体の火山噴火についての地域防災計画画調査	東京大学	14 年	地域防災計画修正	伊豆長岡町	14 年
富士山噴火による企業影響調査	東京大学	14 年	地域防災計画策定	修善寺町	8 年
住民の対応と情報の伝達についての調査—神戸・塚原市編—	東京大学社会情報研究所	7 年	防災キャンペーンイベント企画運営	土肥町	7 年
住民の対応と情報の伝達についての調査—西宮・芦屋市編—	東京大学社会情報研究所	7 年	防災計画策定	土肥町	7 年
過密空間における人間行動意識に関する調査	東京大学社会情報研究所	9 年	防災マニュアル策定	土肥町	8 年
帰宅難民対応についての事業所調査	東京大学社会情報研究所	10 年	地域防災計画修正	土肥町	15 年
大地震発生時の東京都民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	10 年	地域防災計画策定	榛原町	8・13 年
平成 1 0 年 8 月集中豪雨災害についての調査	東京大学社会情報研究所	10 年	域防災計画修正	榛原町	14 年
河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査	東京大学社会情報研究所	11・12 年	地域防災計画修正	吉田町	12 年
東海川臨界事故時の行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	11 年	地域防災計画策定	金谷町	8 年
東京都「広域避難所」の管理体制についての調査	東京大学社会情報研究所	11 年	地域防災計画策定	水窪町	8 年
防災用語についてのアンケート	東京大学社会情報研究所	11 年	地域防災計画策定	舞阪町	8 年
三宅島噴火による住民の避難生活に関する調査	東京大学社会情報研究所	12 年	地域防災計画策定	細江町	8 年
東海水害被災者調査	東京大学社会情報研究所	12 年	職員初動マニュアル作成	東郷町	14 年
有珠山噴火による住民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	12 年	防災マップ作成	東郷町	14 年
「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査	東京大学社会情報研究所	13 年	地域防災計画策定	東郷町	13・14 年
「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年	地域防災計画策定	西春町	15 年
B S E（狂牛病）についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年	防災新聞作成	西春町	15 年
芸予地震に関する住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年	地域防災計画等修正	甚目寺町	15 年
環境安全についての住民アンケート	東京大学社会情報研究所	14 年	防災に関する講演会	甚目寺町	15 年
2 0 0 3 年 5 月宮城県沖を震源とする地震住民調査	東京大学社会情報研究所	15 年	洪水ハザードマップ作成	甚目寺町	16 年
火山周辺自治体の地域防災計画内容分析	東京大学社会情報研究所	15 年	地域防災計画等修正	甚目寺町	14 年
火山噴火災害についての観光企業アンケート調査	東京大学社会情報研究所	15 年	自主防災組織活動マニュアル作成	二見町	15 年
宮城県北部地震に関するアンケート	東京大学社会情報研究所	15 年	職員災害初動マニュアル等作成	二見町	15 年

三宅島帰島住民アンケート調査

平成 17 年 5 月

株式会社 サーベイリサーチセンター

(本 社)	〒116 - 8581	東京都荒川区西日暮里 2 - 40 - 10
	TEL	03 - 3802 - 6711 (代)
	FAX	03 - 3802 - 6730
(社会情報部)	TEL	03 - 3802 - 6716
	FAX	03 - 3802 - 6738

本書の記載内容の無断転載を禁ず。

なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、

社会情報部 中島宛 (E mail : naka_r@surece.co.jp)にお申し出ください。



株式会社 **サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO., LTD.

本社
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号 〒116-8581
TEL : (03)3802-6711 (大代表) / FAX : (03)3802-6730

東北事務所
仙台市青葉区二日町11番11号 〒980-0802
TEL : (022) 225-3871 (代) / FAX : (022) 225-3866

静岡事務所
静岡市葵区呉服町1丁目6番11号 〒420-0031
TEL : (054) 251-3661 (代) / FAX : (054) 252-6544

名古屋事務所
名古屋市中村区名駅3丁目8番7号 〒450-0002
TEL : (052) 561-1251 (代) / FAX : (052) 561-1254

大阪事務所
大阪市北区天満橋1丁目8番30号 〒530-6011
TEL : (06) 4801-9231 (代) / FAX : (06) 4801-9233

岡山事務所
岡山市大供2丁目1番1号 〒700-0913
TEL : (086) 226-8031 (代) / FAX : (086) 226-8030

広島事務所
広島市中区鉄砲町9番10号 〒730-0017
TEL : (082) 227-7511 (代) / FAX : (082) 227-7558

四国事務所
高松市塩屋町8番1号 〒760-0047
TEL : (087) 811-2671 (代) / FAX : (087) 821-0933

九州事務所
福岡市博多区博多駅前3丁目30番26号 〒812-0011
TEL : (092) 411-8811 (代) / FAX : (092) 411-8851

ホームページ <http://www.surece.co.jp/>

